

**消費者保護のための啓発用デジタル教材を活用した
調査実証事業**

<実証・調査事業報告書>

令和4年3月30日
消費者庁新未来創造戦略本部

< 目 次 >

1 目的	1
2 概要	2
2.1 概要.....	2
2.2 実施スケジュール	2
2.3 デジタル教材の制作概要	3
2.4 実証概要	3
2.5 実施体制	4
3 有識者会議	6
3.1 有識者会議.....	6
3.2 分科会	7
4 啓発用デジタル教材	8
4.1 啓発用デジタル教材	8
4.1.1 授業シナリオ・研修シナリオ	10
(1) 授業シナリオ.....	10
(2) 研修シナリオ.....	13
4.1.2 動画	15
4.1.3 その他デジタル教材（アプリ／e ラーニング）	17
(1) アプリ	17
(2) e ラーニング	18
4.1.4 授業用教材（テキスト教材／ワークシート、教師用指導手引書）	19
(1) テキスト教材.....	20
(2) ワークシート	20
(3) 教師用指導手引書.....	20
4.2 操作マニュアル.....	21
4.2.1 操作説明書（教師用）	21
4.2.2 操作説明書（企業・管理者向け）	21
5 啓発用デジタル教材に係る実証事業	22
5.1 高等学校における実証授業	22
5.1.1 実証概要	22
5.1.2 実証準備	23
5.1.3 システム構成	23
(1) web ポータルサイト	24
(2) 端末	25
(3) アンケート	25
5.1.4 授業シナリオ	25
5.1.5 実証授業準備	25
(1) 教師研修	25
(2) 遠隔授業事前打合せ	26

5.1.6 実証授業	26
(1) 対面授業	27
(2) 遠隔授業	28
5.1.7 効果測定	29
(A) 生徒アンケート	29
(1) 授業前アンケート	30
(2) 授業後アンケート	32
(B) 教師を対象としたヒアリング	52
(1) 授業前ヒアリング	52
(2) 授業後ヒアリング	53
(C) 現地調査レポート	55
(1) 3 時限目 (城東高等学校)	55
(2) 2 時限目 (阿南光高等学校)	58
(D) 授業後座談会	60
(1) 3 時限目 (城東高等学校)	60
(2) 2 時限目 (阿南光高等学校)	61
5.1.8 効果検証	61
5.2 成年消費者向け研修	62
5.2.1 実証概要	62
5.2.2 実証準備	62
5.2.3 システム構成	62
(1) web ポータルサイト	63
(2) 端末	64
(3) アンケート	64
5.2.4 対象シナリオ	64
5.2.5 実証研修準備	64
5.2.6 実証研修	64
5.2.7 効果測定	65
(A) 従業員アンケート	65
(1) 研修前アンケート	65
(2) 研修後アンケート	67
(B) 企業担当者ヒアリング	76
5.2.8 効果検証	78
5.3 消費者向け情報配信	79
5.3.1 実証概要	79
5.3.2 システム構成	80
(1) 配信形態	80
(2) アンケート	80
5.3.3 配信動画	80
5.3.4 実証配信	80
5.3.5 効果測定	80
(A) 相談員アンケート	81
5.3.6 効果検証	84
5.4 ヘルプデスク	85

6 品質評価及び教材改修	86
6.1 品質評価	86
6.2 教材改修	87
7 まとめ、今後の課題・提言	89
7.1 事業まとめ	89
7.2 今後の課題・提言	89
8 参考資料	91
8.1 有識者会議概要	91
8.2 分科会概要	93

1 目的

近年、パソコンやスマートフォンを始め、多種多様なデジタル機器・サービスが生まれております、消費者の日常生活にも大きな変化をもたらしている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため「新しい生活様式」としてのテレワークやオンライン授業等の推進により、社会のデジタル化が加速する一方、デジタル技術に関する知識やデジタル機器・サービスを利用する能力（デジタルリテラシー）が十分でない消費者がトラブルに巻き込まれる可能性がある。消費者がデジタル技術の利便性をいかしながらも「トラブル防止・回避・解決」できるよう、デジタル機器・サービス等を適切に利用するための知識や能力を身に付けることが求められている。

このため、消費者庁（新未来創造戦略本部）では、「消費者保護のための啓発用デジタル教材開発に向けた有識者会議」を開催し、デジタル機器・サービスを用いた取引等による消費者被害の予防・拡大防止を図るために、若年者や社会人等の消費者がデジタル技術を用いて自ら知識を習得でき、さらに、消費者教育の現場でも活用可能なデジタル教材を開発するものである。

2 概要

本事業「消費者保護のための啓発用デジタル教材を活用した調査実証事業」では、主として、「実証事業のための啓発用デジタル教材等の制作」、「啓発用デジタル教材に係る実証事業の実施」の2つの事業を実施する。

2.1 概要

【実証事業のための啓発用デジタル教材等の制作】

実証事業の中で活用する動画コンテンツ、授業用及び研修用教材、その他デジタルコンテンツ及びWebポータルサイトを制作する。教材は、高等学校の授業及び成年向け研修での活用、及びケーブルテレビ配信によって消費者に提供することを前提とする。

【啓発用デジタル教材に係る実証事業の実施】

消費者の世代に合わせて制作された実証事業のための啓発用デジタル教材等の内容検証及び当該教材を活用した効果的な啓発手法の構築を目的として、①高等学校における実証授業、②成年消費者向け研修及び③消費者向け情報配信を内容とする実証事業を行う。



図 2-1 事業全体の流れ

また、実証にあたり「実証に関する有識者委員会の設置・運営」を行い、本事業を効果的・効率的なものとする。

2.2 実施スケジュール

本実証の全体スケジュールを以下に示す。

	令和3年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	2月	3月	4月～
有識者会議・分科会			第5回有識者会議 ・第1回分科会				第6回有識者会議 ・第2回分科会		第7回有識者会議 ・第3回分科会	第8回有識者会議 ・第4回分科会	
デジタル教材制作								教材確認・意見 集約期間		最終教材確認期間 ～3/25	
動画	要件定義	制作・編集			順次リリース			修正 内容 整理・ 検討	動画修正		
授業用教材	要件定義	授業用教材作成			順次リリース				授業用教材修正		
その他デジタルコンテンツ（アプリ）	要件定義	アプリ開発・検証			順次リリース				アプリ開発修正		
その他デジタルコンテンツ（eラーニング）	要件定義	仮制作		実験					eラーニング修正		
Webポータルサイト	要件定義	開発			公開		公開期間		停止		
実証事業	地域協議会、教育委員会等調整 研修・説明会準備	アンケート設計				ヘルプデスク運営			コンテンツの フィードバック 実施報告書作成		
高校での実証授業		実証2校との打ち合わせ、教員研修			実証前 アンケート	試験授業実施 実証後 アンケート					
成年消費者向けの研修		企業との打ち合わせ、教材説明会 研修前 アンケート			研修実施	研修後 アンケート					
消費者向け情報配信		CATV事業者打ち合わせ、 配信支援			配信	アンケート					

図 2-2 全体スケジュール

2.3 デジタル教材の制作概要

本実証では、消費者の世代に合わせた啓発用デジタル教材を制作した。

詳細については 4 章に記載する。

表 2-1 コンテンツの種類と制作本数

コンテンツ	制作本数
動画	13 本
アプリ	5 本
e ラーニング	2 本
テキスト教材	12 本
ワークシート	9 本

2.4 実証概要

消費者の世代に合わせて制作した啓発用デジタル教材等の内容検証、及び当該教材を活用した効果的な啓発手法の構築を目的として、①高等学校における実証授業、②成年消費者向け研修及び③消費者向け情報配信を内容とする実証事業を行った。

①高等学校における実証授業では、徳島県内の高等学校 2 校において、本事業で制作したデジタル教材を用いた家庭科の実証授業を実施した。

②成年消費者向け研修では、全国規模で事業活動を行う 2 社、徳島県内で事業活動を行う 2 社の計 4 社において、従業員に e ラーニングを使用した実証研修を実施した。

並行して、③消費者向け情報配信として、主に徳島県内の消費者向けに制作した動画の配信を行った。

詳細については5章に記載する。

表 2-2 実証授業対象高校

実証高校	所在地	生徒数
徳島県立城東高等学校	徳島県徳島市中徳島町 1-5	829名 (2021年5月時点) 男子 393名 女子 436名
徳島県立阿南光高等学校	徳島県阿南市宝田町今市中新開 10-6	508名 (2020年4月時点) 男子 393名 女子 115名

表 2-3 実証研修対象企業

実証企業	所在地	社員数	実証対象人数
パナソニック株式会社	大阪府門真市大字門真 1006 番地	243,540名	850名程度
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内 2-1-1	10,933名 ※内勤従業員数	1,155名
株式会社ときわ	徳島県徳島市下助任町 3-20-2	134名	20名
株式会社フジみらい	徳島県徳島市東沖洲 1-6-1	168名	10名程度

表 2-4 実証配信実施企業

実証企業	所在地	契約世帯数	実証番組枠
ケーブルテレビ徳島株式会社	徳島県徳島市新蔵町 1 丁目 17 番地	12万4千世帯	5分枠:30回 15分枠:22回

2.5 実施体制

本調査実証事業はエヌ・ティ・ティラーニングシステムズ株式会社（以下「NTT ラーニングシステムズ」という。）が消費者庁から受託し、本事業の事務局として全体の取りまとめを行った。

本事業の実施体制を下図に示す。

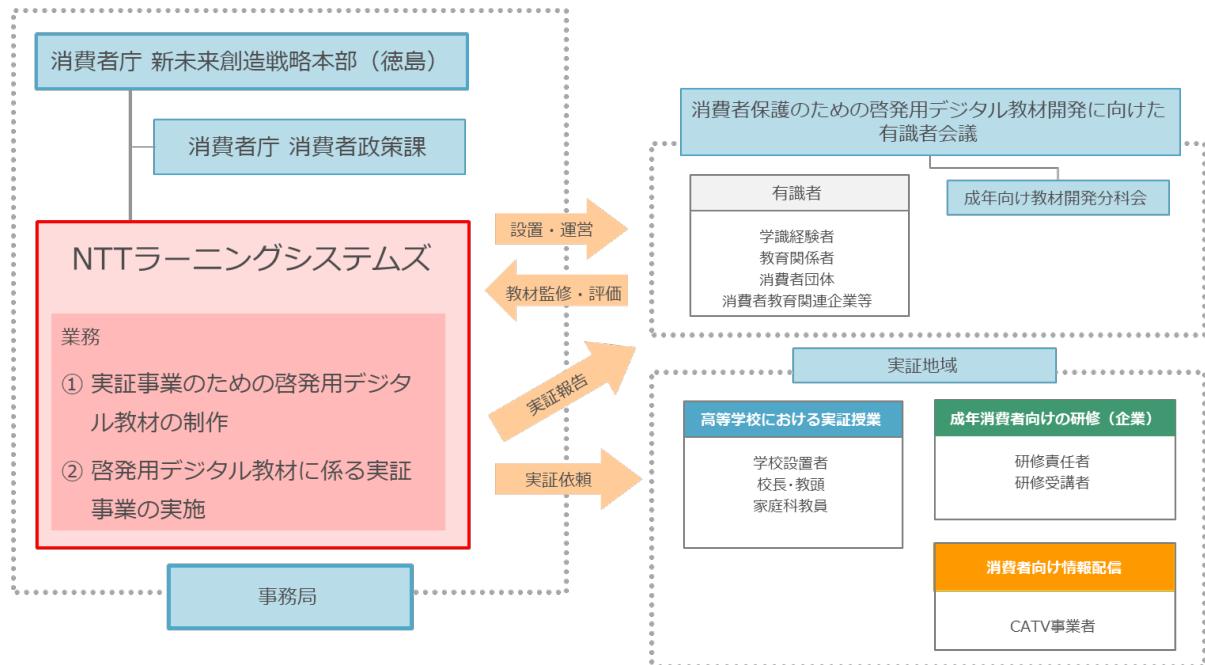


図 2-3 事業実施体制

徳島県の消費者庁新未来創造戦略本部を始めとした事務局が本事業の取りまとめを行い、実証等におけるヘルプデスクへの問合せがあった際は、NTT ラーニングシステムズが問合せへの対応を行った。

3 有識者会議

本事業をより効果的・効率的なものとするため、学識経験者、教育関係者、消費者関連団体及びICT企業の代表者等で構成する有識者会議を設置・運営し、制作したデジタル教材（動画コンテンツ、授業用教材、及びその他デジタルコンテンツ）の内容監修を含め、本事業に関する評価を受けることを目的として、4回の有識者会議を実施した。

上記のうち、成年消費者向け教材に関する部分については、有識者会議の下に分科会を設けて、同じく4回の分科会を実施した。

3.1 有識者会議

有識者会議の構成員を表3-1に示す。

表3-1 有識者会議 構成員

氏名	所属・役職
阿部 千明	徳島県消費者情報センター 消費生活相談員
稻倉 典子	四国大学経営情報学部経営情報学科 准教授
齋藤 良和	株式会社メルカリ 政策企画
坂倉 忠夫	公益社団法人消費者関連専門家会議 専務理事
坂本 有芳 (座長)	鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授
坪田 郁子	公益社団法人全国消費生活相談員協会 専務理事
西尾 勇氣	一般財団法人LINEみらい財団 事業推進部長
西村 陽子	徳島県立阿南光高等学校 教諭
阪東 哲也	鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授
山本 尚子	徳島県立城東高等学校 教諭

(敬称略、五十音順。肩書は令和4年3月30日現在)

3.2 分科会

分科会の構成員を表 3-2 に示す。

表 3-2 分科会 構成員

氏名	所属・役職
阿部 千明	徳島県消費者情報センター 消費生活相談員
坂倉 忠夫 (座長)	公益社団法人消費者関連専門家会議 専務理事
坂田 祥治	明治安田生命保険相互会社 お客さま志向統括部 お客さま志向統括グループ お客さま志向推進役
立石 聰明	一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会 副会長兼専務理事
田中 義雄	パナソニック株式会社 オペレーションエクセレンス社 C S 企画室 涉外担当主幹
坪田 郁子	公益社団法人全国消費生活相談員協会 専務理事
阪東 哲也	鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授

(敬称略、五十音順。肩書は令和4年3月30日現在)

4 啓発用デジタル教材

本事業では、消費者自身がデジタル社会における消費者トラブルから身を守るために、ライフステージの中で起こり得るリスクや必要な知識を学び、消費生活について考えるのを促すことを目的とした、「消費者保護のための啓発用デジタル教材」を制作した。

本章では制作した教材の詳細について述べる。

4.1 啓発用デジタル教材

本事業で制作した教材は、特に「基本的な知識や能力を身に付けること」という消費者教育の入口部分を啓発するものとして制作した。

教材制作における、表現についての全体コンセプトは以下のとおりである。

◆ 世代を問わないデザインの採用

本教材のターゲットは、高校生と成年（若年者から中高年者）までと幅広いため、教材のイラストや図表は、世代問わず受け入れられやすい、シンプルなトーン＆マナーで構成する。セリフは、親近感の沸きやすい口語調なども取り入れている。

また、若年者層（本事業では主に20代～30代を想定）は文字量の多いコンテンツを避ける傾向にあり、また、中高年者層（本事業では主に40代～50代を想定）は小さな文字が読みづらい傾向が指摘されていることを意識して教材を制作する。全教材で、書体のサイズを極力大きく、文字数を極力減らしたテキストにし、読み物を苦手とする方にも易しいデザインを目指す。

◆ デジタルデバイスでの利用を想定した教材

デジタルの良さをいかし、視覚的に理解しやすいよう、動画の活用や、疑似体験ができるアプリ等、フレキシビリティを前面に出した教材を制作する。PCに限らず、スマートフォンやタブレットといったデジタルデバイスでの視聴にも対応する。



図 4-1 キービジュアル

これらの全体コンセプトに基づき、有識者会議委員の監修の下各種デジタル教材を制作した。
以下は実証時点での教材一覧である。

●教材の一覧（全体像）

【高校生向け】

テーマ	教材No.	教材名
【1時間目】 情報の収集・比較と意思決定	PPT11	学習目標_自分が主役の消費生活=主体的な意思決定の力を磨くには?
	アフ01	チェックしよう!「だまされやすい」の心理傾向
	PPT01	意思決定のプロセスを理解しよう
	PPT02	主体的な意思決定が妨がられる場面を知ろう
	動画04	インターネット広告の仕組みや注意点とは?
	ワークシート01	契約前に必ずしよう! ~情報の収集と比較~
【2時間目】 購入と契約	PPT12	学習目標_デジタル時代の購入方法とルールを理解しよう
	ワークシート02	返品可能か考えよう! ルール上、契約はやめられる?
	PPT03	契約の基礎を確認~なぜ返品できたり、できなかつたりするの? ~
	動画01	電子商取引の契約とは
	アフ03	デジタル取引を体験しよう
	ワークシート09	まとめよう! 小売取引トラブルを防ぐための注意点
【3時間目】 支払いと信用取引	PPT13	学習目標_支払い方法の特徴と仕組みを理解しよう
	ワークシート03	確認しよう! 自分や身近な人が使っている支払い方法
	動画06-01	クレジットカードの特徴と注意点とは?
	動画06-02	キャッシュレス決済の種類と仕組みを理解しよう
	ワークシート04	説明しよう! 決済手段の注意点
	ワークシート10	振り返ろう! 契約の基礎知識
【4時間目】 消費者の権利と責任	PPT14	学習目標_契約後に生じた問題、どう対応すればよいだろうか?
	動画12	消費者を保護する制度を知ろう
	PPT05	トラブルから消費者を守る制度を理解しよう
	ワークシート05	考え方! トラブル事例の対応方法
	動画11	消費生活センターの役割と相談の仕方を知ろう
	PPT16	理解を深める自習教材~消費者トラブルのない社会に向けて~

テーマ	教材No.	教材名
【5時間目】 生涯を見越した経済の管理	PPT15	学習目標_限られるお金を、人生で最大限に活用するには?
	PPT07	生活設計_収入と支出、家計の管理方法を理解しよう
	ワークシート07	マネープランシートを作成し、生活設計を学ぼう!
	PPT09	保険とローンを理解しよう~30代以降の生活設計~
	ワークシート11	学習のまとめ
	アフ04	ローン利用をシミュレーションしよう
アフ05	アフ05	今後の10年のライフプランを体験しよう
	アフ02	クイズで確認_消費生活の基礎知識

【成年向け】

種類	教材No.	教材名
eラーニング	アフ06	eラーニング① 若年者層向け
	アフ07	eラーニング② 中高年層向け
動画 (高校生/成年共通)	動画07	若者に多いトラブルについて
	動画08	投資などのお金に関するトラブルや悪質商法について
動画 (成年向け)	動画09	定期購入トラブル
	動画02	デジタルプラットフォームの仕組み、注意点、トラブルに遭った時の対応
	動画03	CtoC取引と注意点
	動画05	お金の管理（収支予算の算出、多重債務）
	動画10	製品の安全性（通販による海外取引など）

図 4-2 教材一覧

以降、詳細な説明を記載する。

4.1.1 授業シナリオ・研修シナリオ

高等学校における実証授業及び成年消費者向け研修において、家庭基礎指導計画モデルをベースに有識者のアドバイスを受けながら、各世代に合わせた授業シナリオ及び研修シナリオを作成し、そのシナリオの内容に沿って本実証を行った。

(1) 授業シナリオ

各時限のテーマ、主な学習内容及び評価の観点を「表 4-1 授業シナリオ」に示す。また、「導入・展開・まとめ」の流れで授業が進行するように(a)～(e)のモデルプランを作成した。

表 4-1 授業シナリオ

時限／テーマ	主な学習内容	評価の観点
1 時限目／情報の収集・比較と意思決定	<ul style="list-style-type: none">消費行動における意思決定の重要性生活情報の収集・多面的な比較と検討	<ul style="list-style-type: none">財・サービスを購入する際に、多面的な観点から比較検討ができる。(知識・技能)批判的思考に基づいて主体的に意思決定し、まとめたり、発表したりしている。(思考・判断・表現)
2 時限目／購入と契約	<ul style="list-style-type: none">契約の重要性電子商取引での契約B to C と C to C の留意点	<ul style="list-style-type: none">電子商取引における契約の特徴を知り、契約の原則や消費生活における多様な契約と電子商取引での契約の留意点を理解している。(知識・技能)契約のタイミングを理解し、責任ある契約の仕方を考えることができる。(思考・判断・表現)
3 時限目／支払いと信用取引	<ul style="list-style-type: none">キャッシュレス決済信用取引	<ul style="list-style-type: none">現金以外の支払い手段について、仕組みと特徴を理解している。(知識・技能)信用取引の特徴と留意点について理解している。(思考・判断・表現)
4 時限目／消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none">消費者保護制度製品事故の予防と対応消費者相談窓口の活用	<ul style="list-style-type: none">特に未成年・成年の法律上の責任の違い（未成年者取消権の有無）について理解するとともに、クーリング・オフ、消費者契約法など消費者保護制度について理解している。(知識・技能)製品の安全性確保の取組を理解するとともに、安全確保のために消費者が取るべき行動を考えることができる。(思考・判断・表現)
5 時限目／生涯を見越した経済の管理	<ul style="list-style-type: none">経済の管理と計画の重要性収支の管理貯蓄と借入	<ul style="list-style-type: none">生活設計・マネープランゲームを通して、人生における収入と支出の関係に気付き、その関係について考えられている。(主体的に学習に取り組む態度)家計における支出の種類や貯蓄について知り、自分の生活と経済の関わりについて理解している。(知識・技能)

(a) 1 時限目 テーマ：情報の収集・比較と意思決定



図 4-3 1 時限目 テーマ：情報の収集・比較と意思決定

(b) 2 時限目 テーマ：購入と契約

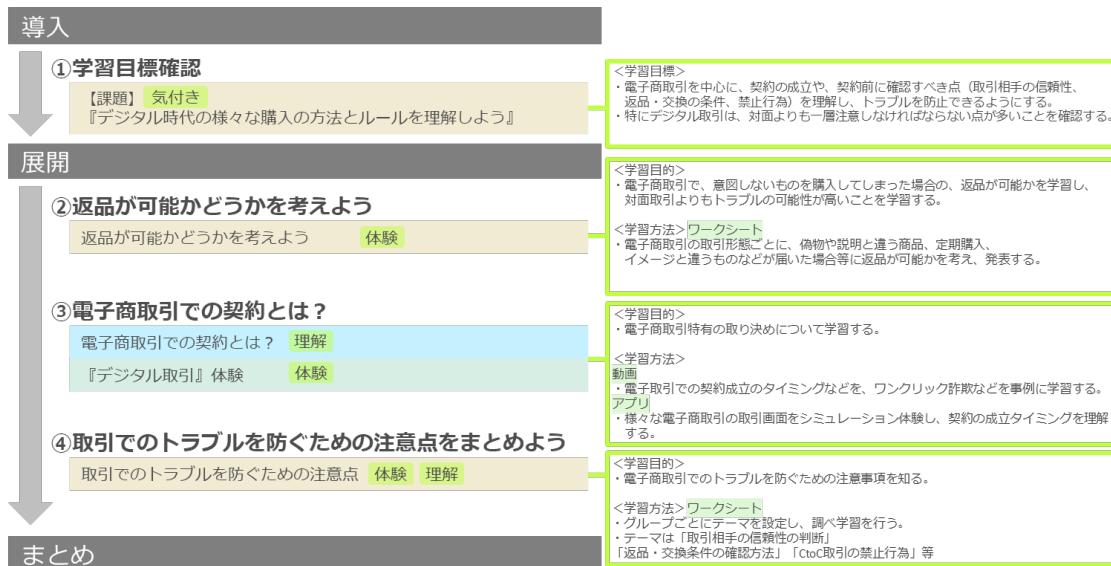


図 4-4 2 時限目 テーマ：購入と契約

(c) 3 時限目 テーマ：支払いと信用取引

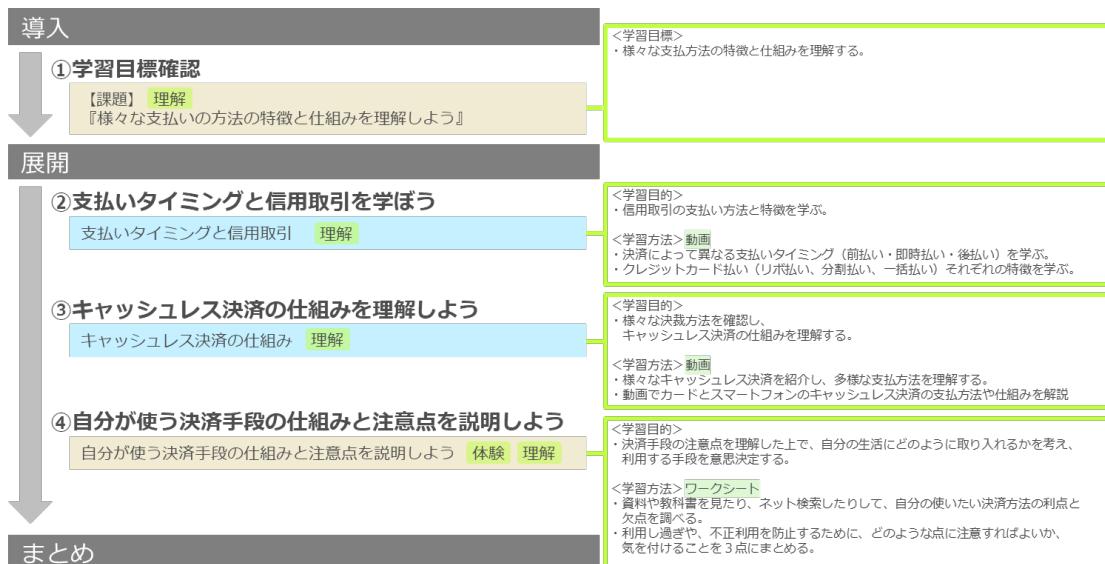


図 4-5 3 時限目 テーマ：支払いと信用取引

(d) 4 時限目 テーマ：消費者の権利と責任



図 4-6 4 時限目 テーマ：消費者の権利と責任

(e) 5 時限目 テーマ：生涯を見越した経済の管理



図 4-7 5 時限目 テーマ：生涯を見越した経済の管理

(2) 研修シナリオ

若年者、中高年者でそれぞれに合ったテーマを選択できるように2通りのe ラーニングを制作した。e ラーニングの対象者、主な学習内容及び研修の目的を「表 4-2 研修シナリオ」に示す。また、(a)及び(b)では、テーマ①、②、④、⑤を共通とし、テーマ③のみ受講者が自由に選択できるように構成した内容を示す。

表 4-2 研修シナリオ

対象者	主な学習内容	研修の目的
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・契約と取引 ・決済と信用取引 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約のタイミングを理解する。 ・電子商取引における契約、C to C 取引の特徴を理解する。 ※デジタルプラットフォームの仕組み、注意点、トラブル対応 ・キャッシュレス決済について、仕組みと特徴を理解する。 ・信用取引の留意点について理解する。
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者保護制度 ・消費者相談窓口の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・クーリング・オフ、消費者契約法など消費者保護制度を理解する。 ・消費者トラブルに遭った際の対応について理解する。 ※クーリング・オフの行使の仕方 ※消費生活センターへの相談の仕方
若年者	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定の失敗、多面的な比較と検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・財・サービスを購入する際に、多面的な観点から比較検討し、批判的思考に基づき主体的に意思決定することの重要性を理解する。 ※若年者層に多い消費者トラブル事例と対応策紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・悪質商法：マルチ商法や情報商材、副業サイト ・定期購入トラブル：化粧品や有料アプリのサブスク等

対象者	主な学習内容	研修の目的
中高年者	<ul style="list-style-type: none"> 生涯を見越した経済の管理 	<ul style="list-style-type: none"> 50歳代以降の生活設計・マネープランを通して、人生における収入と支出の関係について考える。 ※中高年者層に多い消費者トラブル事例と対応策紹介 退職金や年金に係る資産運用詐欺・トラブル ・悪質商法：マルチ商法や情報商材、副業サイト ・定期購入トラブル：健康食品のサブスク等

(a) 若年者層向け



図 4-8 若年者層向け研修シナリオ

(b) 中高年者層向け



図 4-9 中高年者層向け研修シナリオ

4.1.2 動画

動画は高校生向けに 1 本、成年向けに 4 本、高校生・成年共通で 8 本の計 13 本を制作した。各教材の対象及びタイトルは以下のとおりである。

表 4-3 動画一覧

対象	教材タイトル
高校生	・インターネット広告の仕組みや注意点とは？
成年	・デジタルプラットフォームの仕組み、注意点、トラブルに遭った時の対応 ・C to C取引と注意点 ・お金の管理（収支予算の算出、多重債務） ・製品の安全性（通販による海外取引など）
共通	・電子商取引の契約とは ・クレジットカードの特徴と注意点とは？ ・キャッシュレス決済の種類と仕組みを理解しよう ・若者に多いトラブルについて ・投資などのお金に関するトラブルや悪質商法について ・定期購入トラブル ・消費生活センターの役割と相談の仕方を知ろう ・消費者を保護する制度の内容を知ろう

各動画の構成は「トラブル事例、クイズ、解説、対策」の流れになるよう制作している。例として、学習動画「クレジットカードの特徴と注意点とは？」を以下に示す。

(a) トラブル事例

自分がととして捉えやすい事例、具体的な数字の掲出などでインパクトを与え、関心を持つもらう。



図 4-10 動画内の「トラブル事例」

(b) クイズ

いくつかの動画テーマでは、クイズで問い合わせることにより、自身の現在の理解度を知ることで後半の展開により関心を持つもらう。

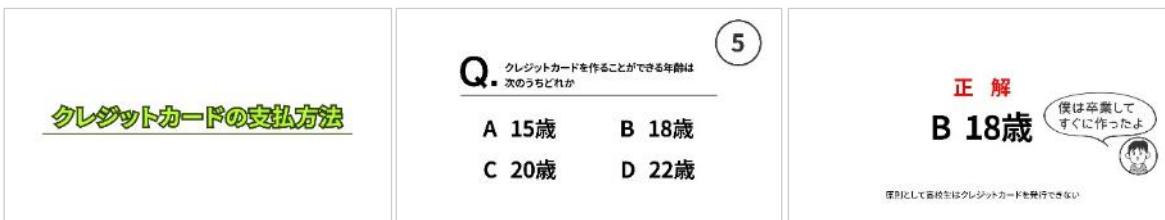


図 4-11 動画内の「クイズ」

(c) 解説

消費トラブルの仕組みをイラストや図解及び表などでわかりやすく解説し、難しい仕組みをわかりやすく説明する。合わせてトラブルが生じた原因を説明し、どのような点に気を付ければ良いか気付きを与える。

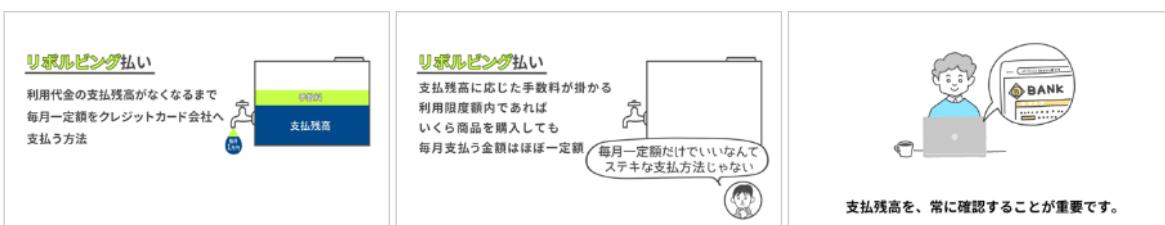


図 4-12 動画内の「解説」

(d) 対策

トラブルに遭わないための対策及びポイントを解説する。トラブル予防・回避のための知恵を学ぶ。

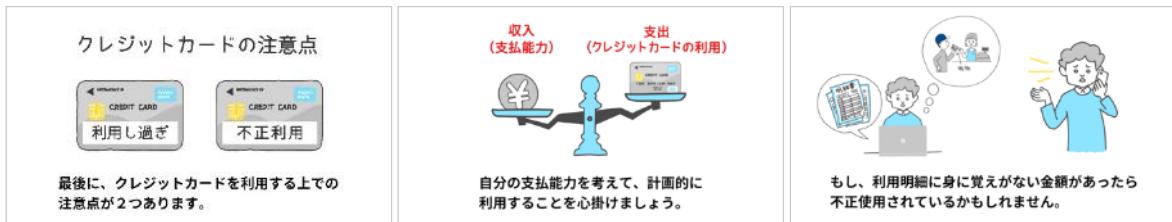


図 4-13 動画内の「対策」

4.1.3 その他デジタル教材（アプリ／e ラーニング）

アプリ 5 本、e ラーニング 2 本の計 7 本を制作した。各教材の対象、タイトル、概要は以下のとおりである。

表 4-4 その他デジタル教材一覧

対象	教材タイトル	概要
高校生	【アプリ】チェックしよう！「だまされやすさ」の心理傾向	数問から十数問の質問に対する回答を選択肢から選ぶことで、悪質商法へのだまされやすさ等の心理的傾向を分析する。
	【アプリ】デジタル取引を体験しよう	ネット通販やフリマアプリ、及びキャッシュレス決済等のデジタル取引を仮想体験する。
成年	【e ラーニング】若年者層向け	若年者層に多い消費トラブルの事例を紹介し、意思決定の失敗場面について理解を深める。 トラブルに巻き込まれない為の思考方法を学ぶ。 消費生活に必要な基礎知識を高校生向け授業の教材から抜粋し学ぶ。
	【e ラーニング】中高年者層向け	50 代以降の経済管理において知りたい知識を、中高年者層に多く見られるトラブル事例で紹介する。 トラブルに巻き込まれない為の思考方法を学ぶ。 また、消費生活に必要な基礎知識を高校生向け授業の教材から抜粋し学ぶ。
共通	【アプリ】クイズで確認 消費生活の基礎知識	未成年者取消権やクーリング・オフなど、契約上の基礎知識を知っているかをクイズ形式でテストし自己採点し、理解を深める。
	【アプリ】ローン利用をシミュレーションしよう	ローン払いに関し、購入金額、支払期間・回数及び利息を設定すると、月々の支払額や総支払額を計算・表示できる。
	【アプリ】今後の 10 年のライフプランを体験しよう	月々の収入と支出を入力する家計管理機能を有するコンテンツを体験し、お金の管理に関する基礎知識や管理への理解を深める。

(1) アプリ

例として、「クイズで確認 消費生活の基礎知識」及び「ローン利用をシミュレーションしよう」を以下に示す。

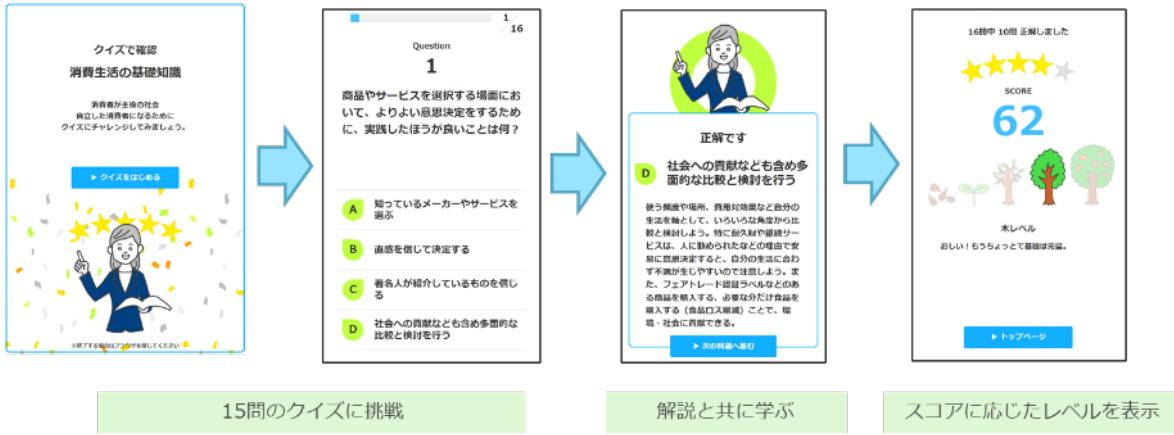


図 4-14 アプリの流れ（アプリ「クイズで確認 消費生活の基礎知識」）

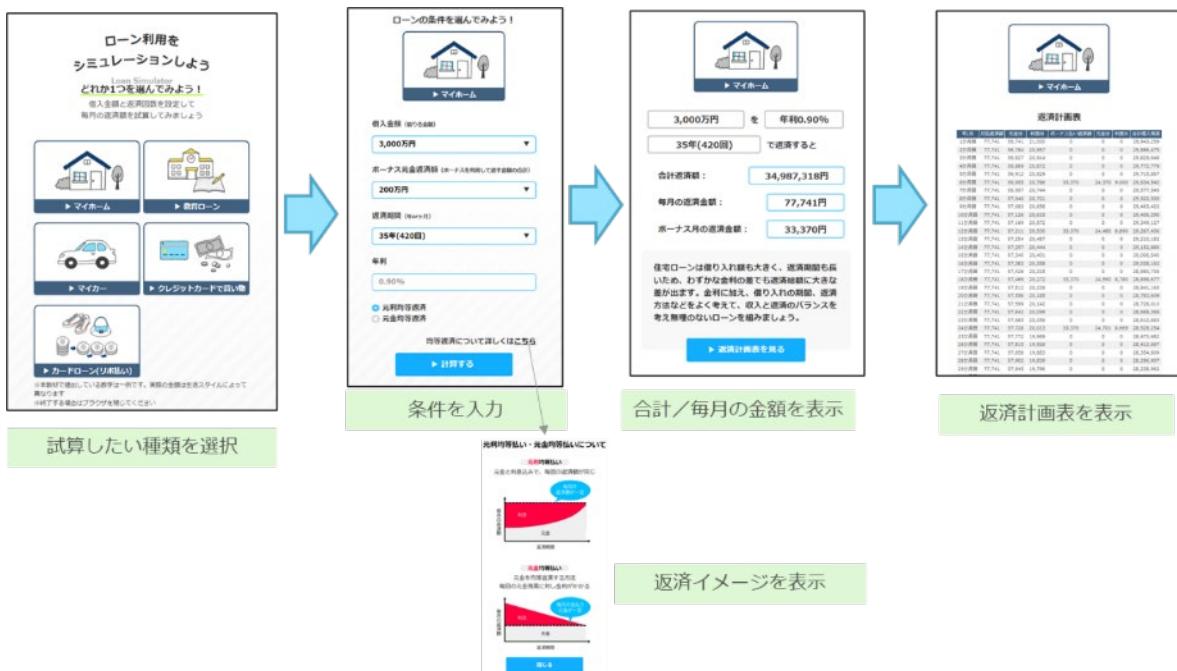


図 4-15 アプリの流れ（アプリ「ローン利用をシミュレーションしよう」）

(2) e ラーニング

各テーマの構成は、「動画視聴から理解度チェック」の流れになるよう制作している。例として、中高年者向け「50代以降の経済管理」を以下に示す。

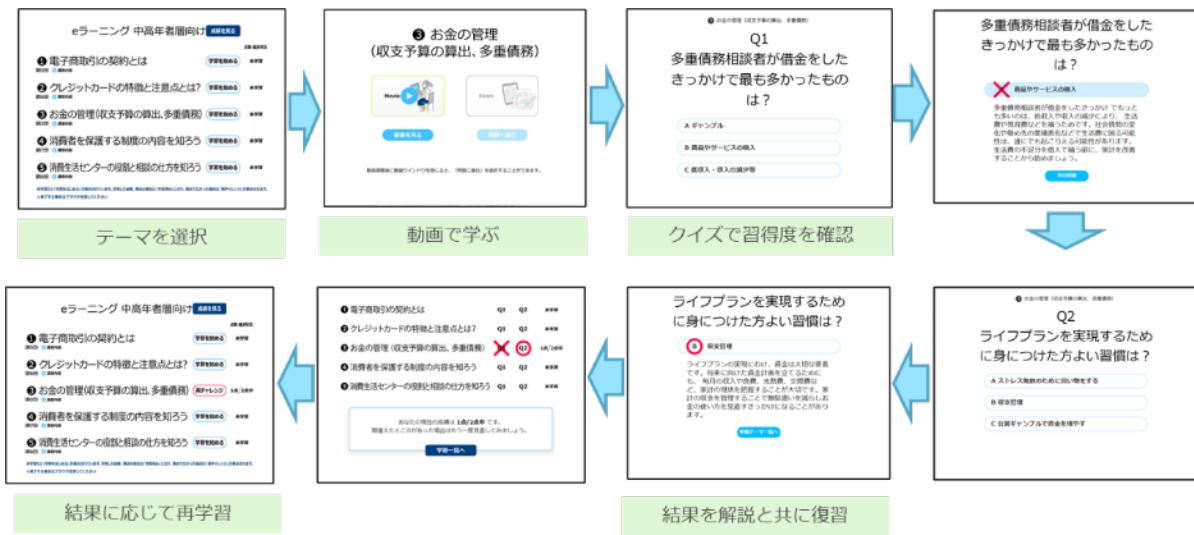


図 4-16 e ラーニングの流れ

4.1.4 授業用教材（テキスト教材／ワークシート、教師用指導手引書）

高校生向けの授業用教材として、テキスト教材を 12 本、ワークシートを 9 本の計 21 本を制作した。また、教師が授業準備をする際の参考に、教師用指導手引書も制作した。

表 4-5 授業用教材一覧

対象	時限	教材タイトル
テキスト教材	1	・ 学習目標 自分が主役の消費生活＝主体的な意思決定の力を磨くには？ ・ 意思決定のプロセスを理解しよう ・ 主体的な意思決定が妨げられる場面を知ろう
	2	・ 学習目標 デジタル時代の購入方法とルールを理解しよう ・ 契約の基礎を確認～なぜ返品できたり、できなかったりするの？～
	3	・ 学習目標 支払方法の特徴と仕組みを理解しよう
	4	・ 学習目標 契約後に生じた問題、どう対応すれば良いだろうか？ ・ トラブルから消費者を守る制度を理解しよう ・ 理解を深める自習教材～消費者トラブルのない社会に向けて～
	5	・ 学習目標 限りあるお金を、人生で最大限に活用するには？ ・ 生活設計 収入と支出、家計の管理方法を理解しよう ・ 保険とローンを理解しよう～30 代以降の生活設計～
ワークシート	1	・ 契約前に必ずしよう！～情報の収集と比較～
	2	・ まとめよう！ネット取引トラブルを防ぐための注意点
	3	・ 説明しよう！自分ならどの決済をどう使う？
	4	・ 振り返ろう！契約の基礎知識 ・ 考えよう！トラブル事例の対応方法
	5	・ マネープランシートを作成し、生活設計を学ぼう！ ・ 学習のまとめ

(1) テキスト教材

高校生向けに、授業目標や消費者問題についての理解を深めるために制作した。例として、テキスト教材「意思決定のプロセスを理解しよう」を以下に示す。

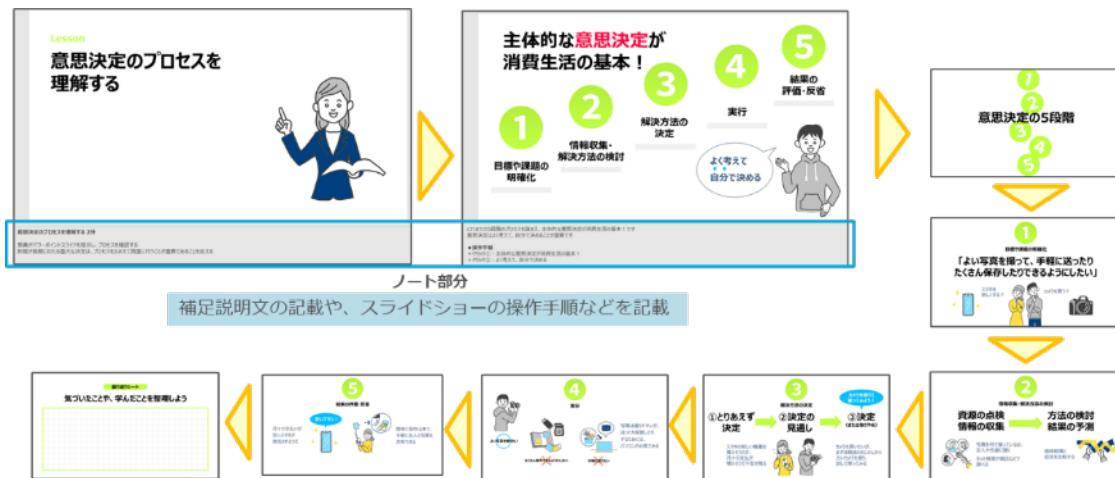


図 4-17 テキスト教材の流れ

(2) ワークシート

高校生が授業内で消費者問題についての理解を深めるためのワークシートを制作した。例として、テキスト教材「説明しよう！自分ならどの決済をどう使う？」を以下に示す。

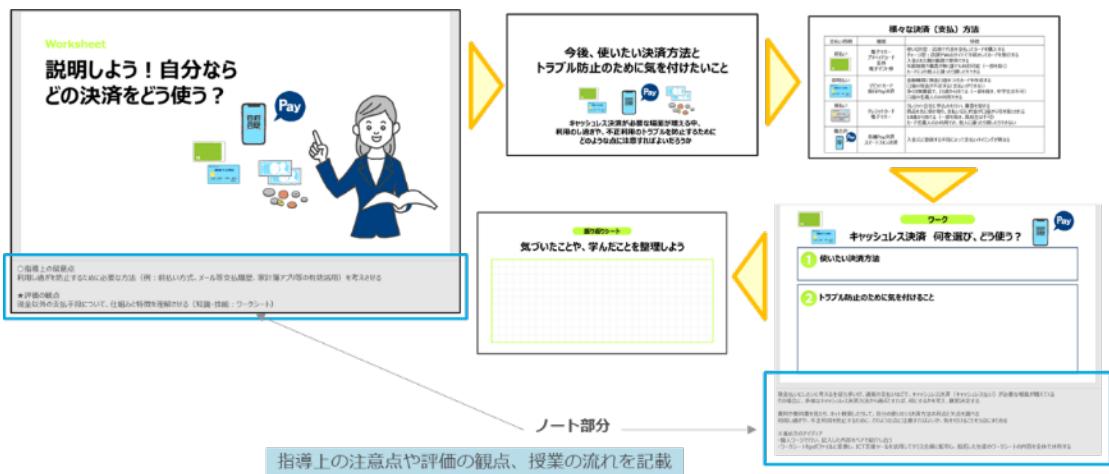


図 4-18 ワークシートの流れ

(3) 教師用指導手引書

教師が授業構成を検討する際の補助となるように、授業の進め方、各教材の使用方法・使用目的、動画のクイズやワークの回答例及び各パートの参考時間配分を掲載した、教師用指導手引書を制作した。各时限で、学習のねらい、使用する教材及び授業の流れになっている。例として、3时限目「支払いと信用取引」を以下に示す。

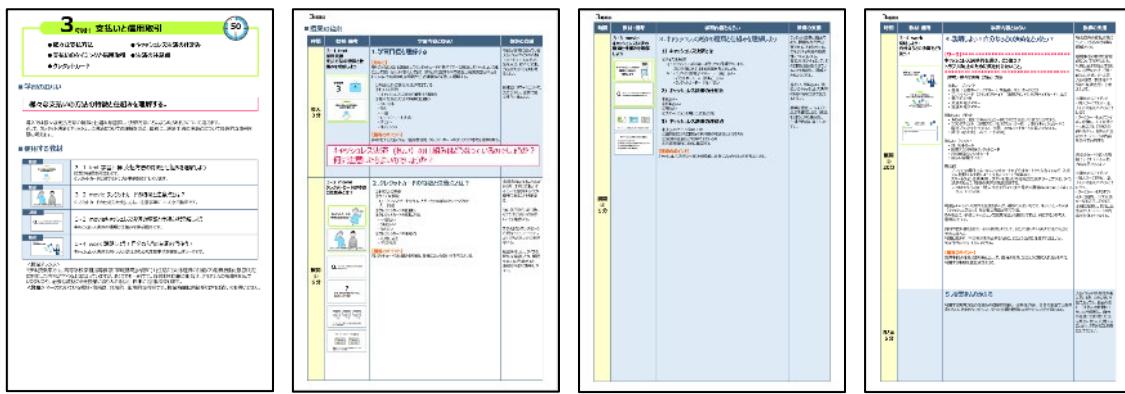


図 4-19 教師用指導手引書

4.2 操作マニュアル

制作した教材をダウンロード及び使用するためのポータルサイトや、デジタルコンテンツの受講履歴を管理するための管理機能、また、主に成年向けとして制作した e ラーニング教材についての各種コンテンツの操作説明書を、教師用、企業向けに分けてそれぞれ制作した。

4.2.1 操作説明書（教師用）

ポータルサイトの全体構成及び教師用、生徒用の操作方法を記載している。教師用のページには、生徒の受講内容を把握するための管理機能を用いたルームの作成方法、受講履歴画面のイメージ図等を掲載しており、生徒用のページには、ルームへの入退室方法を記載している。

4.2.2 操作説明書（企業・管理者向け）

ポータルサイトの全体構成及び管理者用、受講者用にポータルサイト及び e ラーニングの操作方法を記載している。e ラーニングについての説明や、構成・テーマを記載することで、受講者は e ラーニングを受講するイメージを持つことができる。管理者編では、管理機能におけるルームの説明、ルームの作成方法、受講履歴画面のイメージ図等を掲載している。受講者編ではルームの説明に加えて、e ラーニング受講画面のイメージ図や、ルームへの入退室方法を記載している。

5 啓発用デジタル教材に係る実証事業

制作した啓発用デジタル教材が、各世代に向けた効果的な消費者教育教材となっているか、内容検証及び当該教材を活用した効果的な啓発手法の検証を目的として実証事業を実施した。実証事業の全体像を下図に示す。

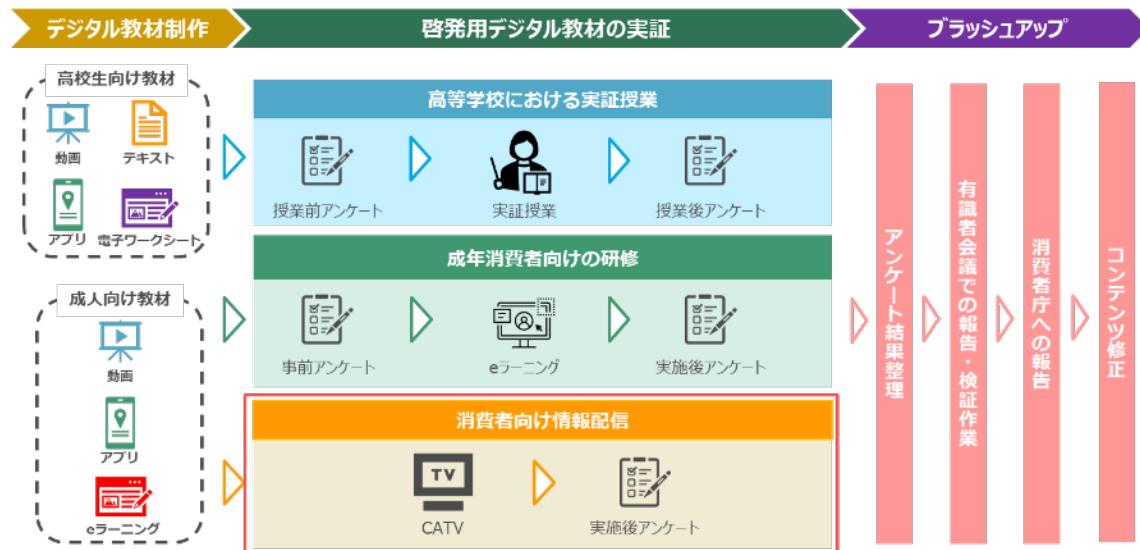


図 5-1 実証事業の全体イメージ

各世代での実証事業の内容、及び実証環境等については、「5.1 高等学校における実証授業」、「5.2 成年消費者向け研修」、「5.3 消費者向け情報配信」に記載する。

5.1 高等学校における実証授業

5.1.1 実証概要

徳島県内の高等学校 2 校（城東高等学校、阿南光高等学校）において、「4 啓発用デジタル教材」にて制作したコンテンツを用いた家庭科の実証授業を行った。対面での実証授業は、実証校の教師が実施し、遠隔での実証授業は本委員の大学教師を外部講師として実施した。

なお、本実証における遠隔での実証授業は、実証高校の教室（教室には実証高校の教師がいる状態）と外部講師がいる大学の研究室をインターネットで接続した「教師支援型」の遠隔教育の形式を取った「遠隔授業」であり、両校とも「家庭基礎」の授業実施時数に含めた授業としている。

実証授業に向けての流れを図 5-2 に記載する。

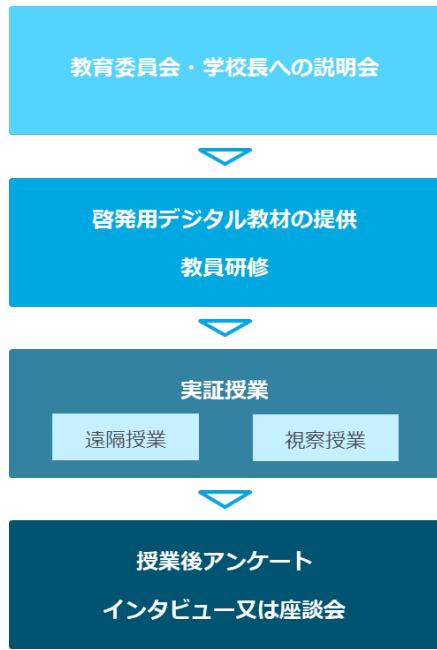


図 5-2 実証授業の流れ

実証期間中、教師が「4 啓発用デジタル教材」で制作したコンテンツを用いた家庭科の実証授業を行う際、困ったことがあった場合の問合せ窓口としてサポート窓口を設置し、メールや電話でサポート対応を行った。有識者会議委員を教室に招いての視察授業や、オンラインでの遠隔授業を行う際は、事務局が実証高校に赴き、対面での直接的なサポートを実施した。

また、実証授業の前後には、生徒や教師に対してアンケートやヒアリングを行い、制作したコンテンツが授業を実施するために効果的な内容となっているか、調査・分析を行った。

5.1.2 実証準備

実証計画を立てるに当たって、高校での実証の実施方法について、徳島県教育委員会にヒアリングを実施した。その後、実証授業に向けて、徳島県教育委員会及び実証授業実施校の学校長に対し、実証授業の目的と実施内容について実証計画書を基に説明した。

5.1.3 システム構成

本実証における、実証高校のシステム構成について下図に示す。

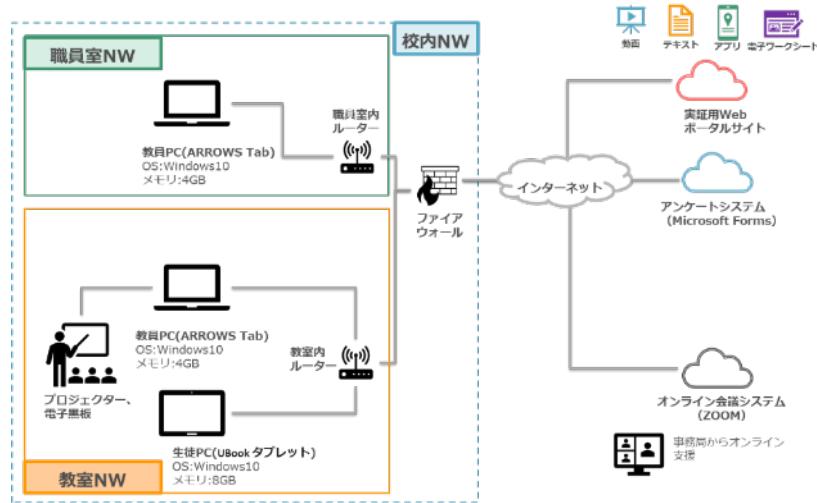


図 5-3 実証環境（通常授業）

また、遠隔地の講師とオンラインでつないで行う遠隔授業のシステム構成は以下のとおりである。

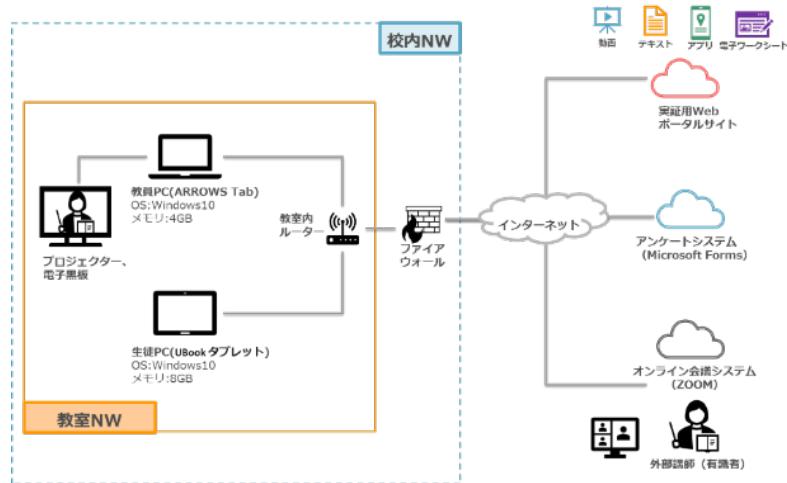


図 5-4 実証環境（遠隔授業）

今回の実証授業においては、上記システム構成に加えて、教師及び外部講師が生徒の学習状況をリアルタイムに把握するために「MetaMoji ClassRoom¹」（授業支援アプリケーション）（以下「MetaMoji」という。）を用いて授業を行った。

(1) web ポータルサイト

学習者のスタイルに合わせて、より学びやすい学習環境の提供を目的とした web ポータルサイトを構築し、スマートフォン、タブレット、PC（Windows 等）で動作するマルチプラットフォームにて公開した。実証期間中は関係者のみが閲覧できるよう、Basic 認証を用いて公開した。（公開期間は、実証期間中の期間限定公開とした。）

¹ 「MetaMoji ClassRoom」 <https://product.metamoji.com/education/>



図 5-5 web ポータルサイトイメージ図

web ポータルサイトのメインページから、全てのコンテンツへアクセスできる構成とし、実証授業で使用する教材についても、この web ポータルサイトからダウンロードが可能となっている。

(2) 端末

本実証授業を利用する端末は、実証高校において元々生徒全員に配布されているタブレット端末（Windows）を利用した。タブレット端末の利用状況については、一部の授業によつては利用しているものの頻度は高くなく、個人差はあるがタブレット端末の操作にあまり慣れていない教師及び生徒が多いのが実状であることを事前に確認している。

(3) アンケート

制作したデジタル教材、及びデジタル教材を用いた授業が効果的な内容となっているか調査・分析を行うため、実証授業の前後に Microsoft Forms にてアンケートを実施した。

アンケートの詳細については、「5.1.7 効果測定」に記載する。

5.1.4 授業シナリオ

高校生向けの授業シナリオは、「家庭基礎指導計画モデル」をベースに有識者会議にて議論し作成した 5 時限分のシナリオで実証授業を行うこととした。（シナリオの詳細な内容については「4.1.1 授業シナリオ・研修シナリオ」にて記載。）

5.1.5 実証授業準備

(1) 教師研修

デジタル教材と共に制作した「教師用指導手引書」を使用し、事務局から各高等学校の教師向けに、対象の授業の流れの確認やデジタル教材の使用方法について研修を実施した。2 校ともタブレットを活用した授業はあまり行っていないため、入念に研修を実施した。

表 5-1 高等学校 教師研修概要

	城東高等学校	阿南光高等学校
実施日	令和3年11月15日（月）	令和3年11月24日（水）
出席者	城東高等学校 山本委員	阿南光高等学校 西村委員
主旨	制作したコンテンツの説明及び実際の授業の流れを認識合わせする。 また、授業前ヒアリングとして昨年度までの授業構成や課題、デジタル教材に期待することや不安を感じていることを伺う。	
実施方法	Zoom	

(2) 遠隔授業事前打合せ

遠隔授業の講師と各高等学校の教師間で、授業の流れや接続確認を行うため、事前打合せを実施した。

表 5-2 高等学校 遠隔授業事前確認概要

	城東高等学校	阿南光高等学校
実施日	令和3年12月7日（火）	令和3年12月14日（火）
参加者	鳴門教育大学 坂本座長、阪東委員 城東高等学校 山本委員	鳴門教育大学 坂本座長、阪東委員 阿南光高等学校 西村委員
実施主旨	実際に授業を行う講師とデジタル教材の使用方法や遠隔授業の流れの連携を行う。 また、遠隔授業で使用する端末や文書共有ツールの接続確認を行う。	
実施方法	Zoom	

5.1.6 実証授業

城東高等学校及び阿南光高等学校での実証授業について、各授業の期間、対象教材、対象クラスについて記載する。

表 5-3 各高等学校での授業概要

	城東高等学校	阿南光高等学校
通常授業	期間：11月～1月 対象教材：3 時限目教材 対象クラス：1年生 7 クラス 280 名	期間：11月～1月 対象教材：1～5 時限目教材 対象クラス：1年生 74 名、2年生 89 名
視察授業	日時：11月18日（木）11:30～12:20 対象教材：3 時限目教材 対象クラス：1年生 1 クラス 40 名	日時：12月3日（金）12:00～12:50 対象教材：2 時限目教材 対象クラス：1年生 1 クラス 25 名
遠隔授業	日時：12月16日（木）11:30～12:20 対象教材：5 時限目教材 対象クラス：1年生 1 クラス 40 名	日時：12月21日（火）11:00～11:50 対象教材：1 時限目教材 対象クラス：2年生 6 クラス 171 名

(1) 対面授業

城東高等学校、阿南光高等学校で対面授業を実施した際の様子を掲載する。(対面授業のうち、有識者会議委員を教室に招いた授業を「視察授業」としている。) 視察授業に関する有識者会議委員からの意見は「5.1.7 (C) 現地調査レポート」にて記載する。また、両校とも、視察授業後に担当教師、参加した有識者会議委員で座談会を行った。座談会については、「5.1.7 (D) 授業後座談会」で示す。

(a) 城東高等学校

1年生の1クラスを対象に、有識者会議委員でもある山本委員が3時限目(テーマ:支払いと信用取引)の授業を行った。生徒は、動画等もよく見ており、動画内のクイズにも反応していた。また、自ら端末を開き、スムーズに操作できており、MetaMoji が上手くつながらない等の対応も自己解決できていた。

以下、参考資料として自身のクレジット明細を使用して説明している山本委員、タブレットにて「自分が知っている決済方法」を入力する生徒及び教室全体の様子の写真である。

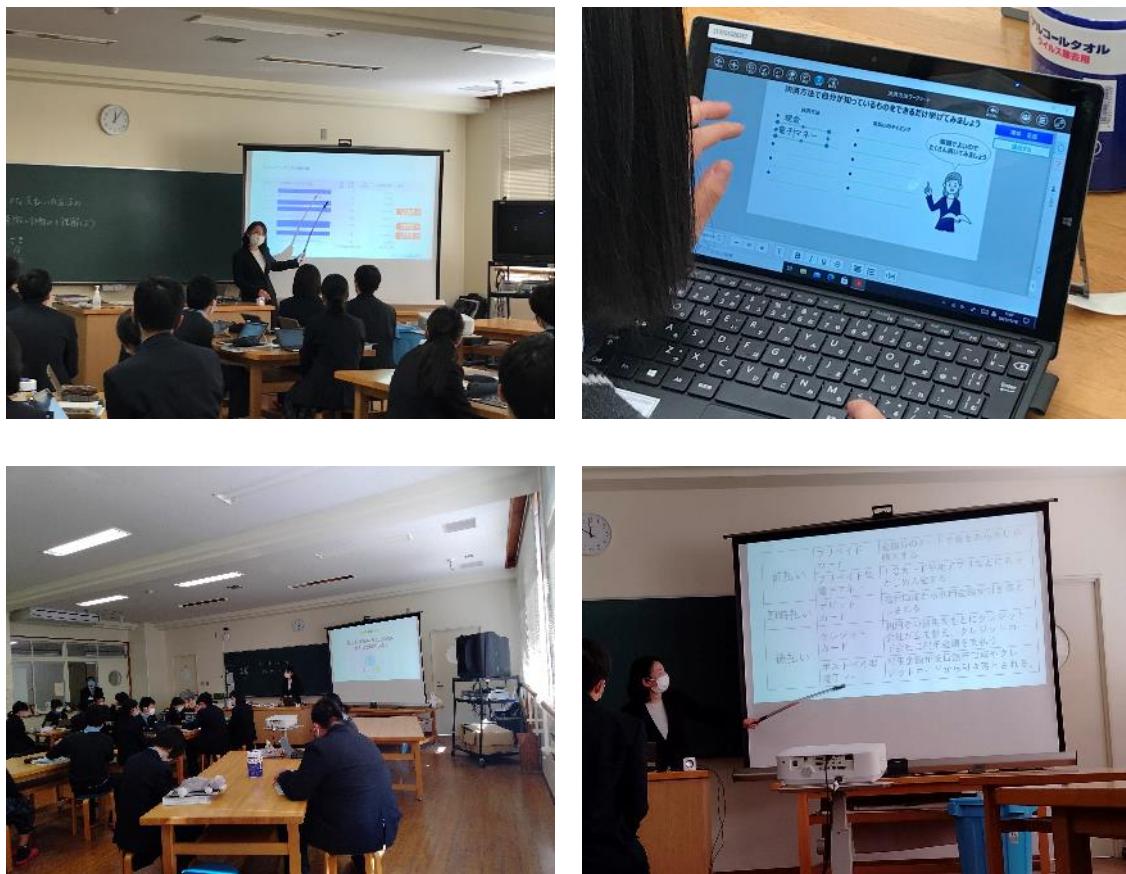


図 5-6 城東高等学校での視察授業の様子

(b) 阿南光高等学校

1年生の1クラスを対象に、有識者会議委員でもある西村委員が2時限目（テーマ：購入と契約）の授業を行った。大半の生徒が緊張しながらも集中して授業を聞いていたが、「返品できるか」については、全くわからないといった様子の生徒も見られた。また、アプリの操作が難しく、進められなくなっていた生徒もいた。

以下、「ネット取引トラブルを防ぐための注意点」の各テーマについて班ごとに作成したシートを紹介する西村委員やグループワークをする生徒の写真である。

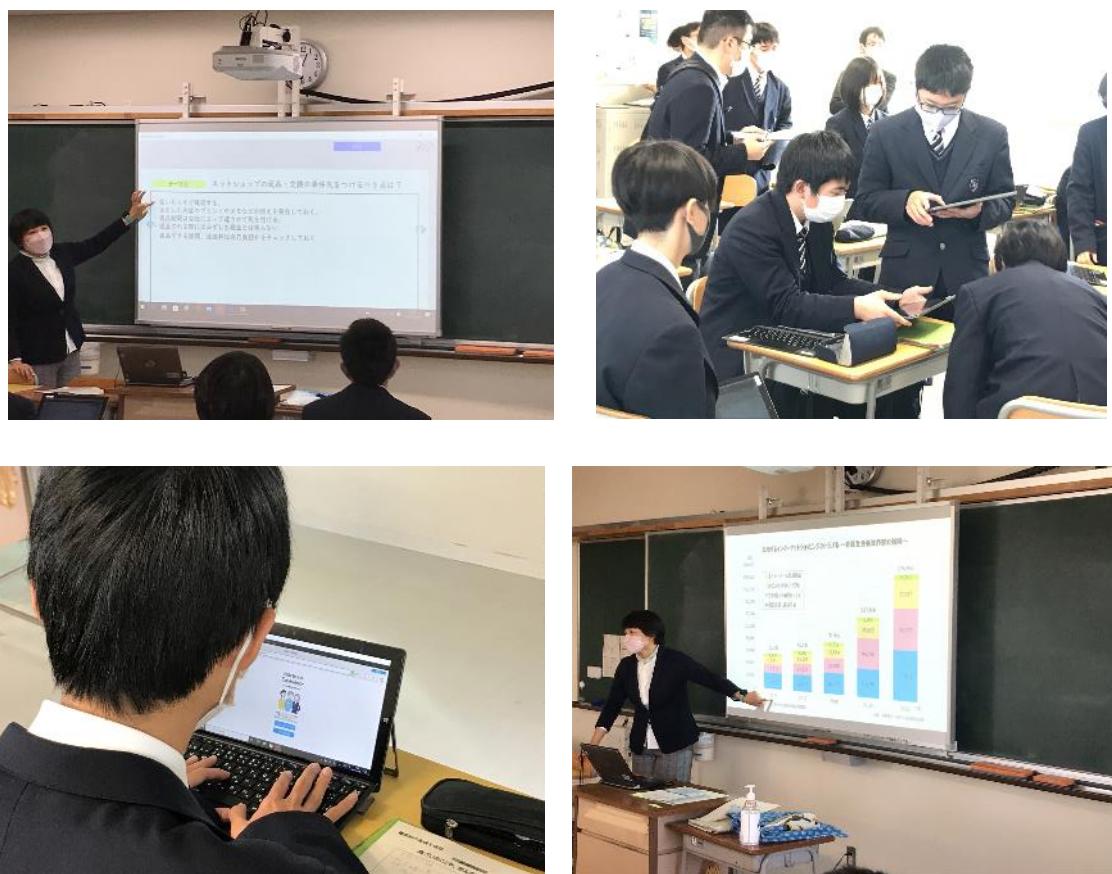


図 5-7 阿南光高等学校での視察授業の様子

(2) 遠隔授業

有識者会議の坂本委員（座長）にオンライン授業講師を依頼し、実証対象となる高校の教室と、鳴門教育大学の坂本委員の研究室をオンラインでつなぎ遠隔授業を実施した。

城東高等学校又は阿南光高等学校と鳴門教育大学間で遠隔授業を実施した際の様子を掲載する。

(a) 城東高等学校

1年生1クラスを対象に5時限目（テーマ：生涯を見越した経済の管理）の授業を行った。端末操作に慣れており、難易度の高いワークシートも近くの席の生徒と相談しながら短い時間の中で可能な限り進められていた。特に回線不良もみられなかった。

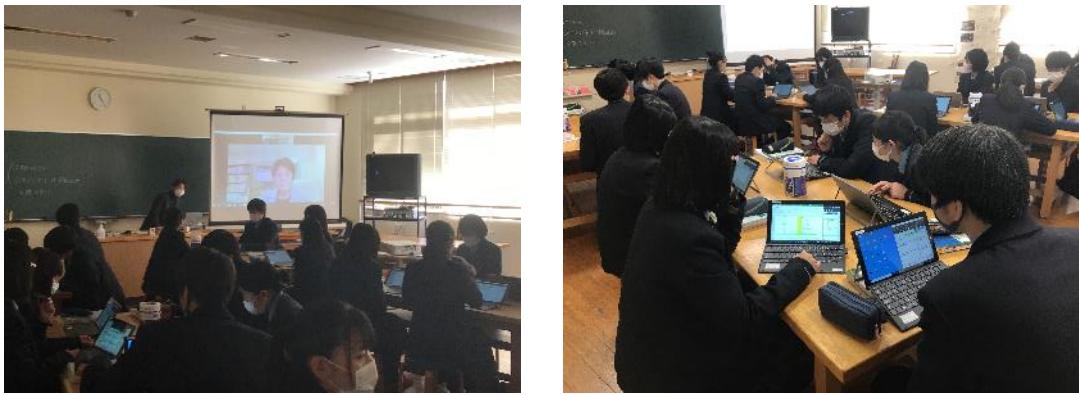


図 5-8 城東高等学校での遠隔授業の様子

(b) 阿南光高等学校

2年生6クラスを対象に1時限目（テーマ：情報の収集・比較と意思決定）の授業を行った。一部のクラスで回線不良があったため教室移動も行われたが、MetaMojiで確認した様子では、半数程度の生徒がワークシートへ書き込みができていた。また、「だまされやすさ心理テスト」の結果は、アンケート形式で坂本委員へ送信され、授業直後で90名ほど、最終的には152名回答できていた。回線不良については「5.1.7 (C) (2) (e) その他」に記載する。



図 5-9 阿南光高等学校での遠隔授業の様子

5.1.7 効果測定

生徒アンケート及び担当教師ヒアリングを行った。また視察授業については視察レポートを使用し、参加した有識者会議委員から意見を得た。

(A) 生徒アンケート

授業を受ける生徒を対象に、授業前及び授業後にアンケートを実施した。

(1) 授業前アンケート

アンケートを作成し、以下のように各高等学校に対して消費生活の事前知識についてのアンケートを実施した。

表 5-4 消費生活に関するアンケート（高校向け）

	城東高等学校	阿南光高等学校
調査期間	令和3年11月11日（木）	令和3年12月3日（金）
調査対象	1年生40名1クラス	1年生25名3クラス、2年生6クラス
回答数	26件	176件
調査主旨	教材をより使いやすくブラッシュアップするために、デジタル教材を使用した消費生活の授業において受講側の所感を伺う。	
調査方法	Microsoft Forms	

実際のアンケート内容は以下のとおりである。

1. あなたはインターネットを使って以下の買物をしたことがありますか。

自分自身でしたことがあるものを全て選んでください。（複数選択）※必須

- ゲーム、アプリ、スタンプなど有料でダウンロードする（音楽、映画、電子書籍なども含む）
- ネット通販で買物する（お店やショッピングモールの通販サイト）
- フリマアプリ等で買物する

2. あなたは小学校・中学校・高等学校で以下の内容を学習しましたか。

当てはまるもの全てを選んでください。（複数選択）※必須

- 物の選び方、買物のしかた
- 支払いの方法や特徴
- お金の管理のしかた
- 様々な悪徳商法
- 買物の決まり、契約について
- 消費者トラブルに遭った場合の対応
- 消費者問題の歴史
- 消費者の権利と責任
- 上記に当てはまる学習をしたことがない

3. あなたは以下の支払い方法を使ったことがありますか。

当てはまるもの全てを選んでください。（複数選択）

- 使い切り型のプリペイドカード（図書カード、ギフト券など）
- チャージ型で繰り返し使えるプリペイドカード
- スマートフォンを使った支払い

4. あなたの性別について教えてください。(単一選択) ※必須

- ・ 男性
- ・ 女性
- ・ その他・回答せず

5. 学年とクラスを教えてください。(例: ○年○組) (自由記述) ※必須

アンケート結果は以下のとおりである。

ネット通販や有料ダウンロードは半数以上の人人が経験したことがあると回答しており、ネットでの通信販売よりも、ゲームやアプリの有料ダウンロードが多い。

現金以外の支払いの際には 86%の生徒が使い切り型のプリペイドカードを使用したことあるという回答であった。

半数以上の生徒が消費生活について過去に学習していると回答したが、「消費者問題の歴史」について過去に学習したことがあると回答した生徒は3分の1程度にとどまった。

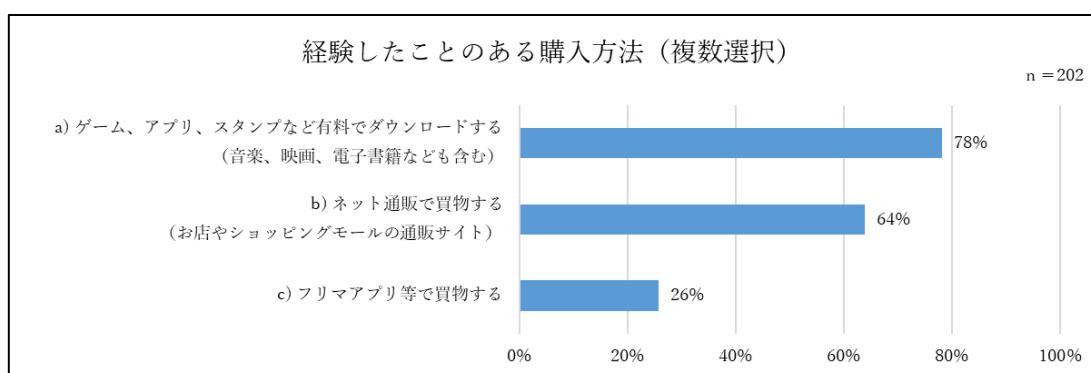


図 5-10 インターネットでの購入経験

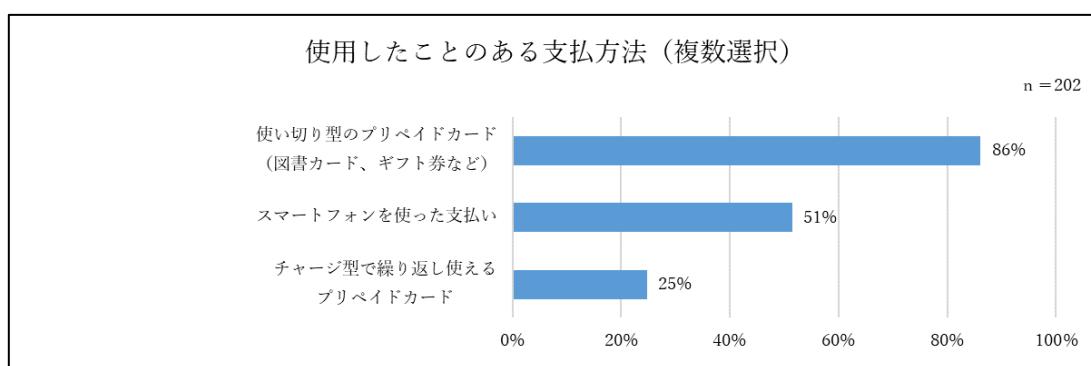


図 5-11 現金以外の支払方法

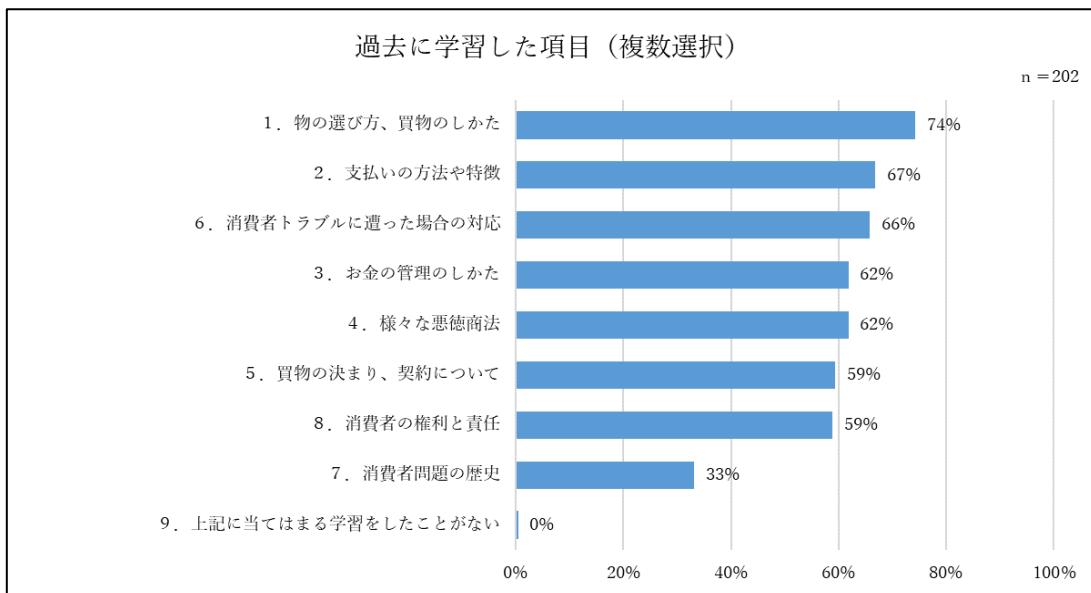


図 5-12 消費生活についての過去の学習経験

(2) 授業後アンケート

各高等学校に対してデジタル教材を使用した授業についてのアンケートを実施した。各高等学校がデジタル教材を使用した際の教材についての所感として、主にユーザビリティの観点で確認が必要な項目を整理し、有識者会議の委員の意見を参考にしつつ作成した。なお、確認項目は下表のとおりである。

表 5-5 授業後アンケートでの確認項目

確認項目	対象教材	内容
① 各教材への所感	デジタルコンテンツ・学習動画・教材テキスト・ワークシート	量、わかりやすさ、見やすさ、面白さ、理解度を教材ごとに伺う。
② 遠隔授業に対する所感	—	見やすさ、聞き取りやすさ、快適さ、またオンラインで授業を受けたいか伺う。
③ 授業全体を通しての所感	デジタルコンテンツ・学習動画・教材テキスト・ワークシート・振り返りメモ	良かった教材、良くなかった教材を複数選択可で伺う。
	振り返りメモ	使いやすさ、必要性について伺う。
	—	授業全体の難易度、今後の学習意欲について伺う。

実際のアンケート内容は以下のとおりである。各時限で対象のコンテンツ分のみ設問を作成した。遠隔授業を実施した場合は、遠隔授業での所感に関する回答も得た。

1. 学習動画(○○)についてご回答ください。
 - ・ 面白かった (5 択、単一選択)
 - ・ わかりやすかった (5 択、単一選択)

- ・ 理解できた（5択、単一選択）
選択肢：当てはまる、やや当てはまる、どちらともいえない、
やや当てはまらない、当てはまらない
- 2. 学習動画(○○)の長さについてどのように感じましたか。（5択、単一選択）
選択肢：長かった、やや長かった、丁度良い、やや短かった、短かった
- 3. アプリ(○○)についてご回答ください。
 - ・ 画面が見やすかった（5択、単一選択）
 - ・ わかりやすかった（5択、単一選択）
 - ・ 理解できた（5択、単一選択）

選択肢：当てはまる、やや当てはまる、どちらともいえない、
やや当てはまらない、当てはまらない
- 4. ワークシート(○○)についてご回答ください。
 - ・ わかりやすかった（5択、単一選択）
 - ・ 理解できた（5択、単一選択）

選択肢：当てはまる、やや当てはまる、どちらともいえない、
やや当てはまらない、当てはまらない
- 5. ワークシート(○○)のボリュームについてどのように感じましたか。（5択、単一選択）
選択肢：多かった、やや多かった、ちょうど良かった、
やや少なかった、少なかった
- 6. 教材テキスト(○○)についてご回答ください。
 - ・ わかりやすかった（5択、単一選択）
 - ・ 理解できた（5択、単一選択）

選択肢：当てはまる、やや当てはまる、どちらともいえない、
やや当てはまらない、当てはまらない
- 7. 教材テキスト(○○)のボリュームについてどのように感じましたか。（5択、単一選択）
選択肢：多かった、やや多かった、ちょうど良かった、
やや少なかった、少なかった
- 8. オンラインで授業を受けた方のみご回答ください。
 - ・ 画面が見やすかった（5択、単一選択）
 - ・ 話は聞き取りやすかった（5択、単一選択）
 - ・ 快適に受けられた（5択、単一選択）
 - ・ また受けたい（5択、単一選択）

選択肢：当てはまる、やや当てはまる、どちらともいえない、
やや当てはまらない、当てはまらない
- 9. 良かったと感じた教材を教えてください。（複数選択）※必須
選択肢：学習動画、アプリ、教材テキスト、ワークシート、振り返りメモ、該当なし
- 10. 良くなかったと感じた教材を教えてください。（複数選択）※必須
選択肢：学習動画、アプリ、教材テキスト、ワークシート、振り返りメモ、該当なし
- 11. ワークシート教材最後のスライド「振り返りメモ」についてご回答ください。※必須
 - ・ あった方が良い（5択、単一選択）

- 使いやすかった（5択、単一選択）

選択肢：当てはまる、やや当てはまる、どちらともいえない、やや当てはまらない、当てはまらない
- 12. 授業内容の難易度についてどのように感じましたか。（5択、単一選択）

選択肢：難しかった、やや難しかった、ちょうど良かった、やや簡単だった、簡単だった
- 13. デジタル社会の消費者問題について更に勉強したいと思いますか。（5択、単一選択）

選択肢：当てはまる、やや当てはまる、どちらともいえない、やや当てはまらない、当てはまらない
- 14. 何か気付いた点等あれば自由にご記入ください。
 例：「〇〇の教材について、操作性・時間・難易度について△△だった」など
 具体的に記載いただけますと幸いです。（自由記述）
- 15. 学校（2択、単一選択）※必須
 選択肢：城東高校、阿南光高校
- 16. クラス（例）△年□組（自由記述）※必須
- 17. 性別（3択、単一選択）※必須
 選択肢：男、女、その他（回答しない）

アンケート結果は以下のとおりである。

動画時間については実証時点の所要時間を記載している。

(a) 1時限目：情報の収集・比較と意思決定

以下、各コンテンツについてのアンケート結果を示す。

① 教材テキストについて

半数ほどの生徒は「わかりやすかった（当てはまる・やや当てはまる）」、「理解できた（当てはまる・やや当てはまる）」と回答しており、それらの回答をした生徒の中にボリュームについて「やや少なかった・少なかった」と回答した生徒はほぼいなかった。一方、「わかりやすかったか」、「理解できたか」でネガティブな回答をした生徒は、ボリュームが少なく感じた生徒もいれば多く感じた生徒もいた。

表 5-6 1時限目 教材テキストについて

対象コンテンツ	教材テキスト
対象教材	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標 自分が主役の消費生活=主体的な意思決定の力を磨くには？ ・意思決定のプロセスを理解しよう ・主体的な意思決定が妨げられる場面を知ろう
実施学校	阿南光高等学校 2年生6クラス
授業形式	遠隔授業

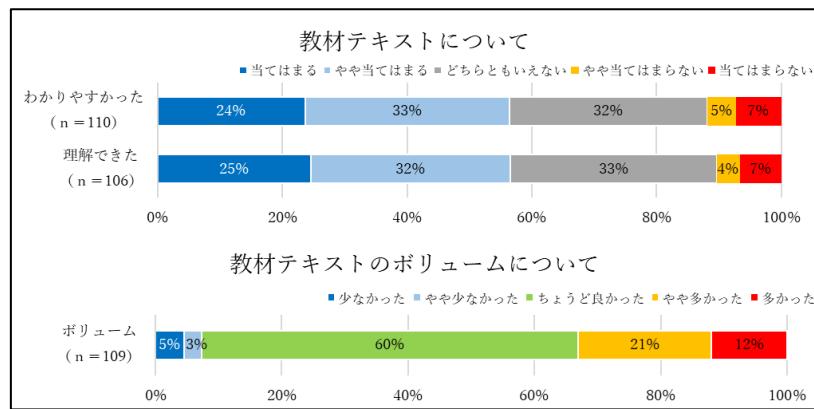


図 5-13 1 時限目 教材テキストについて

		単位(人)			
わかりやすかった	理解できた	合計	ボリューム		
			多かった やや多かった	ちょうど良かった	やや少なかった 少なかった
合計		97	32	61	4
当てはまる やや当てはまる	当てはまる やや当てはまる	57	20	36	1
どちらともいえない	どちらともいえない	30	8	22	0
やや当てはまらない 当てはまらない	やや当てはまらない 当てはまらない	10	4	3	3

※合計欄が10以上の行のみ記載

図 5-14 1 時限目 教材テキストについて 回答結果の関連性

② 学習動画について

動画を短く感じた生徒は少なく、60%以上の生徒が「ちょうど良かった」と回答した。

表 5-7 1 時限目 学習動画について

対象コンテンツ	学習動画
対象教材	・ インターネット広告の仕組みや注意点とは？ (3分55秒)
実施学校	阿南光高等学校 2年生6クラス
授業形式	遠隔授業

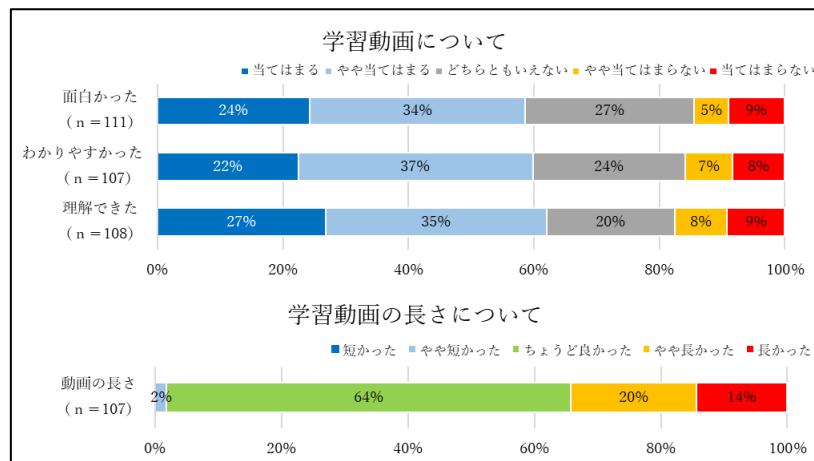


図 5-15 1 時限目 学習動画について

③ アプリについて

全項目で、回答の割合がほぼ同等で、およそ 60%の生徒はポジティブな回答であった。

表 5-8 1 時限目 アプリについて

対象コンテンツ	アプリ
対象教材	・ チェックしよう！「だまされやすさ」の心理傾向
実施学校	阿南光高等学校 2年生 6クラス
授業形式	遠隔授業

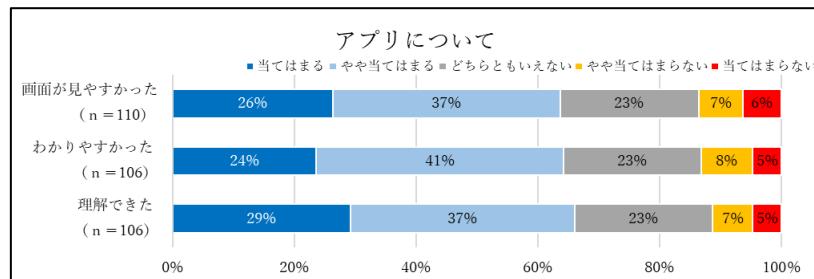


図 5-16 1 時限目 アプリについて

④ ワークシートについて

およそ 50~60%の生徒が「わかりやすかった（当てはまる・やや当てはまる）」、「理解できた（当てはまる・やや当てはまる）」と回答した。「わかりやすかったか」及び「理解できたか」の項目で「やや当てはまらない・当てはまらない」と回答した生徒はほぼ同じ割合だった。

表 5-9 1 時限目 ワークシートについて

対象コンテンツ	ワークシート
---------	--------

対象教材	・契約前に必ずしよう！～情報の収集と比較～
実施学校	阿南光高等学校 2年生 6クラス
授業形式	遠隔授業

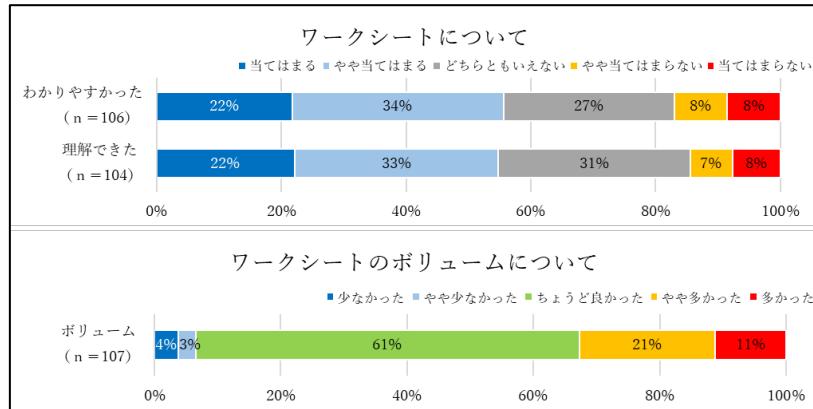


図 5-17 1 時限目 ワークシートについて

⑤ 良かった教材、良くなかった教材について

学習動画については、SNS という生徒自身に直接関連が深い内容であったこともあり半数以上の生徒が「良かった」と感じていた。「良かったと感じた教材」で全体的に回答割合が低いが、「良くなかったと感じた教材」でも各教材に対しての回答割合は低かった。

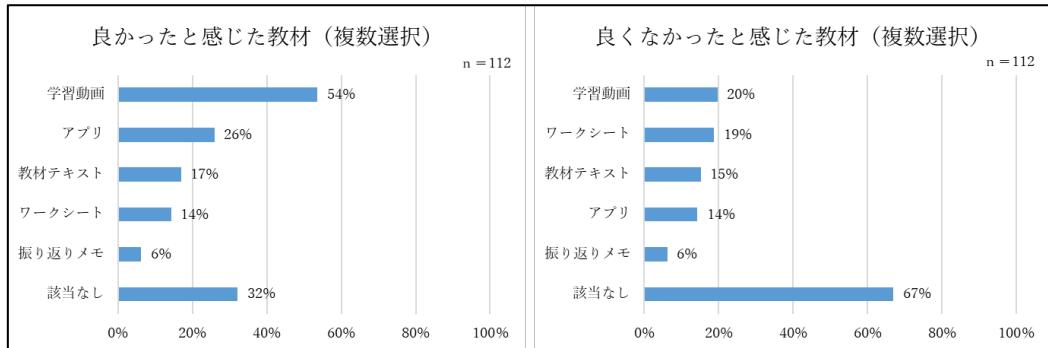


図 5-18 1 時限目 良かった教材と良くなかった教材

⑥ 振り返りメモについて

およそ 65%の生徒が振り返りメモは「必要であると感じなかった」という結果である。また、使いやすさについても 70%が「使いやすかったとは感じなかった」と回答している。1 時限目は使用するコンテンツが多く、阿南光高校では遠隔授業当日に回線トラブルもあったため振り返りメモを使用する余裕がなかったことも原因ではないかと考えられる。

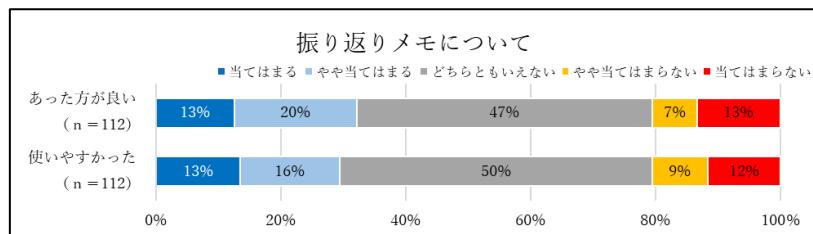


図 5-19 1 時限目 振り返りメモについて

⑦ 遠隔授業について

複数クラスで授業し回線不良があったこともあり、ネガティブな回答の割合が多かった。

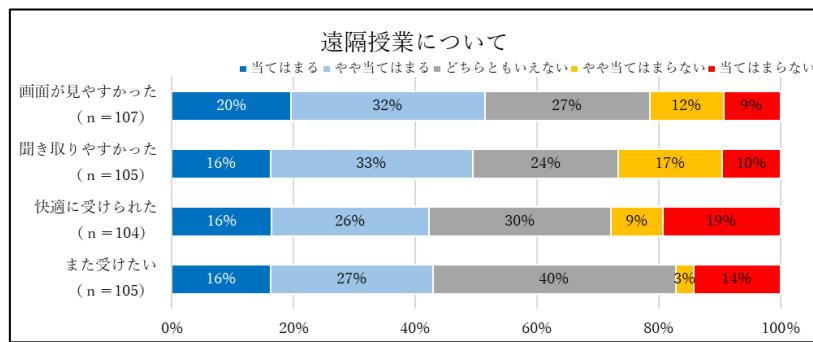


図 5-20 1 時限目 遠隔授業について

⑧ 授業全体について

難易度について、半数の生徒が「ちょうど良かった」と回答した。更に勉強したいかについては、ポジティブな回答が半数以下であった。

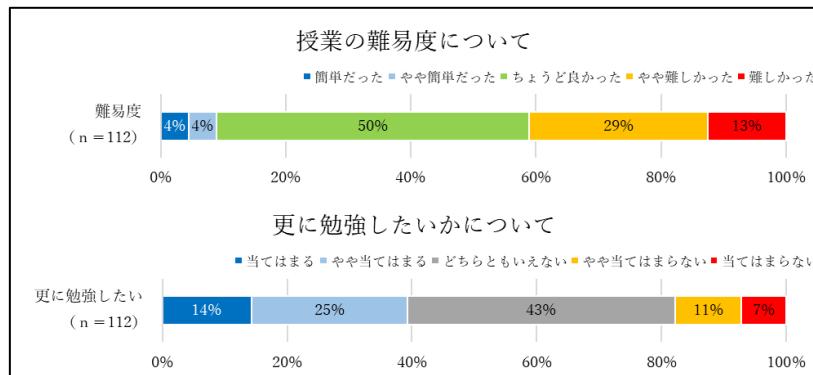


図 5-21 1 時限目 授業全体について

なお、他の気付きの点を自由記述で照会した主な結果は以下のとおりである。

① ネットワーク環境について

- ・回線が悪かった。

- ・ インターネットが不安定で声が聞こえない時があり、また MetaMoji がよく落ちた。
- ・ 途切れ途切れになってしまい内容が少し頭に入りづらかったです。
- ・ ネットワーク環境が悪すぎて何を学んでいるのかが全くわからなかった。

② 授業の進め方について

- ・ 良い授業だったため、担任をしている教師に PowerPoint を事前共有し、各教室で有線接続し、ラグが無い状態で行う等、更に工夫があれば良いと思う。

阿南光高等学校での遠隔授業はインターネットの回線不良があり、アンケート内の自由記述欄でも多くの意見があった。回線不良については別項「(C) (2) (e) その他」に記載する。

(b) 2 時限目：購入と契約

① 教材テキストについて

およそ 80%の生徒が「わかりやすかった（当てはまる・やや当てはまる）」、「理解できた（当てはまる・やや当てはまる）」と回答している。ボリュームについても 90%以上の生徒が「ちょうど良かった」と回答している。

表 5-10 2 時限目 教材テキストについて

対象コンテンツ	教材テキスト
対象教材	・ 学習目標 デジタル時代の購入方法とルールを理解しよう ・ 契約の基礎を確認～なぜ返品できたり、できなかったりするの？～
実施学校	阿南光高等学校 1 年生 1 クラス
授業形式	対面授業（視察授業）

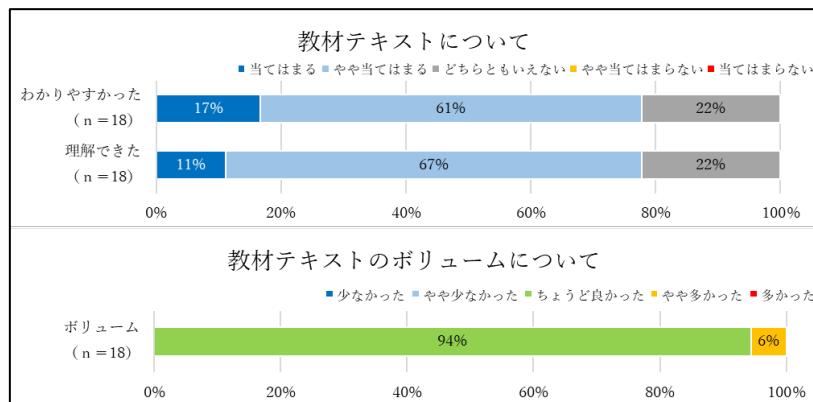


図 5-22 2 時限目 教材テキストについて

② 学習動画について

ネガティブな回答がなく、およそ 75%の生徒がポジティブな回答であった。動画の長さについての「やや長かった」という回答とその他項目の回答は特に関連は見られなかった。

表 5-11 2 時限目 学習動画について

対象コンテンツ	学習動画
対象教材	・電子商取引の契約とは（4分53秒）
実施学校	阿南光高等学校 1年生1クラス
授業形式	対面授業（視察授業）

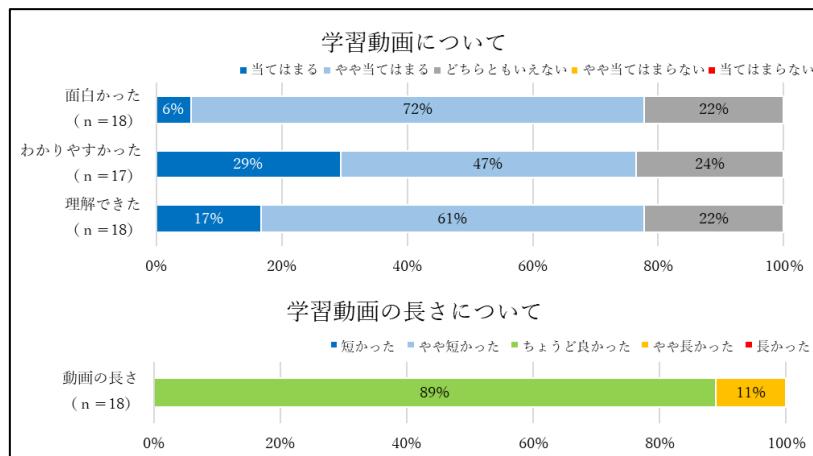


図 5-23 2 時限目 学習動画について

③ アプリについて

デジタル取引体験のアプリは、有識者会議の委員からの意見にもあったがタブレット画面に対して少し表示が小さい傾向にある。少数ではあるが「見やすい」と感じなかった生徒もいることがわかる。一方、2 時限目のコンテンツの中で一番ポジティブな回答が多かった。

表 5-12 2 時限目 アプリについて

対象コンテンツ	アプリ
対象教材	・デジタル取引を体験しよう
実施学校	阿南光高等学校 1年生1クラス
授業形式	対面授業（視察授業）

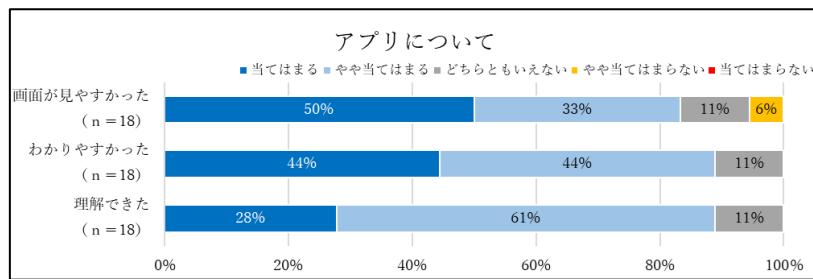


図 5-24 2 時限目 アプリについて

④ ワークシートについて

全ての項目で、80%以上の生徒がポジティブな回答であった。ボリュームについては、少なめに感じた回答はなかった。

表 5-13 2 時限目 ワークシートについて

対象コンテンツ	ワークシート
対象教材	・返品可能か考えよう！ルール上、契約はやめられる？ ・まとめよう！ネット取引トラブルを防ぐための注意点
実施学校	阿南光高等学校 1年生1クラス
授業形式	対面授業（視察授業）

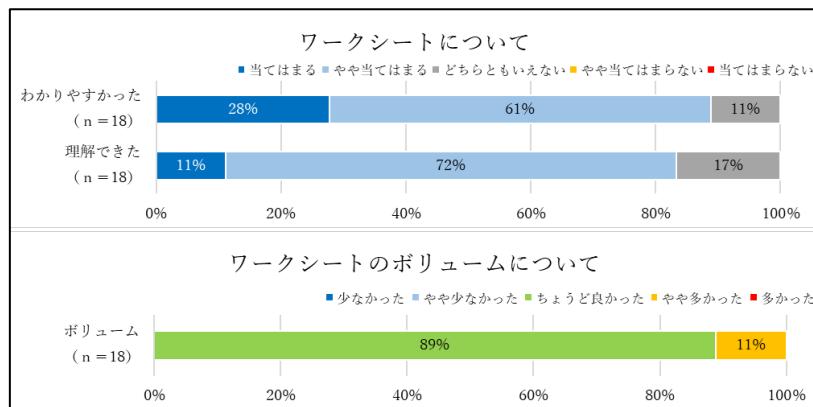


図 5-25 2 時限目 ワークシートについて

⑤ 良かった教材、良くなかった教材について

動画や体験型アプリは生徒が良かったと感じる割合が高い。視覚的に理解できるものや、ゲームのように実際に手を動かせる教材は生徒にとって好印象であることがわかる。

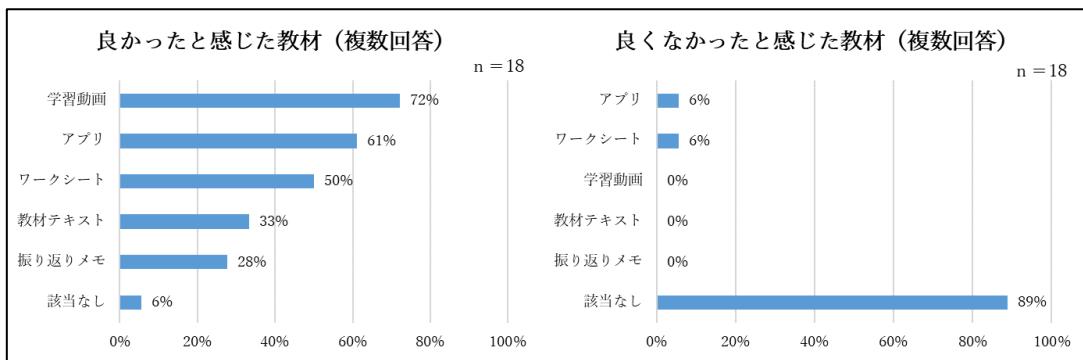


図 5-26 2 時限目 良かった教材と良くなかった教材

⑥ 振り返りメモについて

「あった方が良い」、「使いやすかった」と回答した生徒がどちらも 39% であった。2 時限目は教材が多く、ワークシートで手を動かすこともあるため振り返りメモを使用する生徒が少なかったのではないかと考えられる。

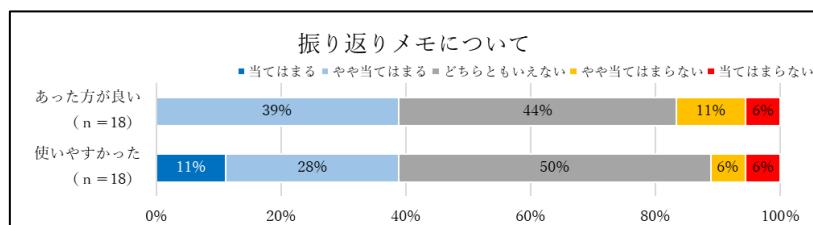


図 5-27 2 時限目 振り返りメモについて

⑦ 授業全体について

「簡単だった」と感じた生徒がおらず、およそ半数が「やや難しかった・難しかった」と回答していた。「更に勉強したいか」の項目はポジティブな意見が半数以下だった。

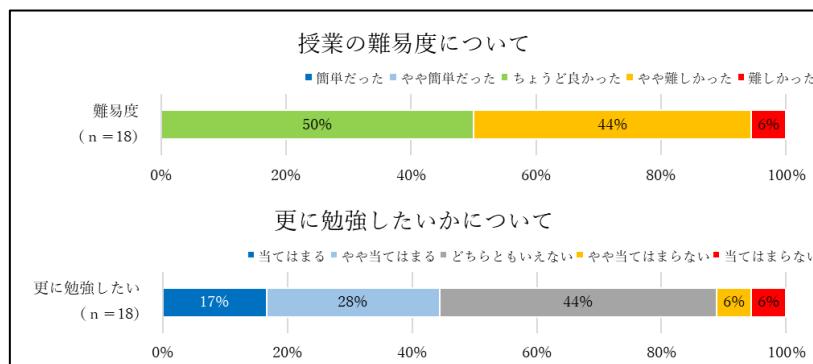


図 5-28 2 時限目 授業全体について

なお、その他の気付きの点を自由記述で照会したが、特になかった。

(c) 3 時限目：支払いと信用取引

以下、各コンテンツに対するアンケート結果を示す。

① 教材テキストについて

90%以上の生徒が「わかりやすかった（当てはまる・やや当てはまる）」、80%以上が「理解できた（当てはまる・やや当てはまる）」と回答している。ボリュームも「ちょうど良かった」と回答する生徒がおよそ 60%であった。

表 5-14 3 時限目 教材テキストについて

対象コンテンツ	教材テキスト
対象教材	・ 学習目標 支払い方法の特徴と仕組みを理解しよう
実施学校	城東高等学校 1年生1クラス
授業形式	対面授業（視察授業）

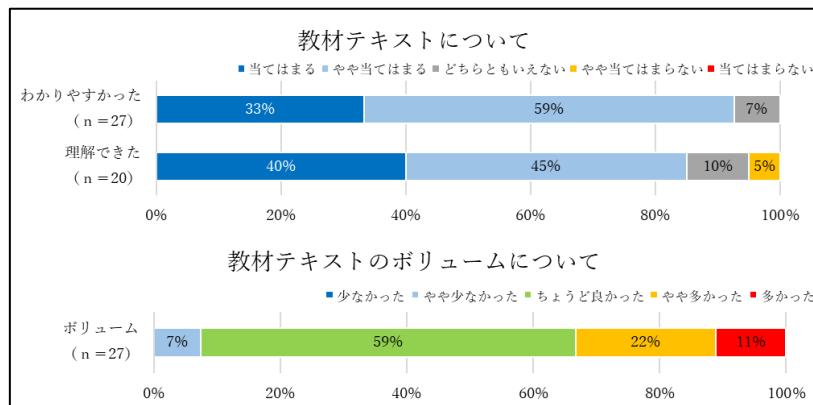


図 5-29 3 時限目 教材テキストについて

② 学習動画について

視察授業では有識者会議委員から「動画が長い」と意見があったが、80%以上の生徒は「ちょうど良かった」と回答した。

表 5-15 3 時限目 学習動画について

対象コンテンツ	学習動画
対象教材	・ キャッシュレス決済の種類と仕組みを理解しよう（5分13秒） ・ クレジットカードの特徴と注意点とは？（6分25秒）
実施学校	城東高等学校 1年生1クラス
授業形式	対面授業（視察授業）

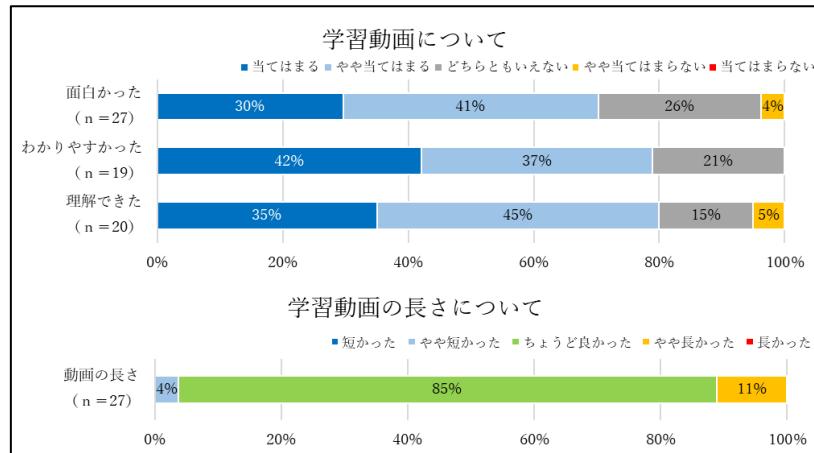


図 5-30 3 時限目 学習動画について

③ ワークシートについて

「わかりやすかったか」、「理解できたか」という項目で、80%以上の生徒が「当てはまる・やや当てはまる」と回答していた。ボリュームについては70%以上の生徒が「ちょうど良かった」と回答した。

表 5-16 3 時限目 ワークシートについて

対象コンテンツ	ワークシート
対象教材	・確認しよう！自分や身近な人が使っている支払い方法 ・説明しよう！自分ならどの決済をどう使う？
実施学校	城東高等学校 1年生1クラス
授業形式	対面授業（視察授業）

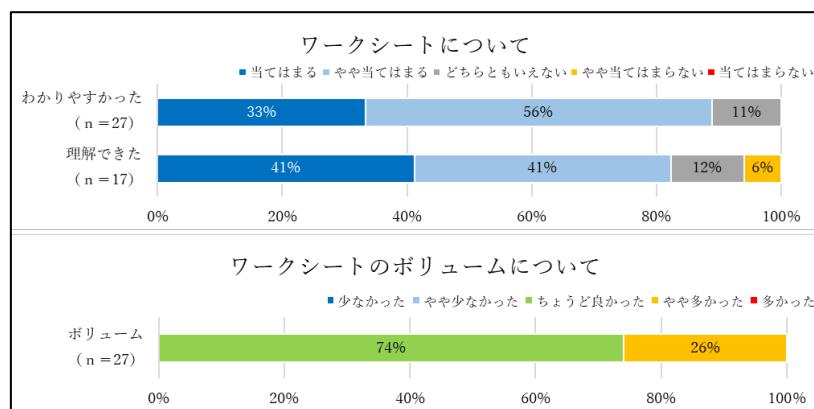


図 5-31 3 時限目 ワークシートについて

④ 良かった教材、良くなかった教材について

他の時限と同様、「学習動画」を良かったと感じた生徒の割合が多かった。「教材テキスト」も半数以上の生徒にとって好印象だった。

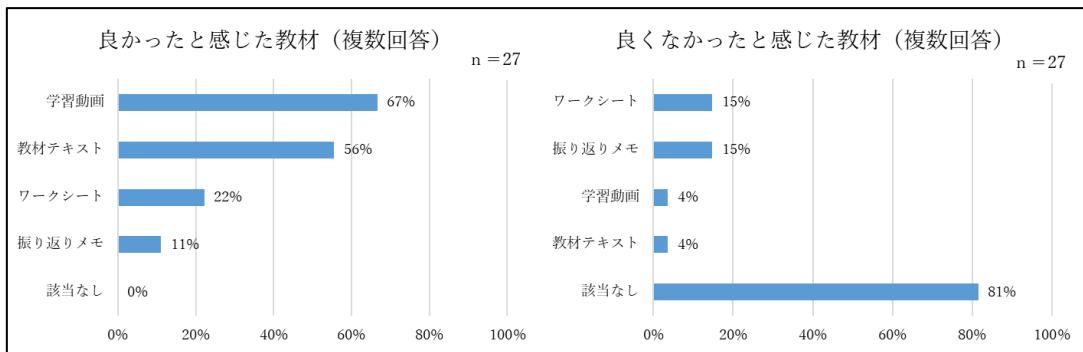


図 5-32 3 時限目 良かった教材と良くなかった教材

⑤ 振り返りメモについて

「使いやすかった（当てはまる・やや当てはまる）」と回答した生徒は半数を超えていたが、「あった方が良い（当てはまる・やや当てはまる）」と回答した生徒は40%程度であった。

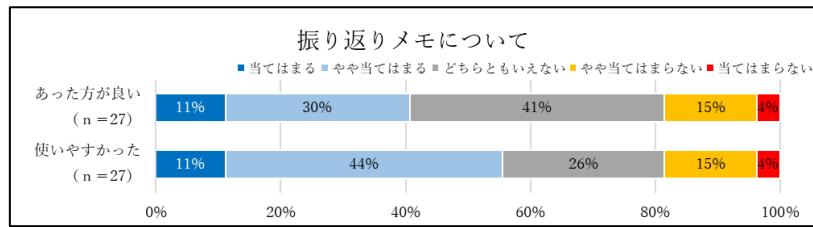


図 5-33 3 時限目 振り返りメモについて

⑥ 授業全体について

生徒の半数が難易度について「ちょうど良かった」と回答しており、それ以外は45%が「やや難しかった・難しかった」と回答している。また、85%の生徒が「更に勉強したい（当てはまる・やや当てはまる）」と感じていることがわかる。

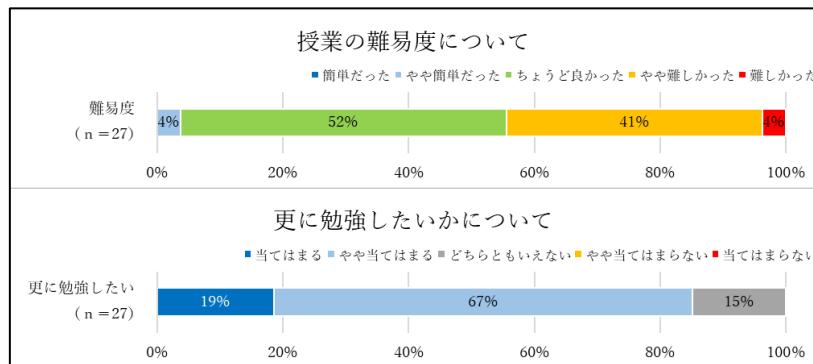


図 5-34 3 時限目 授業全体について

なお、その他の気付きの点を自由記述で照会したが、特になかった。

(d) 4 時限目：消費者の権利と責任

4 時限目は通常授業で実施したこともあり、アンケートの回答数があまり伸びなかった。以下、各コンテンツに対するアンケート結果を示す。

① 教材テキストについて

「わかりやすかったか」、「理解できたか」の項目で、回答内容がほぼ同じだった。また、ボリュームについては、半数以上が「ちょうど良かった」と感じている。

表 5-17 4 時限目 教材テキストについて

対象コンテンツ	教材テキスト
対象教材	・ 学習目標 契約後に生じた問題、どう対応すれば良いだろうか？ ・ トラブルから消費者を守る制度を理解しよう
実施学校	阿南光高等学校 2年生1クラス
授業形式	対面授業（通常授業）

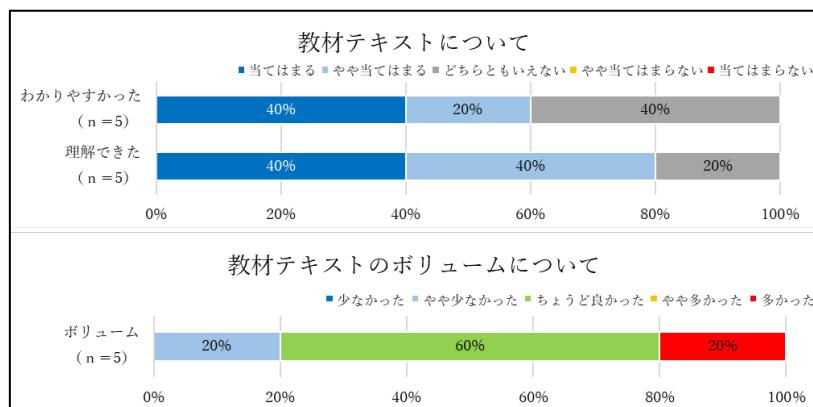


図 5-35 4 時限目 教科書について

② 学習動画について

アンケートに回答した生徒はほぼポジティブな回答をしている。動画の長さについては、「短かった」という回答はなく、「ちょうど良かった・やや長かった・長かった」の回答のみだった。

表 5-18 4 時限目 学習動画について

対象コンテンツ	学習動画
対象教材	・ 消費者を保護する制度の内容を知ろう（6分36秒） ・ 消費生活センターの役割と相談の仕方を知ろう（5分14秒）
実施学校	阿南光高等学校 2年生1クラス
授業形式	対面授業（通常授業）

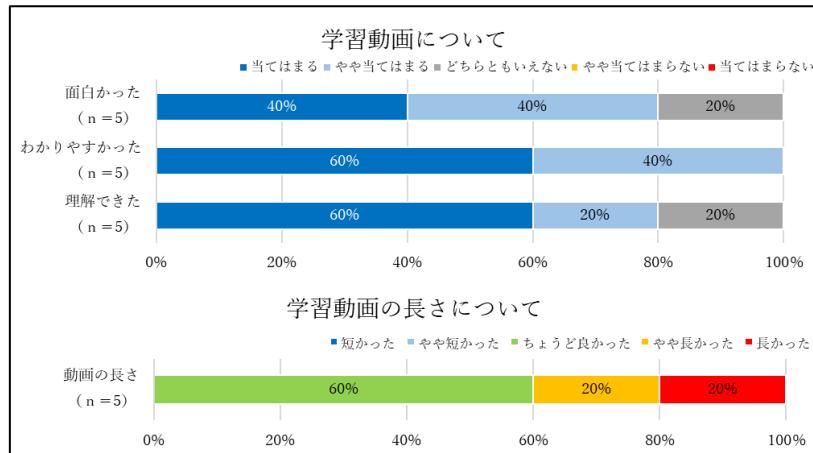


図 5-36 4 時限目 学習動画について

③ ワークシートについて

おおむね「わかりやすく理解できた（当てはまる・やや当てはまる）」と回答した。ボリュームについては、半数以上は「ちょうど良かった」と回答しているが、多く感じる生徒、やや少なく感じる生徒もいた。

表 5-19 4 時限目 ワークシートについて

対象コンテンツ	ワークシート
対象教材	・振り返ろう！契約の基礎知識 ・考えよう！トラブル事例の対応方法
実施学校	阿南光高等学校 2年生1クラス
授業形式	対面授業（通常授業）

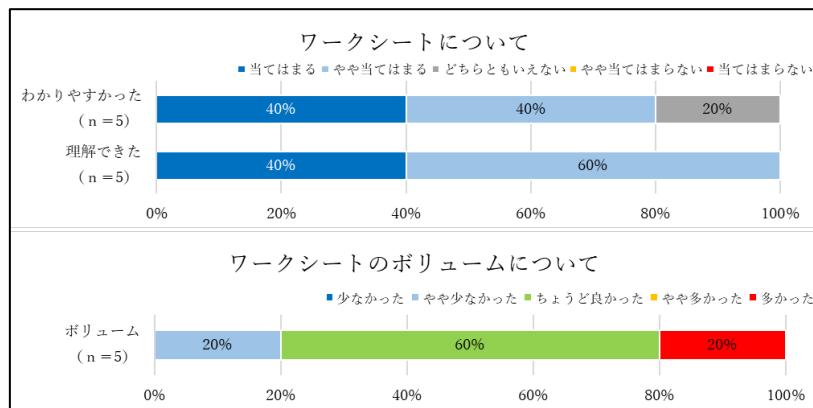


図 5-37 4 時限目 ワークシートについて

④ 良かった教材、良くなかった教材について

学習動画が良かったと感じた生徒が多かった。良かった教材、良くなかった教材共に「該当なし」と回答した生徒もいた。

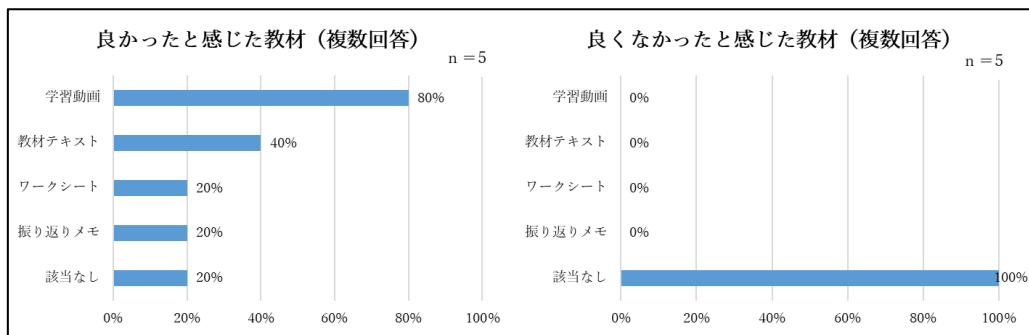


図 5-38 4 時限目 良かった教材と良くなかった教材

⑤ 振り返りメモについて

どちらの項目も、ポジティブな回答が半数未満であった。

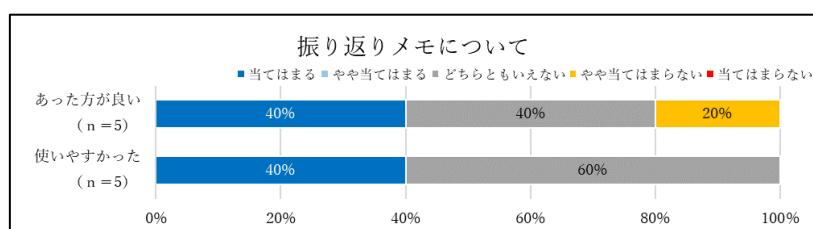


図 5-39 4 時限目 振り返りメモについて

⑥ 授業全体について

簡単だと感じた生徒はアンケート回答を行った生徒の中にはおらず、半数以上が「やや難しかった・難しかった」と回答した。また、回答した生徒は全員「更に勉強したい」と回答している。

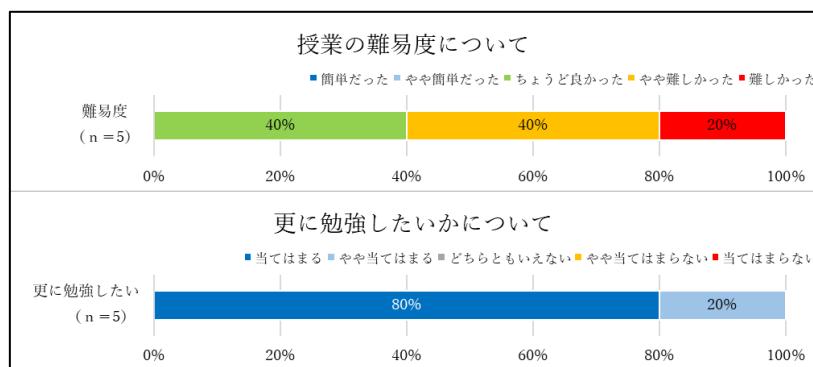


図 5-40 4 時限目 授業全体について

なお、他の気付きの点を自由記述で照会したが、特になかった。

(e) 5 時限目：生涯を見通した経済の管理

以下、各コンテンツに対するアンケート結果を示す。

① 教材テキストについて

80%以上の生徒が「わかりやすかった（当てはまる・やや当てはまる）」、「理解できた（当てはまる・やや当てはまる）」と回答していた。

表 5-20 5 時限目 教材テキストについて

対象コンテンツ	教材テキスト
対象教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習目標 限りあるお金を、人生で最大限に活用するには？ ・ 生活設計 収入と支出、家計の管理方法を理解しよう ・ 保険とローンを理解しよう～30代以降の生活設計～
実施学校	城東高等学校 1年生1クラス
授業形式	遠隔授業

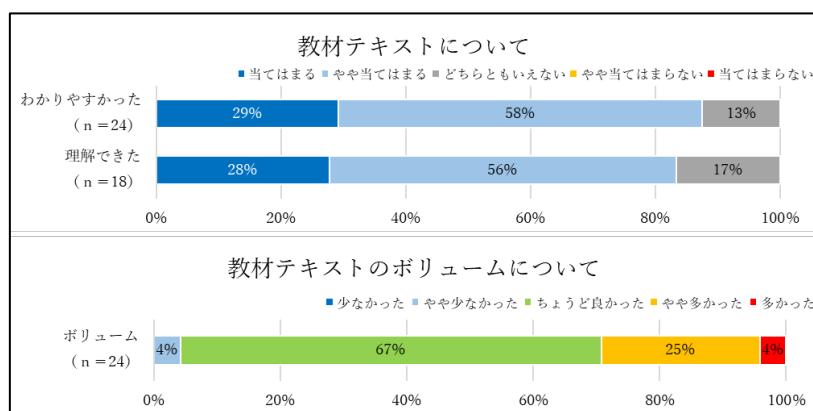


図 5-41 5 時限目 教材テキストについて

② ワークシートについて

およそ 90%の生徒が「わかりやすかった」と回答しているが、「理解できた」と回答したのは 74%だった。

表 5-21 5 時限目 ワークシートについて

対象コンテンツ	ワークシート
対象教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ マネープランシートを作成し、生活設計を学ぼう！ ・ 学習のまとめ
実施学校	城東高等学校 1年生1クラス
授業形式	遠隔授業

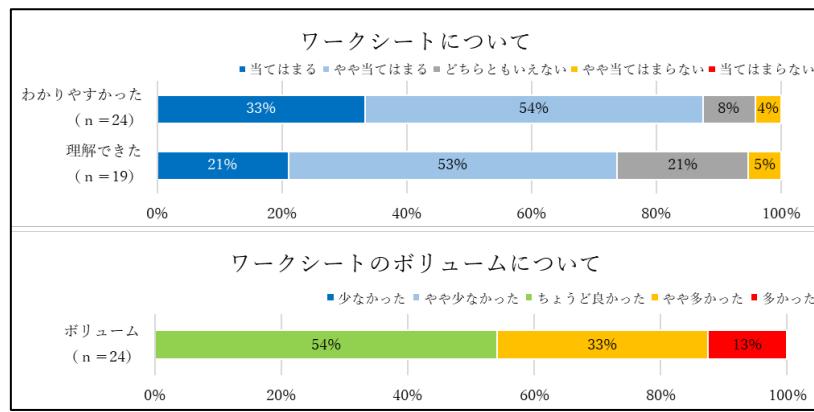


図 5-42 5 時限目 ワークシートについて

③ 良かった教材、良くなかった教材について

半数ほどの生徒が教材テキスト及びワークシートが良かったと回答した。しかしワークシートは良くなかったと感じた生徒も 17%いた。「良くなかったと感じた教材がない」と回答した生徒が 83%であるため、それ以外の生徒は「該当なし」と教材を重複して選択していない限りは全員が「ワークシートが良くなかった」と回答していることが示されている。

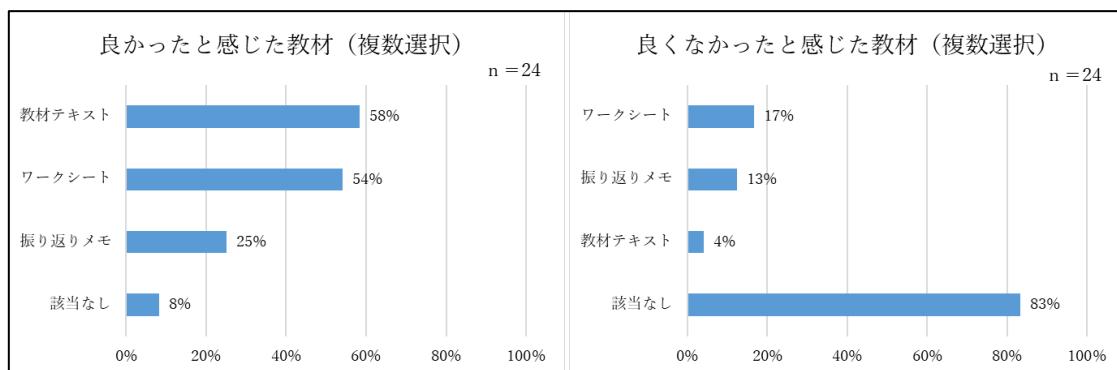


図 5-43 5 時限目 良かった教材と良くなかった教材

④ 振り返りメモについて

半数ほどの生徒が「あった方が良い（当てはまる・やや当てはまる）」と回答した。「使いやすかった（当てはまる・やや当てはまる）」と回答した割合も多く、他の時限よりもポジティブな意見が多かった。しかし「図 5-43 5 時限目 良かった教材と良くなかった教材」で振り返りメモを良かった教材として選択している生徒は 25%ほどであるため乖離が生じている。

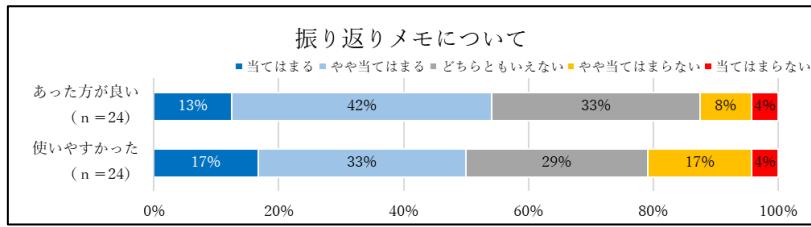


図 5-44 5 時限目 振り返りメモについて

⑤ 遠隔授業について

およそ 70%以上の生徒が 3 項目（画面が見やすかった、聞き取りやすかった、快適に受けられた）で「当てはまる、やや当てはまる」と回答した。「また受けたいか」という項目に対しては、他項目と比較してネガティブな回答がやや多かった。

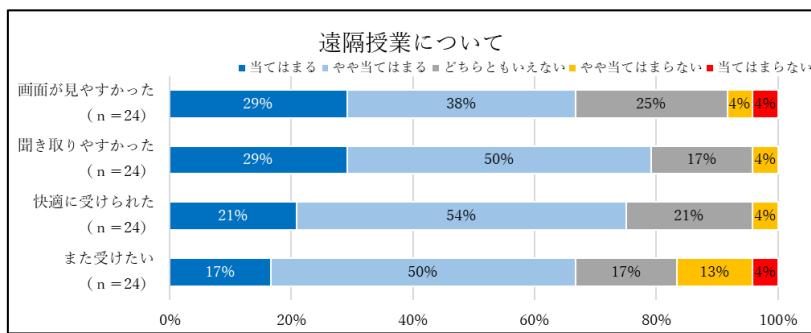


図 5-45 5 時限目 遠隔授業について

⑥ 授業全体について

およそ半数の生徒がちょうど良い難易度だと回答した。「更に勉強したいか」という項目で、60%以上の生徒がポジティブな回答をした。

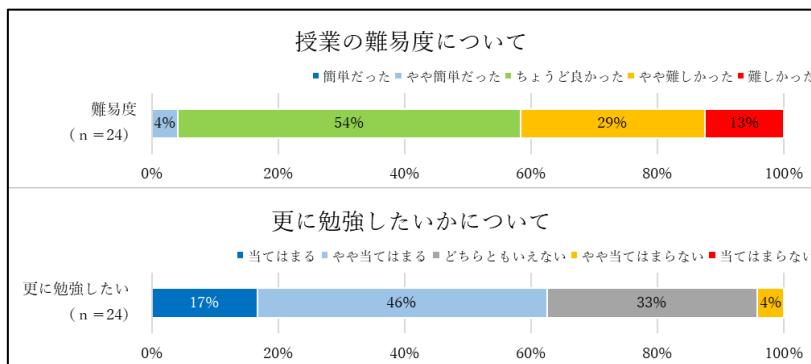


図 5-46 5 時限目 授業全体について

なお、その他の気付きの点を自由記述で照会した結果は以下のとおりである。

- ・ マネープランシートが難しかったのでもう少し説明をして欲しかった

マネープランシートは大きな買物経験が少ない高校生には難易度が高い。各経費にもどれくらい要しているのかも把握するのが難しいことから、もう少し時間を取り詳細な説明をしてほしいという意見もあった。

(B) 教師を対象としたヒアリング

授業前及び授業後に担当教師へヒアリングを行った。

(1) 授業前ヒアリング

各高等学校の担当教師を対象に、オンラインで実施した教師研修にて事前ヒアリングを実施した。

(a) 城東高等学校

① 昨年度までの授業構成

- ・ 主に社会への扉と教科書を併用し授業を行っていた。不安な部分は事前に教師側で調べながら授業を進めていた。まとめについては教科書についているワークで再度知識の定着を図り、ビデオ教材を2本ほど見せる。教科書どおりだと時間が足りないため、ポイントを絞って授業を実施していた。（倫理的消費1時間、社会への扉2時間、ビデオ教材2時間ほど）

② 従来の授業での課題

- ・ とにかく時間がない。授業で実施したいことは多くあるが取まりきらないのが課題である。

③ デジタル教材に期待すること

- ・ デジタル教材を使用して授業を進めることで、生徒が深い学びを得られると嬉しい。

④ デジタル教材を使用する上で不安な点

- ・ デジタル教材を自分が使い慣れていないため、生徒のタブレットの不具合や授業の準備に対応できるのか。
- ・ また、端末を忘れてきたり端末が故障したりといった、タブレットを持っていない生徒へのフォローとして、結局紙での資料も準備しておく必要があるのではないか。

(b) 阿南光高等学校

① 昨年度までの授業構成

- ・ 昨年までは、教科書と社会への扉を使用しており、進め方は教科書を参考に、ワークとして社会への扉のクイズ等を使用していた。
- ・ 社会への扉ができるまでは教科書のみで授業を行っていた。

② 従来の授業での課題

- ・ お金についての話をしたいが、高校生ではまだ財布を握って購入することが少ないため実感が沸かない生徒もいる。
 - ・ また、教科書と先生の知識に差が生まれてきつつあることも課題として考えている。
- ③ デジタル教材に期待すること
- ・ 普段ネット等で買物をしない生徒もいるため、買物シミュレーションアプリでネットでの買物を疑似体験ができることがありがたい。
- ④ デジタル教材を使用する上で不安な点
- ・ 通信障害等によって時間をロスしてしまうのではないか。

(2) 授業後ヒアリング

事前に教師向けに質問シートを作成し、ヒアリングまでに回答を得た。質問シート及び生徒の授業後アンケートの回答を参考に、各高校の担当教師へヒアリングを行った。

質問シートの主な内容は、以下のとおりである。

- ・ 教材、教師用指導手引書及び生徒の様子について
- ・ 事前ヒアリングで伺った問題点・期待・不安について
- ・ 各教材について

ヒアリングの主な内容は以下のとおりである。特に意見があった部分の抜粋とする。

(a) 城東高等学校（3時限目・5時限目）

- ① 教材について
- ・ 問題提起を実生活に即した具体的な動画だと思っていたが、想定と異なっていた。
- ② 教師用指導手引書について
- ・ 押さえるべき点が記載されており使用する教材が図示されているため授業の参考にしやすい。
 - ・ 生徒の実態に合わせて授業を組み立てるため、教師側で教材を精選して使用できること良い。「必須」、「発展」と教材が分かれて記載されていても、「必須」さえも授業内で全て実施はできないように思う。
 - ・ 表面だけ触って授業を進めても、生徒の記憶に残らないのではないかという心配がある。
- ③ 生徒の様子について
- ・ 動画を見てはいたが、理解まではできていないように感じる。
- ④ 「時間が足りない」という実証前の授業の問題点について
- ・ 生徒の理解度が上がってないまま、とにかく進めた印象である。
- ⑤ 「深い学びになるのではないか」という実証前の期待について

- ・ 動画を見てわかったことや感想を書くだけでは深い学びに至っていないのではないか。
 - ・ 今のボリュームを全てこなして深い学びを得るのは難しい。
 - ・ 「ご自由に」という形で参考資料として使用できるのであれば教師は嬉しいと思う。
- ⑥ タブレットや授業準備に関する不安について
- ・ 修理中のタブレットがあったり、MetaMoji 又はマイクロソフトの ID 及びパスワードの再発行で、一部は県に対応を依頼したりした。その上で、前日及び当日にもトラブルがあった。
 - ・ 元々MetaMoji をあまり授業で使用していなかったため良い機会にはなった。
 - ・ 自由に書き込むワークシートのほかに、穴埋め式等のワークシートも必要だと感じる。一問一答のような形で知らない言葉と意味を紐づけていかなければ理解度につながらない。
 - ・ 制作側も、生徒が理解できない部分を考慮しきれていなかった。
- ⑦ 3 時限目の教材について
- ・ 「説明しよう！自分ならどの決済をどう使う？」については、一問一答にするか、必要項目を各自で調べさせるようにすべき。自由に調べて自由に発表するのでは不安である。
 - ・ 動画は、重要な内容がさらさらと流れていった印象。
- ⑧ 5 時限目の教材について
- ・ 教材テキスト「生活設計 収入と支出、家計の管理方法を理解しよう」は、短時間で実施しても理解が難しい。
 - ・ 教材テキスト「保険とローンを理解しよう～30 代以降の生活設計～」は、内容を絞り、言葉を一つずつ押さえていく必要がある。
 - ・ ワークシート「マネープランシートを作成し、生活設計を学ぼう！」は、少ないお小遣いの中でやりくりしている高校生にとって 1 時間でも難しい内容である。
 - ・ ワークシート「学習のまとめ」は、自由記述では重要部分が得られているのか不安。
- ⑨ その他
- ・ せっかくの教材なので、もう少しじっくりと実施できたら良いと感じた。

(b) 阿南光高等学校（1 時限目・2 時限目）

- ① 教材について
- ・ アニメーションが多いイメージ。
 - ・ どの場面でどの言葉が出て来るのかを把握しておかないと後ほど出て来る内容を先に喋ってしまうことがあったため、少しアニメーションも減らして良いように感じた。
- ② 教師用指導手引書について
- ・ 初めて使用する教材のため、指導書を頼りに授業を進めた。

- 教師用指導手引書をダウンロード後、ファイル名でも使う順番がわかる番号などが整理されていればもっと使いやすいと感じた。
- ③ 管理機能について
- 受講履歴をクラス順で並び替えることができるなど、やり方次第で有効活用できることを感じた。
 - 授業後でもゆっくり点数等が確認できるようになると良い。
- ④ 回線トラブルについて
- 別項「5.1.7 (C) (2) (e) その他」に記載する。
- ⑤ 2 時限目の教材について
- 教材テキスト「契約の基礎を確認～なぜ返品できたり、できなかったりするの？～」はシート 6 と 7 の内容が似ており、先にシート 6 でシート 7 の内容を説明してしまい同じことを 2 回言う形となってしまった。授業準備時に自分で資料をカスタマイズすれば問題ないとは思う。
- ⑥ 1 時限目の教材について
- 授業をしながらだとアニメーションの次の展開/言葉が把握できていない上に、画面を見ながら喋り、説明するのが難しい。アニメーションの動きが少ない方が、説明に集中できる。
 - 授業のパターンによって、アニメーションのオン/オフの切り替えができるという内容を指導書に書き込むなど検討する。

(C) 現地調査レポート

高等学校での実証授業を視察した有識者会議委員からの先生、生徒の様子及び教材そのものについての意見を踏まえ、操作性・授業の進め方・生徒の様子・教材関連に分類した。調査レポートの主な内容を以下に示す。

(1) 3 時限目（城東高等学校）

城東高等学校での視察授業に関し、委員から指摘があった主な事項を示す。

なお、視察には以下の有識者会議委員が参加した。

参加委員：坂本座長、阿部委員、齋藤委員、坪田委員、阪東委員

(a) 操作性について

- ファイルが多いため、切替え操作を習得してもらう必要がある。スライドに動画も組み込んでおくなど、ファイル数を減らす工夫が必要かもしれない。
- 準備時間が短かったためだと思うが、まだ先生の操作が慣れていないように感じた。
- MetaMoji、スライド（動画）などのツールが多く、教師の操作や切替えが大変そうな印象を受けた。

(b) 授業の進め方について

① 授業準備

- ・ 一度授業の形式が確立すれば工数は減ると思うが、先生をサポートするための指導案や授業例の紹介が充実すると良い。
- ・ デジタル教材と先生の説明とでそれぞれどの部分を学ばせるのか。そのため複数の指導案や、先生が説明しやすいテーマに関する周辺情報について教師用指導手引書に書かれていると役立つのではないか。

② 授業中

- ・ 授業の中でうまく教材を活用しており、スムーズな展開であった。
- ・ ビデオを2本利用に加えて、説明の時間が必要になるため、活動の時間が確保できない。
- ・ 机間巡回をせず、生徒の解答振りを即座に理解できるのは良い。
- ・ これまでの時間配分と異なるため、試行錯誤と時間が必要であると思った。
- ・ 消費者教育は身近な生活を結び付けて、「実践的」な学習をすることが大切であるため、先生がご自身の体験を話されたことはとても良かった。
- ・ 授業全体の情報量が多いのでペース配分の工夫が必要だと思った。

(c) 生徒の様子について

① 端末操作について

- ・ MetaMoji サーバがつながらない等の対応も自己解決できていた。
- ・ 端末を開きスムーズにできていた。
- ・ これまで、手書きで書く時間を想定していたが、入力時間の想定が必要だと思った。
- ・ 生徒が若干入力に戸惑っている様子があったため、入力時にフォントサイズの指定などをするよりスムーズになると思う。

② 受講の様子

- ・ 動画などをよく見ていた。しかし後半、文字ばかりの説明だったので付いていけない生徒も出てきそうに思う。
- ・ 動画とまとめシートが連動しているため、スムーズにまとめができていた。
- ・ 班内で動画を見る・先生の話を聞く・入力するのみだったため、黙々、淡々とした様子だった。最後のまとめの入力時まで生徒の理解度がわからない状態だった。
- ・ 動画のクイズに反応している生徒がいたので良かった。
- ・ 支払方法の動画について、解説内容がわかりやすく生徒も注目していた。一方で「見るだけ」になっていたため、要点や気付いた点をメモ書きできると後半の振り返りにつながって良いと思う。
- ・ スクリーンとタブレット端末だけで授業は終わった印象。もう少し生徒の意見や発表を言葉で聞きたかった。

(d) 教材について

① 見やすさ（色彩・文字サイズ）について

- ・ 黄緑は明るい教室では見えにくい。
- ・ プロジェクタで投影すると、色つき文字（グレー含む）の視認性が低い。
- ・ 自習用として各自の端末で見る場合は問題がないが、教室でスクリーンに映す場合は、後ろの席の生徒は文字が小さくて見にくい。

② 聞き取りやすさ（音声）について

- ・ 音声は問題なかった。

③ 動画「キャッシュレス決済の種類と仕組みを理解しよう」について

- ・ 授業で使う場合は、質問の回答をカウントダウンで終わらせ、生徒が一斉にタブレットへ入力して、それぞれの回答人数が出力されると良い。
- ・ 全体のテンポが少し速い。生徒のレベルによっては、付いていくのが難しいのではないか。
- ・ 動画の説明の音声が早い。長すぎる。

④ 動画「クレジットカードの特徴と注意点とは？」について

- ・ クレジットカードを持てる年齢については、導入として軽く質問といった位置付けのようだが、せっかく質問をするのであれば、質問の解答をしっかりと覚えて欲しい内容にした方が良いのではないか。

⑤ ワークシート「説明しよう！自分ならどの決済をどう使う？」について

- ・ もう少し動画の各場面のポイントをチェックできるような、細かな項目があると良い。
- ・ 動画を見た後に「注意点としてわかったこと」を書くようになっているが、その前に確認をしておいた方が良い生徒もいるのではないか。

⑥ 全体について

- ・ なめらかに説明が進んでいるが、重要な部分やわかりにくい部分は少し説明の速度を落とす、間を置くなど、メリハリが必要だと感じた。
- ・ PDFは一括のものと、パートごとに分かれたものを提供しておくと親切だと思う。
- ・ 動画内の情報は加工できるように、1シーンごとにPDF等で配布できると便利だと思った。
- ・ 動画は、基本的には親しみやすく、テンポもよく、既存のものよりレベル高いと思うが、各教科書会社が出するものと重ならない内容や、デジタル社会に相応しい動画であった方が良いのではないか。

(e) その他

- ・ 聞くのが中心の授業になってしまい、主体的で対話的な学びにはあまりならなかつたのが大きな反省点である。
- ・ 生活との結び付きが実感できなかった感じする。色々な実例を紹介して、自分の生活に取り入れたい方法を考えさせるようにしたかった。
- ・ 全体的に動画の尺が短いことは良いと思う。もっと細切れでも、授業においては使いやすいかもしれない。
- ・ しっかり学ぶには時間が短いと感じても、自習用では長いと使いづらい。また、動画が長いと授業では先生の出番がなくなってしまう。

(2) 2 時限目（阿南光高等学校）

阿南光高等学校での視察授業に関し、有識者会議委員から指摘があった主な事項を示す。

なお、視察には以下の委員が参加した。

参加委員：坂本座長、阪東委員

(a) 操作性について

- ・ 教師はスムーズに使えていた。
- ・ 生徒はアプリの操作などに、さほど困っていない様子だった。

(b) 授業の進め方について

- ・ テンポ良く画面を切り替えて説明及び補足説明までされていたが、一通り流すのが精一杯といった感じもあった。
- ・ 重要な点は強調したり、途中で生徒に聞いてみたりするなどの時間を取りするのが本来は理想である。
- ・ 学習目標のところで、本日の学習活動について予告しておくことが重要である。
- ・ ネットショップやフリマアプリを使ったことのない生徒が多くないことを想定し、授業の最初に体験を入れるように授業の構成も組み替えた方が良い。
- ・ 時間がタイトだった。扱う知識の量が多いため、読んで学ぶ時間を設定しても良い。
- ・ 班活動の際は、基本的には少量の資料と教科書を読み取れば、活動が完結するようになりたい。
- ・ 最後の活動に途中の資料があまりいきていないと感じた。
- ・ MetaMoji を使うのであれば、クラスメイトのシートを閲覧してから発表という流れが良いと思う。
- ・ 始めに「何を見るべきか、聞くべきか」を示しておいてそれに対するメモを書かせる方が良いと思った。

(c) 生徒の様子について

- ・ ネットショップを自分で使ったことがある生徒が少なく、返品できるかどうかなど、全くわからないといった様子のように感じた。
- ・ MetaMoji で外部リンクが表示されなかつたが、対応はスムーズにできていた。
- ・ スライドとメモの対応が難しそうだった。キーワードと学習時間を抑えるシートが必要。

(d) 教材について

- ① 動画「電子商取引の契約とは」について
 - ・ 動画は、画面例のイラストが足りない。
 - ・ 一生懸命観ていたが、ネットショッピングをあまり使用したことがない生徒は「何の話だろう」と思ったのではないか。
- ② アプリ「デジタル取引を体験しよう」について
 - ・ 文字ばかりで、文字自体も小さいと感じた。
 - ・ インターネットでの購入を経験したことがない場合も想定して、もっとリアルな体験ができるアプリにする必要があると感じた。
 - ・ 表示が小さい。
- ③ ワークシート「返品可能か考えよう！ルール上、契約はやめられる？」について
 - ・ ケース自体が難しいと思った。「全然知らない」ということを自覚させる導入にとどめ進めた方が良い。
- ④ テキスト教材「学習目標 デジタル時代の購入方法とルールを理解しよう」について
 - ・ フリマや通販の使い方をシミュレーションした後に、調べ学習で注意点をまとめるということを最初に伝えるよう、学習目標のスライドも修正すべき。

(e) その他

- ・ 消費者庁でもう少し若者向けのデジタルプラットフォームの重要な点をまとめておいていただけだと授業で活用しやすい。
- ・ 「このようなキーワードで検索してはどうか」というようなことをガイドで記載しておくのはどうか。
- ・ 発生した主なトラブルについて

【教師用の投影用端末のネットワーク不調】

一部のクラスで回線が不安定で接続が途切れ授業にならず、隣の教室に移動して授業を受けていた。遠隔授業前に別フロアで接続していた Wi-Fi が設定されており、別の Wi-Fi に再接続したところ回線が安定した。(生徒用端末は問題なく接続できていた。) 一部クラスについては、教師用端末で画面表示できず初動が遅れることもあり、生徒も先に進めず事務局側でフォローしながら進めた。

【生徒用端末に MetaMoji が入っていない、充電切れで端末が使用できない】

授業当日に生徒用端末に MetaMoji がインストールされていなかった。また、充電切れでタブレットが使用できない生徒がいた。投影画面を見ながら他の生徒の端末を見せてもらった。

【生徒用端末で MetaMoji のファイルが開けない】

MetaMoji で同期しないと該当フォルダが表示されず、先に進めなかった。一斉に同期が行われたこともあり、一部の生徒は最後まで該当フォルダが開けない状態であった。

【生徒用端末で Web ポータルにログインできない】

事前資料の配布状況がクラスによって異なったため、生徒がポータルサイトの URL、ユーザー名及びパスワードがわからないクラスがあった。生徒一人一人に対して口頭でフォローを行っていたため進捗が遅れた。

上記トラブルに対し、教師研修の際に各クラスの担任教師へ端末を使用して説明を行っておくべきだったのではないかと考えられる。また、教師端末に回線不良があったことから、事前に想定し資料を生徒へ配布したり、黒板に記載したりすると良かったのではないかと考えられる。

(D) 授業後座談会

視察授業当日の授業直後に、担当教師及び視察授業に参加した有識者会議委員で座談会を行った。座談会での主な意見を以下に示す。また、委員が視察授業時に記載した事項と内容が重複する場合は別項「5.1.7 (C) 現地調査レポート」に記載する。

(1) 3 時限目（城東高等学校）

座談会における主な意見は、以下のとおりである。

- 支払いタイミングの特徴や一括・リボ払いの特徴など、内容を付け加えた方が良いと感じた教材もあった。
- どんな完璧な教材でも他の人が作成した教材でそのまま授業をするということは難しいのでカスタマイズしやすくしておくことも大事だと思った。
- ワークシートを新しく作成し、動画の使い方等はある程度先生によって足し引きしていただき、関連資料が提供されていれば十分なのではないかと感じた。
- 自学・自習として非常にわかりやすく、まとまっている。完成品としてできているデジタル教材の中に、先生がどのような形で補足するのが良いのかといった兼ね合いが大変難しい。
- 授業準備をしていて思ったのが、授業のためのツールなのか、生徒が一人で学習するためのツールなのかという点をはっきりさせた方が良いと感じた。
- 書いた内容を見る時間を作る等授業構成を考えながら進めると更に良い授業づくりになると感じた。

- ・ 内容が多すぎて難しいため、大事な部分に絞って示すことも必要なのではないかと感じた。

(2) 2 時限目 (阿南光高等学校)

座談会における主な意見は、以下のとおりである。

- ・ 分刻みで設定があったため（授業内に終わるよう授業を進めなければならない）プレッシャーはあった。
- ・ インターネットショッピングのアプリは、良いと思っていたが生徒によっては操作が難しく困っていた生徒もいた。
- ・ 「このようなキーワードで検索してはどうか」というようなことをガイドで記載しておくなど検討できる。
- ・ メモすべき点がわかる生徒にはわかるが、わからない生徒については、「何を見るべきか、聞くべきか」を示しておいてそれに対するメモを書かせる方が良いと思った。
- ・ 最後生徒が書いたシートを私が読み上げたのだが、できれば生徒から自分がまとめたポイントを言えるような時間があった方が生徒の印象にも残ったのではないか。

5.1.8 効果検証

高校実証授業におけるアンケート調査、現地調査レポート、座談会・ヒアリング等で集まった意見を基に、制作した教材の効果について考察を行った。

1 時限目は、良かったと感じた教材で「該当なし」と回答した割合が高い。使用するコンテンツが多いこともあり、特に印象に残るコンテンツがなかった生徒もいたのではないかと考えられる。

2 時限目は、「簡単だった」と感じた生徒がおらず、生徒の半数が「難しかった」と感じていた。「難しかった」と回答した生徒が「更に勉強したいか」の項目でポジティブ又はネガティブな回答に偏ることはなく、難易度と今後の勉強意欲にはあまり関連は見られなかった。

3 時限目は、「更に勉強したいか」という項目でポジティブな回答が非常に多かった。半数ほどの生徒が「難しかった、やや難しかった」と回答したにもかかわらず学習意欲が高いのは、キャッシュレス決済はより生徒に興味深い内容だったのではないかと考えられる。

4 時限目は、回答数が少なかったこともあるが、「良くなかったと感じた教材」が全て「該当なし」だった。また、全員が「更に学習したい」と学習意欲を高められたことがわかる。

5 時限目は、ワークシートのボリュームについて、「やや多かった・多かった」と回答した割合が高かった。マネープランシートは難しかったと自由記述でも意見を得た。難易度が高いため、ボリュームも多く感じたのではないかと考えられる。

これらの結果を踏まえて、教材をより良く効果的なものへ改善するため、有識者会議委員の指摘も踏まえつつ、教材改修を行った。教材改修については「6.2 教材改修」に記載する。

5.2 成年消費者向け研修

5.2.1 実証概要

企業4社（パナソニック株式会社、明治安田生命保険相互会社、株式会社ときわ、株式会社フジみらい）において、従業員に「4 啓発用デジタル教材」にて制作したコンテンツを用いたeラーニングを行った。実証の流れを「図 5-47 実証研修の流れ」に記載する。



図 5-47 実証研修の流れ

本実証では成年消費者向け研修の実施対象については、企業に特化したものとしている。

実証期間中、各企業が「4 啓発用デジタル教材」で制作したコンテンツを用いた社員研修を行う際、問合せ窓口としてヘルプデスクを設置し、メールや電話にて支援を行った。

また、研修の前後には、受講者や企業担当者に対してアンケートやヒアリングを行い、制作したコンテンツが研修を実施するために効果的な内容となっているか、調査・分析を行った。

実証授業に向けて、各企業の担当者に対し、実証研修の目的と実施内容を以下の内容で説明した。

5.2.2 実証準備

実証研修に向けて、企業担当者に対し、実証研修の目的と実施内容について実証計画書を基に説明した。

5.2.3 システム構成

本実証研修におけるシステム構成について下図に示す。

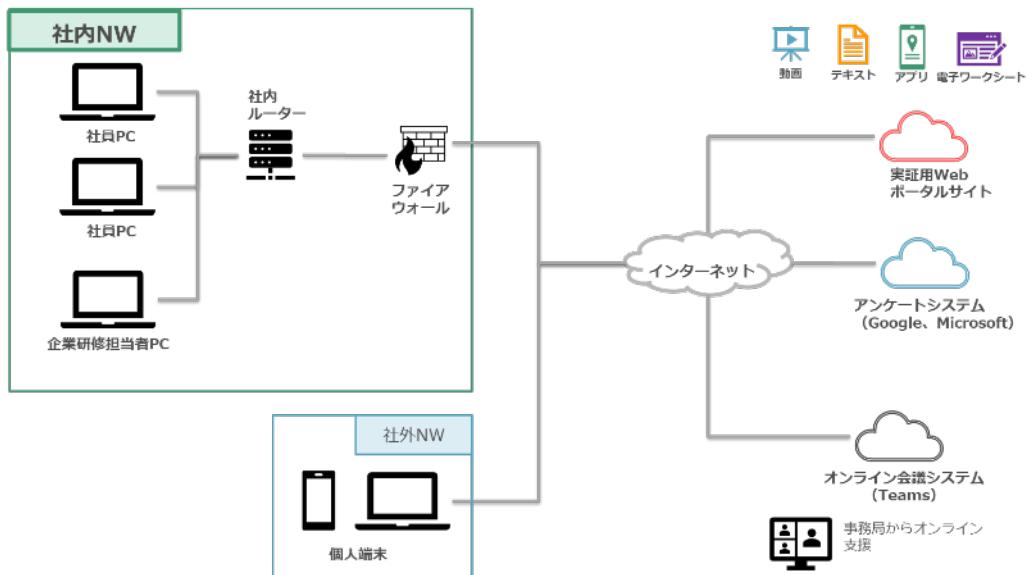


図 5-48 実証環境 (e ラーニング)

(1) web ポータルサイト

学習者のスタイルに合わせて、より学びやすい学習環境の提供を目的とした web ポータルサイトを構築し、スマートフォン、タブレット、PC (Windows 等) で動作するマルチプラットフォームにて公開した。実証期間中は関係者のみが閲覧できるよう、Basic 認証を用いて公開した。(公開期間は、実証期間中の期間限定公開とした。)



図 5-49 web ポータルサイトイメージ図

高校実証と同様、web ポータルサイトのメインページより全てのコンテンツへアクセスできる構成であるため、e ラーニングの研修ページへのアクセスもここから行う。また、e ラーニング研修で使用する動画についても、この web ポータルサイトからダウンロード及び視聴が可能となっている。

(2) 端末

実証研修を利用する学習者の端末は基本的に各企業にて準備することとし、社内 PC を利用した。また、営業担当で外出の多い社員や、在宅勤務等の場合は、自宅 PC、タブレット、スマートフォン等の個人端末の利用も可とした。

(3) アンケート

制作したデジタル教材、及びデジタル教材を用いた研修が効果的な内容となっているか調査・分析を行うため、実証研修の前後に Microsoft Forms にてアンケートを実施した。

アンケートの詳細については、「5.2.7 効果測定」に記載する。

5.2.4 対象シナリオ

1.1 企業研修向けに、6つのテーマの e ラーニングを使用して実証研修を実施した。e ラーニングは若年者層向け、中高年者層向けに分かれており、テーマ 3 が年代別、それ以外のテーマは共通として各層向けに 5 テーマずつ設定した。シナリオの詳細は別項「4.1.1 (2) 研修シナリオ」に記載している。

5.2.5 実証研修準備

社内への展開方法やポータルサイトの使用方法（ルームの作成等）について企業担当者向けに研修を実施した。また、パナソニック株式会社及び明治安田生命保険相互会社は企業担当者が複数いることから、2回に分けて企業担当者研修を行った。

表 5-22 企業担当者研修概要

	パナソニック 株式会社	明治安田生命保険 相互会社	株式会社ときわ	株式会社フジみらい
実施日	①令和3年11月25日(木) ②令和3年12月13日(月)	①令和3年11月19日(金) ②令和3年11月26日(金)	令和3年11月26日(金)	令和3年11月19日(金)
出席者	①田中委員 他担当者3名 ②田中委員 他担当者3名	①坂田委員 他担当者1名 ②坂田委員 他担当者2名	担当者2名	担当者2名
主旨	ポータルサイト及び e ラーニング並びに操作説明書についてのご説明、e ラーニングのデモを行う。 また、ヘルプデスクについてのご案内と、アンケート及び座談会についての認識合わせを行う。 企業によっては、社内のネットワーク環境を再確認する。			
実施方法	Microsoft Teams			

5.2.6 実証研修

以下の日程で、各企業にて「4.1.3 (2) e ラーニング」に記載している e ラーニングを使用した実証研修及び Microsoft Forms のアンケートを実施した。若年者層向け e ラーニング又は中高年者層向け e ラーニングを選択し、そのうち任意で受講するよう進めた。業務で忙しいことを考慮し、一部受講者には「少なくとも 2 テーマを受講」と目標設定し依頼した。

表 5-23 企業研修期間

	パナソニック 株式会社	明治安田生命保険 相互会社	株式会社ときわ	株式会社フジみらい
研修期間	令和3年12月22日（水） ～令和4年1月24日（月）	令和3年12月13日（月） ～令和4年1月7日（金）	令和3年11月30日（火） ～12月16日（木）	令和3年12月7日（火）

以下、e ラーニング研修の受講者の様子を掲載する。



図 5-50 e ラーニング研修を受講する様子

5.2.7 効果測定

(A) 従業員アンケート

教材及び e ラーニングのブラッシュアップを目的に、実証研修対象企業で研修後アンケートを合わせて実施した。また、徳島企業 2 社へは研修前にもアンケートを依頼して実施した。

(1) 研修前アンケート

e ラーニングでの研修前に、受講者が消費生活についてどのような事前知識があるのかを確認することを目的に研修前アンケートを実施した。有識者の先生の設問案からアンケートを作成し、消費生活についての事前知識として確認した項目を下表に取りまとめた。

表 5-24 企業研修 研修前アンケートでの確認項目

確認項目	内容
① インターネットでの買物経験	過去にインターネットを使用して買物をした経験があるかを確認する
② 過去の消費生活についての学習内容	今までに消費生活についてどのようなことを学習してきたかを確認する

実際のアンケート内容は以下のとおりである。

1. あなたはインターネットを使って以下の買物をしたことがありますか。

自分自身でしたことがあるものを全て選んでください。(複数選択) ※必須

- a) ゲーム、アプリ、スタンプなど有料でダウンロードする（音楽、映画、電子書籍なども含む）
- b) ネット通販で買物する（お店やショッピングモールの通販サイト）
- c) フリマアプリ等で買物する

2. あなたは今まで以下の内容を学習したことがありますか。

当てはまるもの全てを選んでください。(複数選択) ※必須

- 1. 物の選び方、買物のしかた
- 2. 支払いの方法や特徴
- 3. お金の管理のしかた
- 4. 様々な悪徳商法
- 5. 買物の決まり、契約について
- 6. 消費者トラブルに遭った場合の対応
- 7. 消費者問題の歴史
- 8. 消費者の権利と責任
- 9. 上記に当てはまる学習をしたことがない

3. 所属（例）企業名、XXX部XXX課（自由記述）※必須

以下の日程で徳島県内の企業2社に対して、消費生活の事前知識についてのアンケートを実施した。

表 5-25 消費生活に関するアンケート（企業向け）

	株式会社ときわ	株式会社フジみらい
調査期間	令和3年11月30日（火） ～12月16日（木）	令和3年12月7日（火）
調査対象	21名	10名
調査主旨	eラーニング受講者の消費生活についての事前知識を確認する。	
調査方法	Microsoft Forms	

アンケート結果は以下のとおりである。

90%以上の受講者がインターネットを通して買物をしたことがあることがわかる。また、消費生活について、学習経験は各項目で半数以下であり、全く学習したことがない受講者も16%いた。「消費者問題の歴史」については特に学習経験が少ないとわかる。

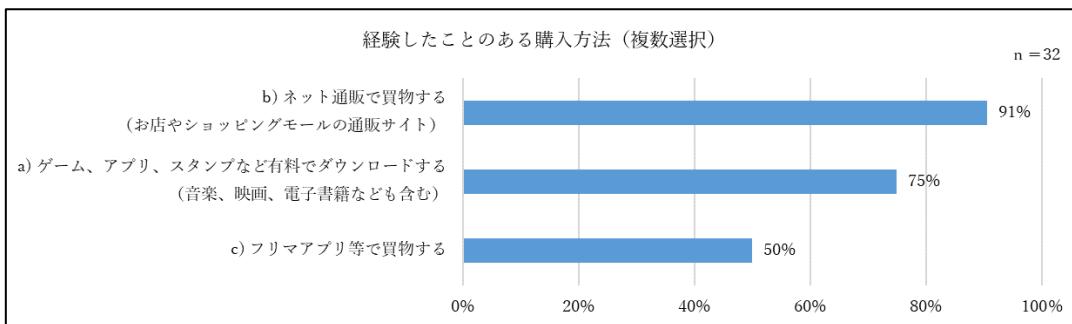


図 5-51 インターネットでの購入経験

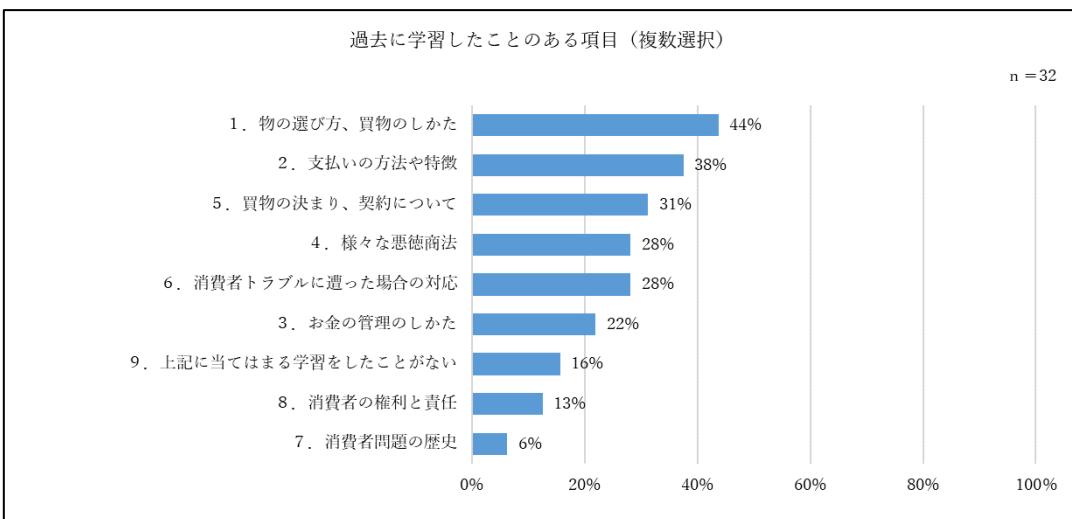


図 5-52 消費生活についての学習経験

(2) 研修後アンケート

e ラーニング使用後に所感として主にユーザビリティの観点で確認が必要な項目を整理し、下表に取りまとめた。

表 5-26 企業研修 研修後アンケートでの確認項目

確認項目	内容
① 受講経験	過去に e ラーニングを受講したことがあるかを確認
② 受講場所	今回の e ラーニングをどこで受講したのかを確認
③ 使用端末	今回の e ラーニングはどの端末を使用して受講したのかを確認
④ 各テーマの教材への所感	1～5 のテーマごとに、説明のわかりやすさ、理解度チェックの難易度、理解度チェックの解説のわかりやすさ、受講時間、全体の理解度について確認
⑤ デジタル社会の消費者問題への理解度	e ラーニングを通して、デジタル社会の消費者問題についての理解が深まったかを確認

実際のアンケート内容は以下のとおりである。

(e ラーニングについて)

- 過去に e ラーニングを受講したことがありますか？（3 択、単一選択）※必須
選択肢：はい、いいえ、わからない
- 今回、どこで e ラーニングを受講しましたか？（3 択、単一選択）※必須
選択肢：自宅、会社、その他（自由記述）
- 今回、どの端末を使用して受講しましたか？（4 択、単一選択）※必須
選択肢：パソコン、タブレット、スマートフォン、その他（自由記述）
- テーマ 1（共通）「電子商取引の契約とは」を受講した方はご回答ください。
- テーマ 2（共通）「クレジットカードの特徴と注意点とは？」を受講した方はご回答ください。
- テーマ 3（若年者層向け）「デジタルプラットフォームの仕組み、注意点、トラブルに遭った時の対応」を受講した方はご回答ください。
- テーマ 3（中高年者層向け）「お金の管理(収支予算の算出、多重債務)」を受講した方はご回答ください。
- テーマ 4（共通）「消費者を保護する制度の内容を知ろう」を受講した方はご回答ください。
- テーマ 5（共通）「消費生活センターの役割と相談の仕方を知ろう」を受講した方はご回答ください。

（4.～9. 内 共通設問）

- 【動画】説明がわかりやすかった（5 択、単一選択）
- 【理解度チェック】簡単だった（5 択、単一選択）
- 【理解度チェック】解説がわかりやすかった（5 択、単一選択）
- 【受講時間】短かった（5 択、単一選択）
- 【全体】内容を理解できた（5 択、単一選択）

選択肢：当てはまる、やや当てはまる、どちらともいえない、
やや当てはまらない、当てはまらない

- デジタル社会の消費者問題について理解が深まりましたか。（5 択、単一選択）※必須
選択肢：深まったく、やや深まったく、どちらともいえない、
あまり深まらなかった、深まらなかった
- 何か気付いた点等あれば自由にご記入ください。（自由記述）
(その他)
- 所属（例）企業名、XXX 部 XXX 課（自由記述）※必須
- 年代（5 択、単一選択）※必須
選択肢：20 代、30 代、40 代、50 代、その他（回答しない）
- 性別（3 択、単一選択）※必須
選択肢：男、女、その他（回答しない）

以下のように実証企業 4 社に対して e ラーニング使用後の所感を確認するためにアンケートを実施した。

表 5-27 研修後アンケート

	パナソニック 株式会社	明治安田生命保険 相互会社	株式会社ときわ	株式会社フジみらい
調査期間	令和3年12月22日(水) ～令和4年1月24日(月)	令和3年12月13日(月) ～令和4年1月7日(金)	令和3年11月30日(火) ～12月16日(木)	令和3年12月7日(火)
回答数	782名	1,134名	19名	10名
調査主旨	教材をより使いやすくブラッシュアップするために、e ラーニングに対する受講側の所感を伺う。			
調査方法	Microsoft Forms			

アンケート結果は以下のとおりである。

(a) 受講経験及び今回の e ラーニングの受講環境について

初めに、e ラーニング自体の受講経験や今回の受講環境についてアンケートを実施した。30 代以降の受講者のうち 70% 以上は過去に e ラーニングを受講したことがあると回答した。

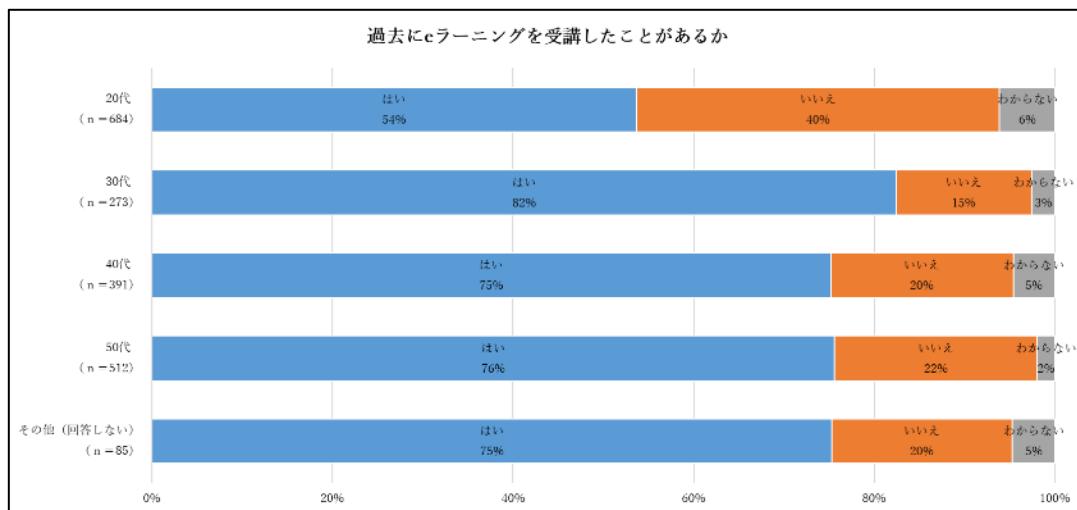


図 5-53 年代別 e ラーニング受講経験

全年代で共通して、今回の e ラーニングを会社にて受講した従業員が多いが、およそ 20 ～ 30% は会社以外で受講したと回答があった。

図 5-54 e ラーニングの受講場所の「その他」には、出先や通勤電車等での受講が含まれる。対面式の研修と比べて今回のような e ラーニングでの研修は、時間や場所に関係なく受講できるというメリットをいかすことができている。

タブレットや特にスマートフォンでの受講者もあり、受講場所の回答結果と併せて手軽に実施できることがわかる。

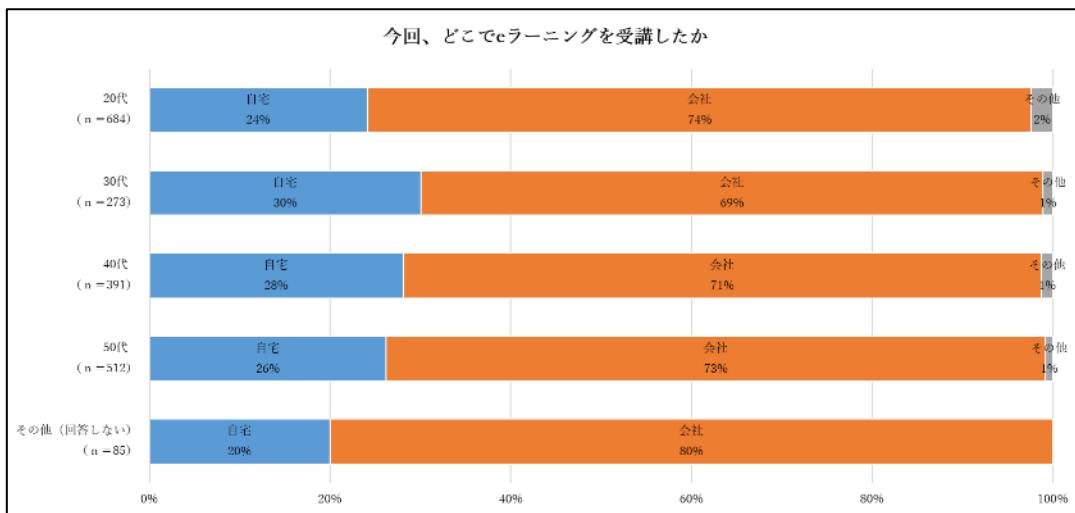


図 5-54 e ラーニングの受講場所

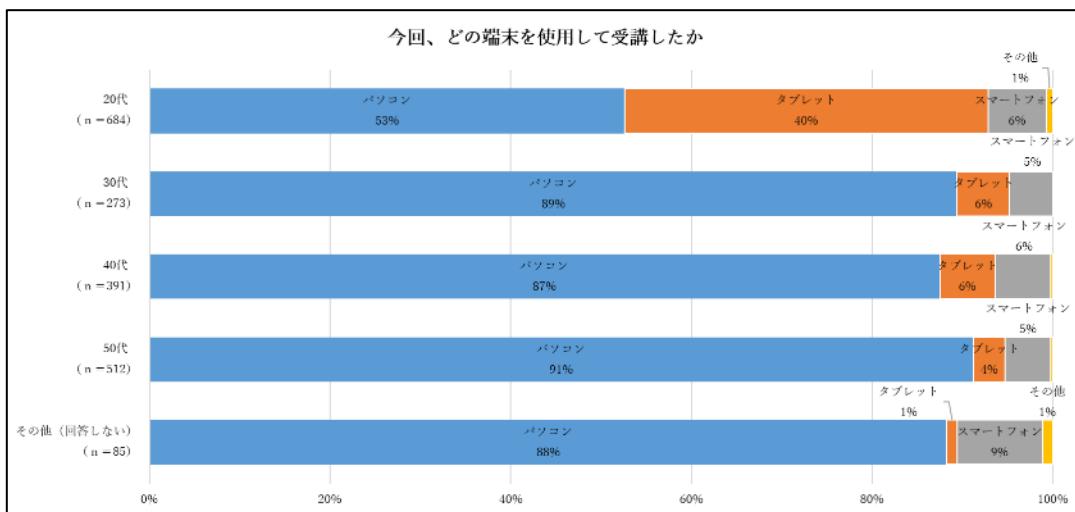


図 5-55 e ラーニングの受講端末

また、受講者の年代の割合は、明治安田生命保険相互会社で新入社員向けの初期研修で活用したため、20 代の受講割合が多いのではないかと考えられる。20~30 代と 40~50 代の割合が同程度であり、各世代の回答を満遍なく回収できた。

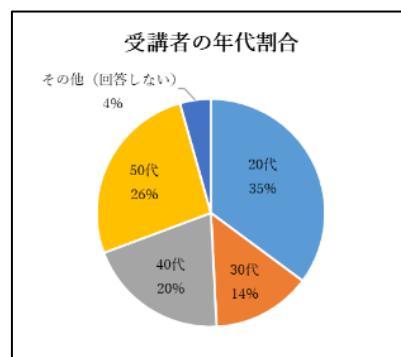


図 5-56 受講者の年代割合

(b) 各コンテンツについて

各テーマでのアンケート回答数は以下のとおりである。各テーマ内の項目で5問中2問以上回答があった受講者を集計した。

テーマ3は年代別であるため、他のテーマに比べて回答数が少なかった。テーマ1はeラーニングの画面上で一番上に表示されていることから受講者数が一番多かったと考えられる。企業担当者から各テーマで満遍なく受講するように連絡がなされていたこともあり、テーマ間で大きな偏りなくアンケート回答が集まった。

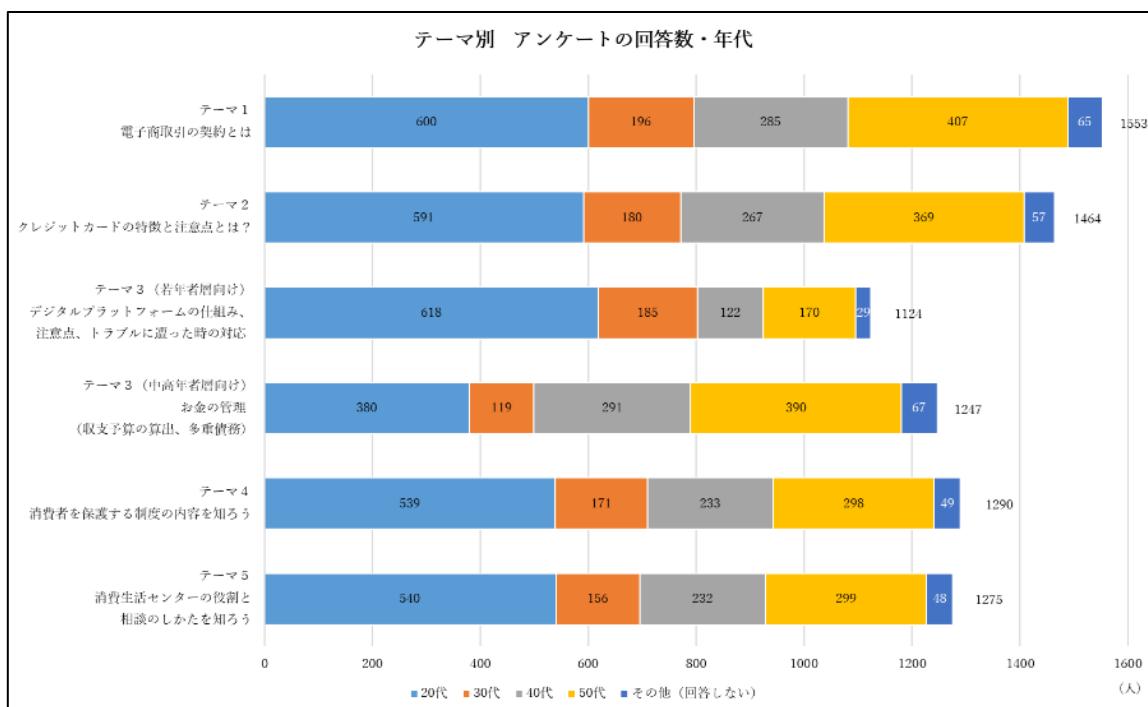


図 5-57 テーマ別 アンケート回答数及び回答者の年代

次に、テーマ1～5の動画及び理解度チェックについて、解説・説明のわかりやすさ、難易度、受講時間及び理解度の観点でアンケートを実施した。

① 動画内の説明のわかりやすさについて

「動画の説明がわかりやすかったか」という質問に対して、各テーマ5段階でアンケート結果を得た。

テーマ1、2、4及び5では年代ごとに大きな差は見られず、およそ90%の受講者が「当てはまる・やや当てはまる」と回答した。テーマ3では若年者層向けのテーマでは40代と50代、中高年者層向けのテーマでは20代が「当てはまらない」の割合が相対的に高かったが、80%ほどは「当てはまる・やや当てはまる」と回答しているため、動画内の説明はわかりやすいのではないかと考えられる。

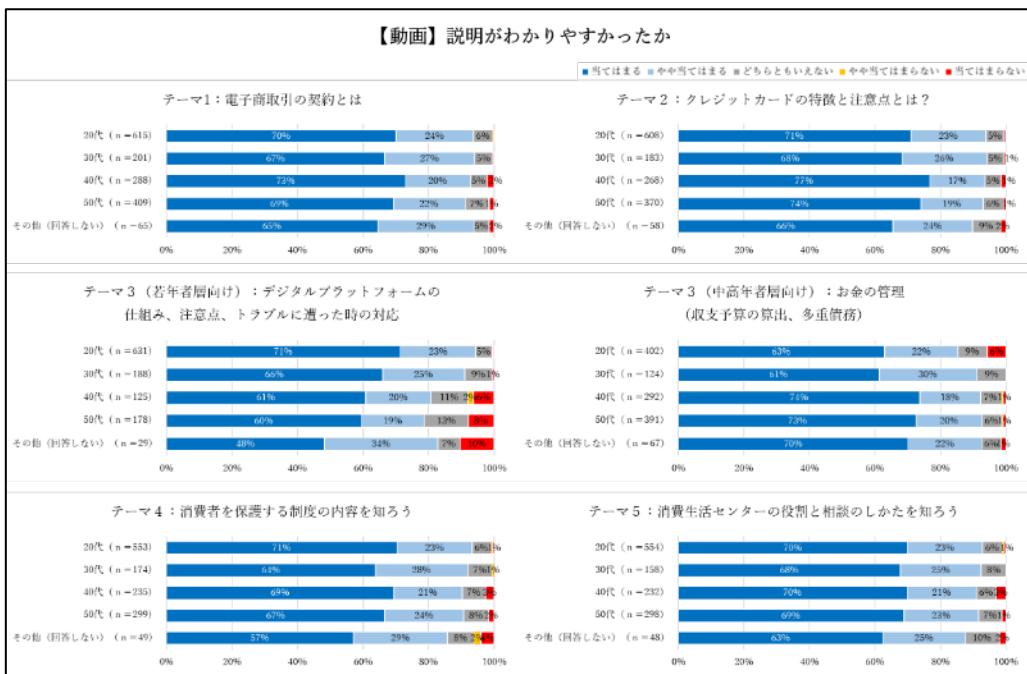


図 5-58 【動画】説明がわかりやすかったか

② 理解度チェックの難易度、解説のわかりやすさについて

「理解度チェックが簡単だったか」及び「理解度チェックの解説がわかりやすかったか」という質問に対して、各テーマ5段階でアンケート結果を得た。

どちらも、年代による大きな差は見られず、「簡単だったか」についてはおよそ80%、「解説のわかりやすさ」についてはおよそ90%の受講者が「当てはまる・やや当てはまる」と回答した。テーマ3（若年者層向け）では①【動画】説明のわかりやすさについて」と同様に、年代が上がるにつれて「当てはまる・やや当てはまる」と回答した割合が小さくなっている。理解度チェック自体を難しく感じた割合及び解説がわかりづらいと感じた割合が大きくなっている。ポジティブな回答が比較的少ないテーマ、年代でも多くの受講者は「簡単だった・やや簡単だった」、「解説がわかりやすかった・ややわかりやすかった」と感じていることがわかり、理解度チェックの難易度や解説は適したレベルだったのではないかと考えられる。

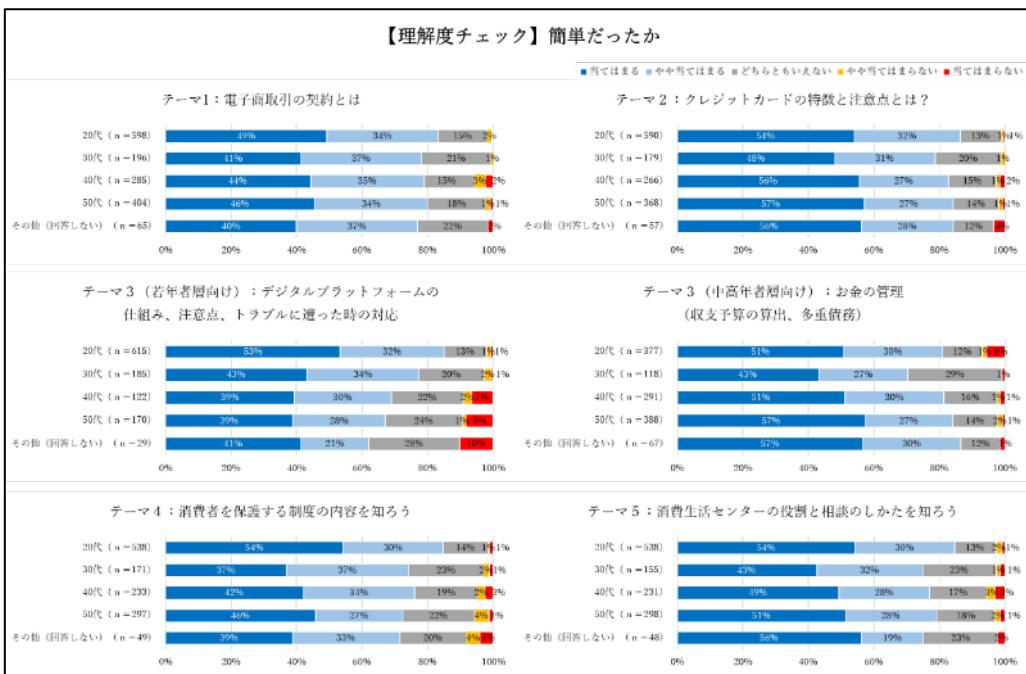


図 5-59 【理解度チェック】簡単だったか

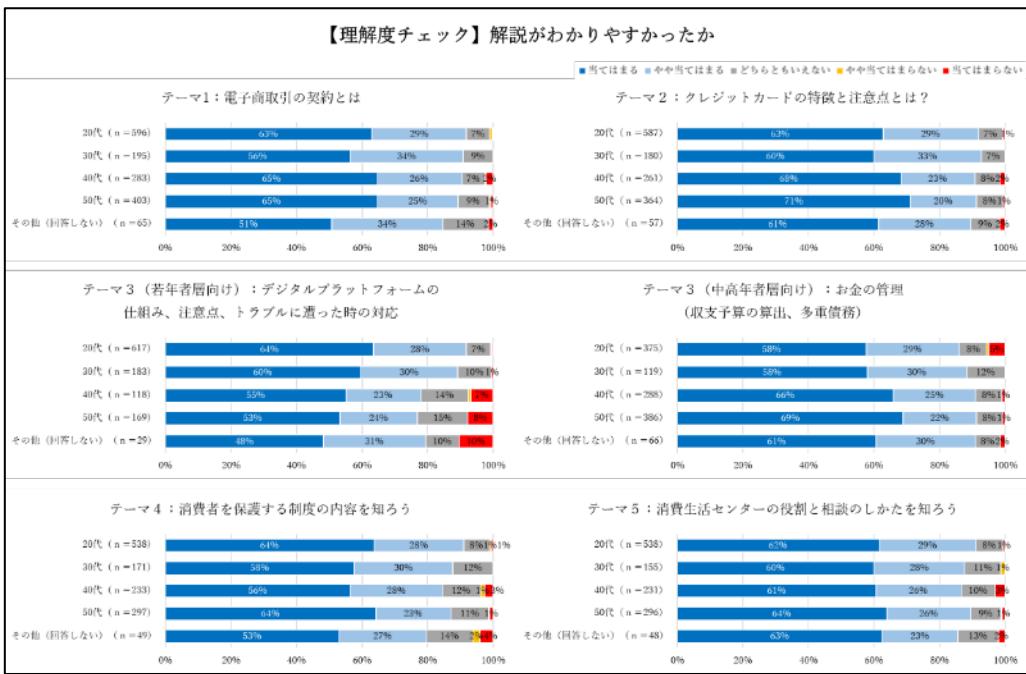


図 5-60 【理解度チェック】解説がわかりやすかったか

③ 受講時間について

「受講時間が短かったか」という質問に対して、各テーマ5段階でアンケート結果を得た。図 5-61 【受講時間】短かったかには、実証時点の動画の時間を記載している。

各テーマでおよそ半数の受講者は「当てはまる・やや当てはまる」と回答した。20代は動画の時間に関係なく、全テーマで短く感じた割合がやや多い傾向があった。全体的に、動画の長さと受講者の感じ方にあまり相関がないことがわかる。

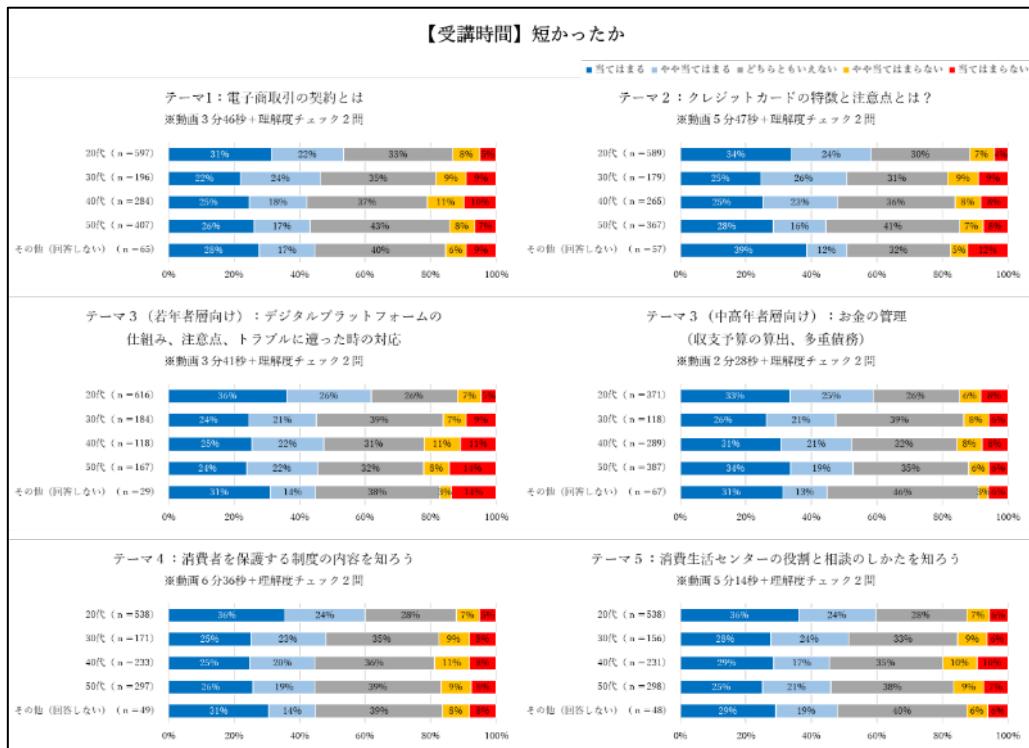


図 5-61 【受講時間】短かったか

(c) デジタル社会の消費者問題への理解度について

「内容を理解できたか」という質問に対して、各テーマ5段階でアンケート結果を得た。40代、50代の受講者はほとんどのテーマで90%以上が「当てはまる・やや当てはまる」と回答しているが、「若年者層向けテーマ3：デジタルプラットフォームの仕組み、注意点、トラブルに遭った時の対応」のみ40代が84%、50代が78%と、90%未満であった。また、他のテーマに比べて「やや当てはまらない・当てはまらない」と回答した受講者が多く、比較的の理解度が低いことがわかる。一方、20代の受講者は「中高年者層向けテーマ3：お金の管理（収支予算の算出、多重債務）」で「理解できなかった（やや当てはまらない・当てはまらない）」と回答した割合が他のテーマと比較すると高い。

また、30代の受講者は各テーマで「やや当てはまらない・当てはまらない」と回答した人がいなかった。

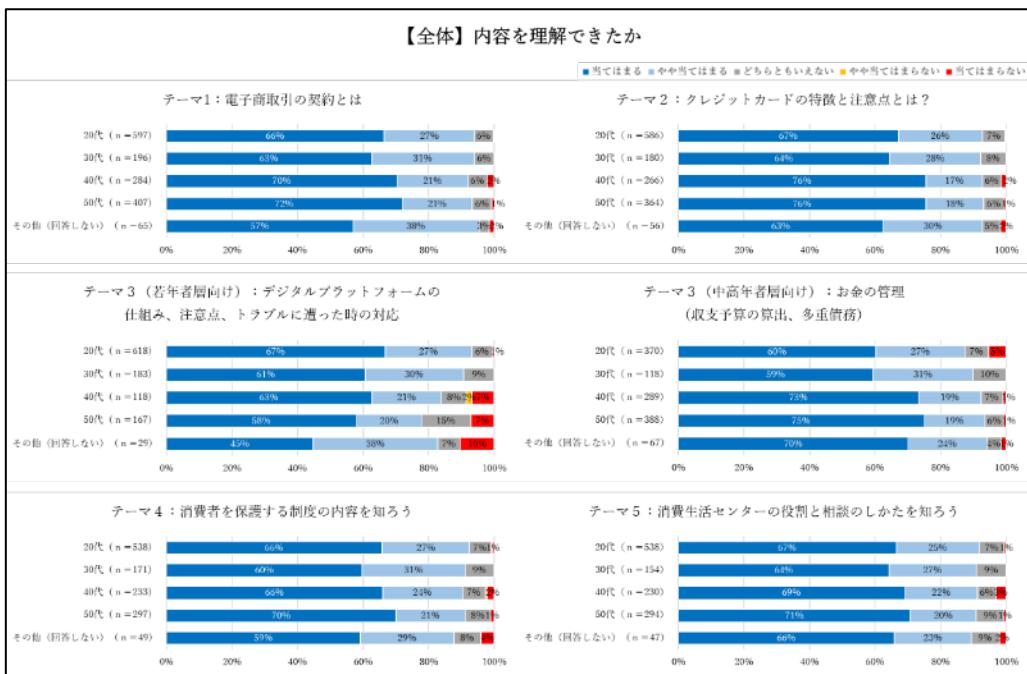


図 5-62 テーマ別 理解度比較

デジタル社会への消費者問題について理解が深まったかを 5 段階のアンケートを実施し、年代別に集計を行った。20 代の受講者が最もデジタル社会の消費者問題についての理解を深めていることがわかるが、年代による差異はあまり見られなかった。

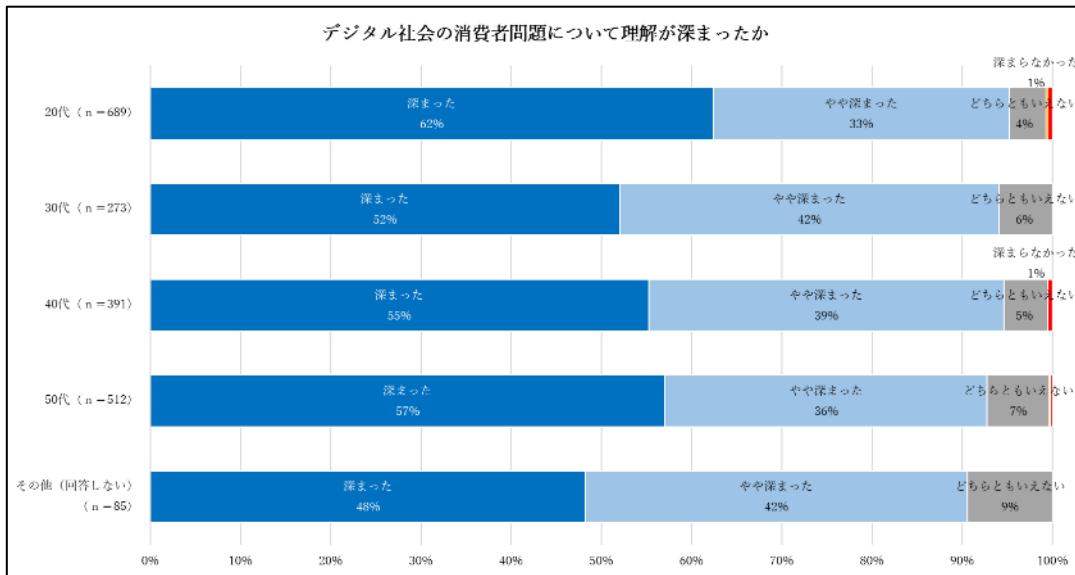


図 5-63 年代別 消費者問題についての理解の深まり

(d) その他 気付いた点

上記(a)～(c)での回答以外に、気付いた点があれば自由記述の回答を得た。主な意見を以下に示す。

① 感想

- ・ 時間も程良く、動画が鮮明かつ音声もはっきりしていて理解しやすい内容であった。
- ・ 正当なものを選ぶと思ったら、誤りを選択させる問題もあり、難易度も適切だったと思う。
- ・ 知っているようで定かではない内容や身近な問題をわかりやすく解説しており勉強になった。
- ・ どの教材もコンパクトでわかりやすいので、電車の中でも学習可能ありがとうございます。

② 改善点

- ・ 動画のサムネイル画像に再生ボタンマークがあるのであれば、サムネイルをクリックしても動画が再生されると良い。
- ・ デジタルプラットフォーム等聞きなれない言葉の場合、少々説明のテンポが速いと感じる方もいるかもしれない。
- ・ 問題回答後に、「おつかれさまでした、終了です」「トップに戻る」のようなボタンがなかったため、タブを消してトップに戻って良いのか画面遷移に戸惑いを感じた。
- ・ スマートフォン版の仕様ではなかったせいか、問題文等のレイアウトが見えづらかった。通勤、通学中に受講しやすい仕様だと良いと思った。
- ・ 共通の教材は「共通」でまとめて、「若年者層向け」と「中高年者層向け」はそれぞれ固有のコンテンツのみとした方がわかりやすくなると思った。

(B) 企業担当者ヒアリング

事前に企業担当者及び受講者向けに質問シートを作成し、ヒアリングまでに回答を得た。質問シート及び研修後アンケートの回答を参考に、以下の日程で企業研修の担当者にヒアリングを行った。

表 5-28 企業担当者ヒアリング概要

	パナソニック 株式会社	明治安田生命保険 相互会社	株式会社ときわ	株式会社フジみらい
実施日程	令和4年1月24日(月)	令和4年1月19日(水)	令和4年1月13日(木)	令和4年1月12日(水)
参加者	田中委員 他 担当者3名	坂田委員 他 担当者2名	担当者2名	担当者2名 他 受講者4名
調査主旨	担当者及び受講者側が研修を通して感じた率直な意見を伺い、教材のブラッシュアップにつなげる。			
調査方法	Microsoft Forms			

質問シートの主な内容は以下のとおりである。

【担当者向け】

通知する際に困ったこと、管理機能及びマニュアル、受講者の様子について

【受講者向け】

文字の大きさ・分量・ボリューム、操作性、ログイン機能、マニュアルについて

ヒアリングの主な内容は以下のとおりである。

(a) 担当者側の意見

① 受講者へ通知する際に困ったこと

- ・ 「若年者」、「中高年者」という分け方で年代が明確ではなかったため、年代を明確にし、分ける必要があった。(若年者層は30代以下、中高年者層は40代以上という分け方を行った)
- ・ 業務中で忙しく添付ファイルのガイドはなかなか見ないため、不明点などの打合せが想定以上にあり苦労した。

② マニュアルについて

- ・ 実際の画像が多く、文字より画像中心でわかりやすかった。

③ 管理機能について

- ・ 動画の視聴時間についても早送りでの視聴も可能であるため、実際にどれだけ正確に動画を観てもらえたかが把握しづらかった。
- ・ スマートフォンで受講履歴を閲覧できるようになれば良い。
- ・ ルームID発行時に確認画面の印刷ができるようになっているため、印刷したものを配布して進められた。

④ クイックマニュアルについて

- ・ EdgeまたはChromeで受講するよう案内を記載してほしい。
- ・ 右上の受講するボタンの強調表示してほしい。
- ・ 画面が小さく文字が読みづらかったため、少し拡大をしたマニュアルを配布した。
- ・ 各イメージ画面に番号を追加すると、問合せの際も対応をしやすいと思う。

⑤ Internet Explorerについての問合せ、トラブル等

- ・ 入力が反応しないという間接的な問合せが多くあった。
- ・ 実際に現地端末を操作しに赴くこともあったため、IE関連についてがもう少しスムーズに解決できるとより良かった。

⑥ その他

- ・ 受講に一定の時間を設けたり勝手にダウンしたりするような形にしたほうが良いのではないかと思う。
- ・ ログインボタンが右上に小さくありわかりづらいため、もう少し大きくても良いのではないか。

(b) 受講者側の意見

① 操作性について

- ・ 動画を観てから理解度チェックに答えるという順序がわかりにくいため、画面上に順序がわかる表記があると受講しやすいと思う。
- ・ ログインできていないまま学習を進めていたため、「受講中」ボタンを大きくすると良い。
- ・ 動画のサムネイルを押しても再生されない。
- ・ 「トップページに戻る」ボタンがなく、受講後にそのままブラウザを閉じて良いのか悩んだ。
- ・ 自身のログイン状況がわかりづらかった。ログイン前は、「受講する」という文言よりも「受講をはじめる」の方がわかりやすいのではないか。
- ・ テーマごとに毎回ボタンを押してから動画、問題という流れよりも、「次へ」のようなボタンで進む方がスムーズだと思う。

② 文字の大きさや量、音量について

- ・ 全体的に好感触である。
- ・ 動画内のBGMと説明の音のバランスが良くなかった。

③ 難易度について

- ・ どちらかというと簡単だった。目的に沿って行うのであれば、今まで良いのかと思う。
- ・ もう少し問題数を増やし、2問ではなく5問ほどあってもいいのではないかと思った。

④ マニュアルについて

- ・ パソコンとスマートフォンでGUIに差がなくわかりやすかった。
- ・ 情報量が多かったため、簡潔であればより良い。

⑤ その他

- ・ 受講画面で5つのテーマをそのまま載せるのではなく、種類ごとの関連テーマ事で確認できる画面にした方がわかりやすいのではないか。

5.2.8 効果検証

成年向け実証研修におけるアンケート調査、ヒアリング等で集まった意見を基に、制作した教材の効果について考察を行った。

「テーマ3（若年者層向け）：デジタルプラットフォームの仕組み、注意点、トラブルに遭った時の対応」は、「【動画】説明がわかりやすかったか」「【理解度チェック】簡単だったか」「【理解度チェック】解説がわかりやすかったか」の項目で「やや当てはまらない・当てはまらない」と回答した割合が高かった。そのため全体の理解度もやや低めであった。本テーマの難易度が高く感じたようだが、受講時間への感じ方は他のテーマと差がないことがわかる。

また、「図5-62 テーマ別 理解度比較」でも見られたように、テーマごとに年代による理解度の差があった。特にテーマ3については対象の層向けに分けられているが、想定していない年代の受講者の理解度が少々低いという結果が見られた。動画、理解度チェックの難易度及

びわかりやすさも反対の層の受講者については他のテーマと比較するとネガティブな意見が少し多いことから、普段馴染みの少ない内容の方が受講者にとっては難しく感じるのではないかと考えられる。

これらの結果を踏まえて、教材をより良く効果的なものへ改善するため、有識者会議委員の指摘も踏まえつつ、教材改修を行った。教材改修については「6.2 教材改修」に記載する。

5.3 消費者向け情報配信

5.3.1 実証概要

主に徳島県内の消費者向けに、制作した動画の配信を行った。具体的にはケーブルテレビの担当者と打合せ及び説明会を実施し、動画配信の実施と二次元コードでのアンケート回答を得た。

また、特定非営利活動法人徳島県消費者協会（以下「徳島県消費者協会」という。）の消費生活相談員からも動画を視聴後、意見を得た。

実証の流れを「図 5-64 実証の流れ」に記載する。



図 5-64 実証の流れ

表 5-29

実証企業	所在地	実証対象人数
特定非営利活動法人 徳島県消費者協会	徳島市寺島本町西1丁目5番地 アミコビル東館7階	10名程度

「4 啓発用デジタル教材」にて制作した動画コンテンツをケーブルテレビにて配信し、消費生活相談員が視聴した後、内容についてのアンケートを実施することで、制作したコンテンツが消費者教育の啓発用デジタル教材として効果的な内容となっているか、調査・分析を行った。

5.3.2 システム構成

(1) 配信形態

消費者向け配信について、徳島県内のケーブルテレビネットワークを介して実施した。

(2) アンケート

制作したデジタル教材が効果的な内容となっているか調査・分析を行うため、動画配信後に Microsoft Forms にてアンケートを実施した。

アンケートの詳細については、「5.3.5 効果測定」に記載する。

5.3.3 配信動画

5分～15分枠で、各動画を満遍なく配信できるようローテーションを組み配信を実施した。対象の動画及び期間内での配信回数は以下のとおり。

表 5-30 ケーブルテレビでの配信動画及び配信回数

項目番号	動画	配信回数
1	電子商取引の契約とは	7
2	デジタルプラットフォームの仕組み、注意点、トラブルに遭った時の対応	6
3	CtoC取引と注意点	6
4	お金の管理（収支予算の算出、多重債務）	6
5	クレジットカードの特徴と注意点とは？	5
6	キャッシュレス決済の種類と仕組みを理解しよう	6
7	若者に多いトラブルについて	6
8	投資などのお金に関するトラブルや悪質商法について	6
9	定期購入トラブル	6
10	製品の安全性（通販による海外取引など）	6
11	消費生活センターの役割と相談の仕方を知ろう	7
12	消費者を保護する制度の内容を知ろう	7

5.3.4 実証配信

令和3年12月1日（水）～令和4年1月21日（金）の期間で、毎日5分～15分枠で、各動画を満遍なく配信できるようローテーションを組み、ケーブルテレビ視聴者向けに配信を実施した。配信期間に合わせてアンケートも実施した。

5.3.5 効果測定

ケーブルテレビでの配信動画の末尾のアンケート用二次元コードを介し、消費者から3件の回答を得た。

実際のアンケート内容は以下のとおりである。

1. 動画をご覧になった日付をご回答ください。(カレンダーから单一選択) ※必須
2. 性別（3択、単一選択）※必須
選択肢：男・女・その他（回答しない）
3. 年代（3択、単一選択）※必須
選択肢：～10代、20代、30代、40代、50代、60代～、その他（回答しない）
4. 動画の長さはどうでしたか？（5択、単一選択）※必須
選択肢：長かった、やや長かった、丁度良い、やや短かった、短かった
5. 動画は面白かったです？（5択、単一選択）※必須
選択肢：面白かった、やや面白かった、どちらともいえない、
あまり面白くなかった、面白くなかった
6. 動画はわかりやすかったです？（5択、単一選択）※必須
選択肢：わかりやすかった、ややわかりやすかった、どちらともいえない、
ややわかりづらかった、わかりづらかった
7. 動画は理解できましたか？（5択、単一選択）※必須
選択肢：理解できた、やや理解できた、どちらともいえない、
あまり理解できなかった、理解できなかった
8. デジタル社会の消費者問題について理解が深まりましたか。※必須
選択肢：深まったく、やや深まったく、どちらともいえない、
あまり深まらなかった、深まらなかった
9. 何か気付いた点等あれば、自由にご記入ください。（自由記述）

3件とも5分尺動画の感想で、「動画の長さは丁度よく、わかりやすく理解できた」と回答を得た。また、「デジタル社会の消費者問題について理解が深まった」と回答している。

(A) 相談員アンケート

動画教材のブラッシュアップを目的に、徳島県消費者協会にケーブルテレビでの配信動画の視聴及びアンケート回答を依頼し、21件の回答を得た。

実際のアンケート内容は以下のとおりである。

1. ご覧になった動画をご選択ください。
(Web ポータルサイトに表示されている順になっております。)（複数選択）※必須
選択肢：製品の安全性（通販による海外取引など）
定期購入トラブル
投資などのお金に関するトラブルや悪質商法について
若者に多いトラブルについて

- お金の管理（収支予算の算出、多重債務）
CtoC取引と注意点
デジタルプラットフォームの仕組み、注意点、トラブルに遭った時の対応
消費生活センターの役割と相談の仕方を知ろう
消費者を保護する制度の内容を知ろう
キャッシュレス決済の種類と仕組みを理解しよう
クレジットカードの特徴と注意点とは？
電子商取引の契約とは
インターネット広告の仕組みや注意
2. 動画の長さについてどのように感じましたか？（5択、単一選択）※必須
選択肢：長かった、やや長かった、丁度良い、やや短かった、短かった
 3. 動画は面白かったですか？（5択、単一選択）※必須
選択肢：面白かった、やや面白かった、どちらともいえない、
あまり面白くなかった、面白くなかった
 4. 動画はわかりやすかったですか？（5択、単一選択）※必須
選択肢：わかりやすかった、ややわかりやすかった、どちらともいえない、
ややわかりづらかった、わかりづらかった
 5. 動画は理解できましたか？（5択、単一選択）※必須
選択肢：理解できた、やや理解できた、どちらともいえない、
あまり理解できなかった、理解できなかった
 6. デジタル社会の消費者問題について理解が深まりましたか。（5択、単一選択）
選択肢：深まった、やや深まった、どちらともいえない、
あまり深まらなかった、深まらなかった
 7. 何か気付いた点等あれば、細かなことでも構いませんので自由にご記入ください。
(自由記述)
 8. 性別（3択、単一選択）※必須
選択肢：男・女・その他（回答しない）
 9. 年代（3択、単一選択）※必須
選択肢：～10代、20代、30代、40代、50代、60代～、その他（回答しない）
 10. 所属（自由記述）

2件以上回答があった動画「電子商取引の契約とは」及び動画「CtoC取引と注意点」についてのアンケート結果を以下に示す。また、動画時間については実証時点の所要時間を記載している。

① 動画「電子商取引の契約とは」（4分53秒）

動画のボリュームについて、「丁度良い」との回答が70%で最も多かったが、「面白かったか」という質問については、「どちらともいえない」という回答が50%で最も多かった。わかりやすさ及び理解しやすさについて、「わかりづらかった・あまり理解できなかった」又は「どちらともいえない」との回答もあった。

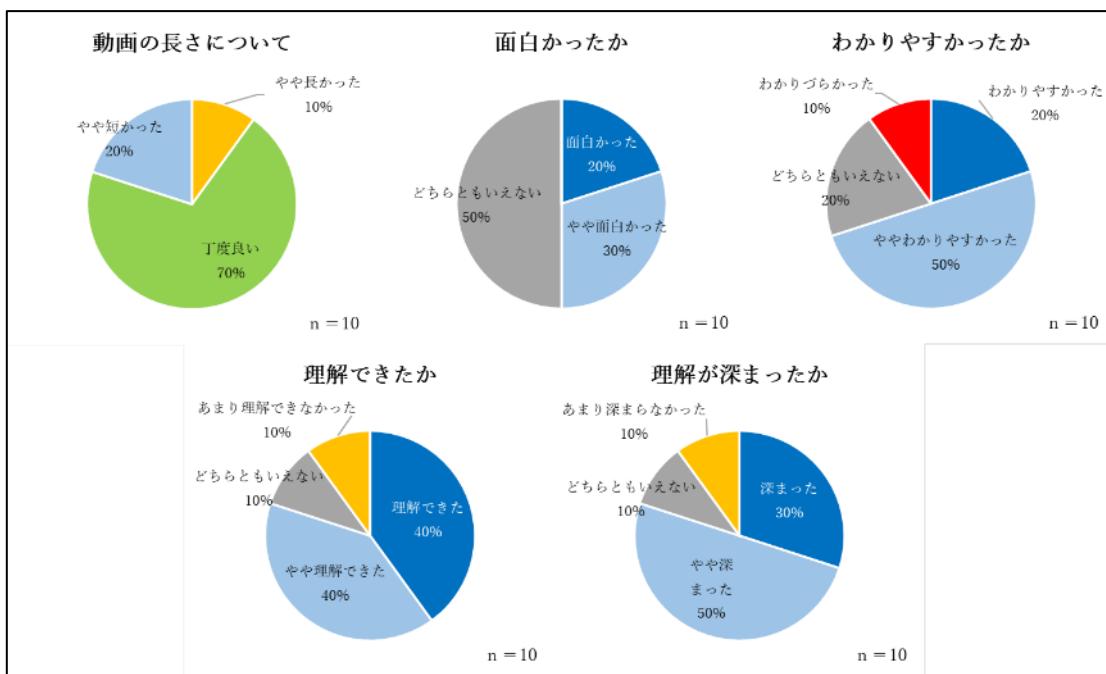


図 5-65 動画「電子商取引の契約とは」について

なお、その他の気付きの点を自由記述で照会した主な結果は以下のとおりである。

- ・ ネット通販では、消費者の一方的な都合で解約が出来ないことを伝え、慎重に契約するよう強調して欲しいと思いました。あと、返品特約が大切なことも。
- ・ 動画の最初の「詐欺に遭っちゃった～」は誤解を招くので、「トラブルに遭っちゃった～」の方がいいと思います。詐欺ではないので…
- ・ この動画の中に、ワンクリック詐欺を入れてしまうと、定期購入も詐欺だと勘違いしてしまうかもしれません。

② 動画「CtoC 取引と注意点」(3分27秒)

3分半ほどの動画で、長さについて、「丁度良い」と感じる相談員が多かった。「わかりづらかった、理解できなかった」といったネガティブな回答は見られなかった。動画の長さ及び難易度も適切で有効性があるのではないかと考えられる。

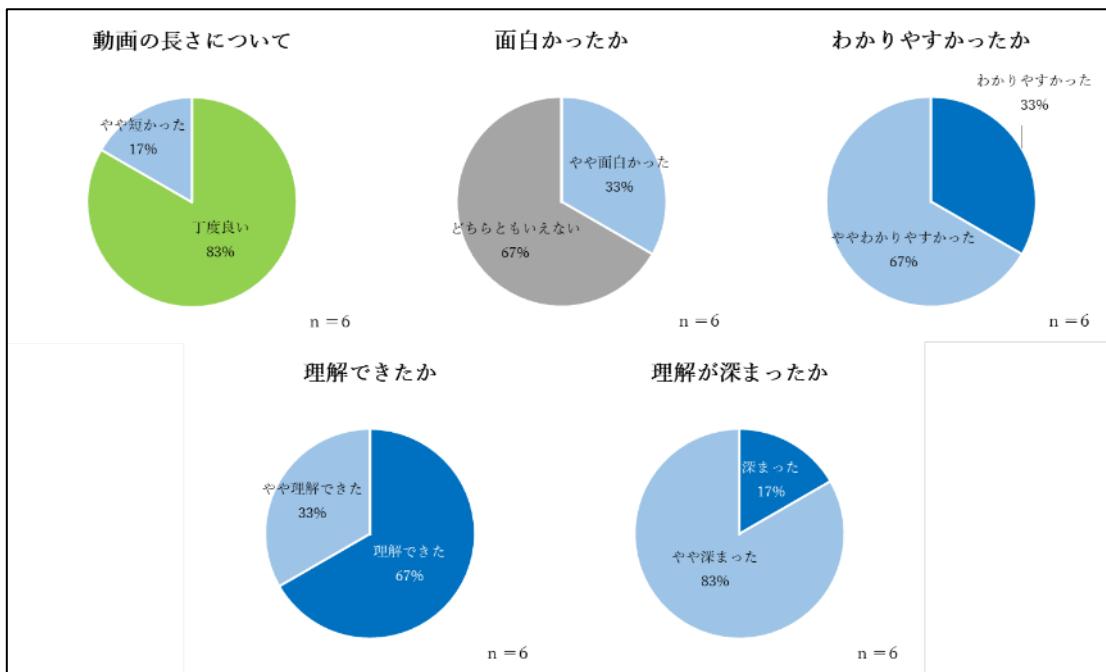


図 5-66 動画「CtoC 取引と注意点」について

なお、その他の気付きの点を自由記述で照会した主な結果は以下のとおりである。

- ・ 画面の中で、CtoC 取引（個人間取引）というようにカッコ書きを入れた方がわかりやすいと思いました。CtoC 取引という言葉に馴染みがないと思うので…
- ・ タイトルの CtoC が、まずわからないと思う。意味がわからないと見るきっかけにならないと思う。

上記の動画以外にも以下の動画について回答を得ており、全項目でポジティブな意見だった。

- ・ 定期購入トラブル
- ・ お金の管理（収支予算の算出、多重債務）
- ・ 若者に多いトラブルについて
- ・ 消費者を保護する制度の内容を知ろう
- ・ デジタルプラットフォームの仕組み、注意点、トラブルに遭った時の対応

5.3.6 効果検証

消費者向けのアンケートは任意回答としていたため回答者は少なかったが、回答はおおむねポジティブな回答であった。

相談員向けアンケートについては、消費者にはあまり馴染みのない用語が出てくるため、もう少しわかりやすい表現にしては、といったコメントが多くあった。動画そのものについては、相談員の立場から見ても理解しやすくわかりやすい内容であることがアンケート結果からもわかるが、専門知識を持たない消費者向けの教材とするのであれば、よりわかりやすい言い回しを再考し改善した方が良いと言える。

5.4 ヘルプデスク

実証期間中、問合せ窓口としてヘルプデスクを開設し隨時対応を行った。
各実証における問合せ件数と内容は以下のとおりである。

表 5-31 ヘルプデスク問合せ内容

実証区分	件数	問合せ内容	対応結果
高等学校	1 件	<ul style="list-style-type: none"> 自分のタブレットで web ポータルサイトにログインしてみたところ、TOP ページは表示されるがメニューなどが表示されず、教材を確認できない（城東高校） 	<ul style="list-style-type: none"> 使用環境を確認したところ、ブラウザは Internet Explorer とのことだったため、Edge の利用を案内した。その後、Edge にて問題なくメニューを表示し、教材を確認できたとのこと。 ⇒ 対応完了
成年消費者	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ルーム ID の発行ボタンが押せない（明治安田生命保険（相）） 	<ul style="list-style-type: none"> 使用環境を確認したところ、社内推奨ブラウザが Internet Explorer とのことだったため、Edge または Google Chrome の利用をご案内。社内で利用ブラウザ等制限がかかっているため、IE 以外もご利用いただけるよう社内調整いただき、機能制限等も解除する事で無事に受講可能となった。 ⇒ 対応完了

※ 成年消費者向け研修において、他に「実証期間延長依頼」と「アンケート回答時に送信ボタンが押せない」といった問合せがあった。もっとも本来の実証運用とは異なる内容の問合せであったため、詳細は割愛する。

6 品質評価及び教材改修

これまでの検証結果から、制作したデジタル教材の品質評価と、そこから洗い出された課題や、教材改修が必要と判断した部分について記載する。

6.1 品質評価

高校生向けと成年向け、どちらのアンケートにおいても、総じて「わかりやすかった」、「勉強になった」、「理解できた」という回答が多く、本事業で制作したデジタル教材そのものの評価は高かったと言える。（本実証で得た各教材の内容、ユーザビリティ、機能/非機能要件に対するフィードバックについて、詳細は別紙「【有識者会議】意見一覧」、「【分科会】意見一覧」を参照）

【高等学校における実証授業】

高等学校での実証授業で用いたアプリについては、デジタル教材ならではのアプローチで体験学習ができるため、教師、生徒共に好評であった。また、動画については、一部「少々テンポが早い」、「長い」等の意見もあったが、実証授業では生徒は大変興味深く視聴している様子だった。アンケート結果を見ても、1～4時間目のどの授業でも動画は50%以上「面白かった」と回答があり、動画を用いたすべての授業で「良かったと感じた教材」は動画が1位となっている。このことからも、生徒が動画に興味を持って視聴しており、本事業の目的としていた「消費者教育の入口となる部分を学習する」という点について、まずは生徒に興味を持ち、知ってもらうことにつながる教材となったと考えられる。

また、今後の更なる改善のために、有識者会議委員より以下の意見が挙がった。

- ・ アンケート回答の「面白かった」や「どちらともいえない」について更に深掘りし、具体的にどこがどのように面白かったか、どうしてどちらともいえなかったかを分析して、教材のブラッシュアップにつなげると良いのではないか
- ・ アンケート回答の「わかりやすさ」と「理解できたか」という2つの視点の分析もすべきである

これらについては今後の検討課題として記載する。

【成年消費者向け研修】

成年消費者向けのeラーニング研修においては、画面表示や操作性についてはおおむね問題なかった、との回答が多かった。企業担当者へのヒアリングにおいては、ログイン機能及び管理機能は4社とも「必要である」と回答しており、社員が多い企業ではより必要性が高いとの回答があった。改善要望が集中したのもログイン機能や管理機能であり、今後広く教材を普及していくためには機能改善が必要と考えられる。（具体的な改善の意見については別紙「【有識者会議】意見一覧」、「【分科会】意見一覧」参照）

また、eラーニングとしての難易度や問題数に対しても改善要望があった。今回は、「基本的な知識や能力を身に付けること」を目的とした啓発教材として、受講者が基礎知識を確認できる教材としていた。しかし、将来において、教材をブラッシュアップし、受講者にとって使い

勝手の良い教材を目指すのであれば、今回のような年代別テーマで分けるのではなく、前提知識等を考慮した「ベーシック」、「アドバンス」のような難易度別の教材を用意しても良いのではないか、という有識者委員の意見もあった。

【消費者向け情報配信】

消費者向け情報配信においても動画についての評価は高く、3分半ほどの動画では長さについて「丁度良い」と感じる相談員が多かった。しかし、5分ほどの動画になると、長く感じたり、短く感じたりと、人によって異なることがわかっており、これらの意見を踏まえてより適切な動画の長さを検討する必要があると考えられる。

また、用語についてのコメントが多くあり、消費者にとって馴染みのない用語については、再度見直しが必要な部分があることがわかった。

6.2 教材改修

検証における評価を受けて、再度教材の見直しを行い、改修を行った。

以下、主な改修ポイントについて記載する。

【高校生向け】

- ・ デジタル教材を利用する際、教師がどの教材を利用すべきか迷ってしまうのではないか
⇒教師用指導手引書の記載内容の見直し
- ・ 当初の想定よりも時間が掛かるのでポイントを絞った説明や授業構成の取捨選択が必要
⇒「基礎」「発展」のカテゴリ分けの提案、教師用指導手引書への追記
- ・ 教材をダウンロードした際、ファイル名が指導手引書順に並ぶようになると助かる
⇒ファイル名を見直し、ダウンロード時に指導手引書記載順にソートされるように変更
- ・ 高校生向け教材としては少々用語が難しいのではないか
⇒難しい用語等はわかりやすい文言へ修正
- ・ 他 細かい文言修正、レイアウト調整等ご指摘箇所への対応等

【成年消費者向け】

- ・ ログイン機能において、どこからログインすれば良いか迷う
⇒「受講する」ボタンの配置とサイズを再度調整
- ・ e ラーニング動画の BGM の音量をもう少し下げて欲しい
⇒動画の BGM 音量を下げる方向で再度調整
- ・ 全問題に回答後、「終了」の表示や「トップに戻る」等の誘導がない
⇒全問題が終了した旨のメッセージを最後に表示するよう修正
- ・ 他 細かい文言修正、レイアウト調整、画面遷移における改善等、ご指摘箇所への対応等

【全体】

- web ポータルサイトの各コンテンツの配置について、利用者の立場でどこをクリックすれば良いかわかりやすい配置に見直して欲しい
⇒レイアウトを見直し、利用者に動線がわかりやすくなるよう再度調整
- ※ 消費者向け情報配信にて指摘があった内容については、検討の上、高校生向け、成年消費者向けの改修にて吸収し対応した。

これらの改修について対応し、最終版とした教材一覧を図 6-1 教材一覧（最終）に示す。

●教材の一覧（全体像）

【高校生向け】

テーマ	教材No.	教材名
【1 時限目】 情報の収集・比較と意思決定	1-1_text	学習目標_自分が主役の消費生活=主体的な意思決定の力を磨くには?
	1-2_app	チェックしよう！「だまされやすさ」の心理傾向
	1-3_text	意思決定のプロセスを理解しよう
	1-4_text	主体的な意思決定ががられる場面を知ろう
	1-5_movie	インターネット広告の仕組みや注意点とは?
	1-6_work	契約前に必ずしよう！～情報の収集と比較～
【2 時限目】 購入と契約	2-1_text	学習目標_デジタル時代の購入方法とルールを理解しよう
	2-2_text	契約の基礎を確認～なぜ返品できたり、できなかつたりするの？～
	2-3_movie	電子商取引の契約とは
	2-4_app	デジタル取引を体験しよう
	2-5_work	まとめよう！ネット取引トラブルを防ぐための注意点
【3 時限目】 支払いと信用取引	3-1_text	学習目標_支払方法の特徴と仕組みを理解しよう
	3-2_movie	クレジットカードの特徴と注意点とは?
	3-3_movie	キャッシュレス決済の種類と仕組みを理解しよう
	3-4_work	説明しよう！自分などの決済をどう使う？
【4 時限目】 消費者の権利と責任	4-1_work	振り返ろう！契約の基礎知識
	4-2_text	学習目標_契約後に生じた問題、どう対応すればよいかどうか？
	4-3_movie	消費者を保護する制度の内容を知ろう
	4-4_text	トラブルから消費者を守る制度を理解しよう
	4-5_work	考えよう！トラブル事例の対応方法
【5 時限目】 生涯を見越しに経済の管理	4-6_movie	消費生活センターの役割と相談の仕方を知ろう
	4-7_text	理解を深める自習教材～消費者トラブルのない社会に向けて～

テーマ	教材No.	教材名
【5 時限目】 生涯を見越しに経済の管理	5-1_text	学習目標_限のあるお金を、人生で最大限に活用するには？
	5-2_text	生活設計_収入と支出、家計の管理方法を理解しよう
	5-3_work	マネープランシートを作成し、生活設計を学ぼう！
	5-4_text	保険とローンを理解しよう～30代以降の生活設計～
	5-5_app	ローン利用をシミュレーションしよう
	5-6_work	学習のまとめ
	5-7_app	クイズで確認_消費生活の基礎知識
	5-8_app	今後の10年のライフプランを体験しよう

【成年向け】

種類	教材No.	教材名
eラーニング	6-1_app	eラーニング① 若年者層向け
	6-2_app	eラーニング② 中高年層向け
動画 (高校生/成年共通)	6-3_movie	若者に多いトラブルについて
	6-4_movie	投資などのお金に関するトラブルや悪質商法について
	6-5_movie	定期購入トラブル
動画 (成年向け)	6-6_movie	デジタルプラットフォームの仕組み、注意点、トラブルに遭った時の対応
	6-7_movie	CtoC取引と注意点
	6-8_movie	お金の管理 (収支予算の算出、多重債務)
	6-9_movie	製品の安全性 (通販による海外取引など)

図 6-1 教材一覧（最終）

7 まとめ、今後の課題・提言

本事業では、「消費者保護のための啓発用デジタル教材を活用した調査実証事業」として、各世代に合わせた啓発用デジタル教材の制作及び実証を行い、その教材の有効性及び改善点に関する調査を行った。

7.1 事業まとめ

本事業では、高校生の授業の中や、家庭学習などで利用できる教材と、社会人が企業内研修などで利用できるデジタル学習教材を制作した。教材の種類としては、高校生向けに「動画教材」、「アプリケーション教材」、「テキスト教材」、「ワークシート教材」、企業向けに「動画教材」、「アプリケーション教材」、「e ラーニング教材」を準備し、高等学校及び企業において実証を行い、一人でも多くの人に学びの今日を持っていただき、消費者被害から守れるように教材のブラッシュアップを行った。

本事業としては、実証及び教材制作で終了することとなるが、制作した教材は本報告書と共に消費者庁ウェブサイトに掲載する（一部のコンテンツは、追って掲載する）。なお、令和4年度は、当該教材を教育現場等で活用いただくための普及啓発を予定している。

7.2 今後の課題・提言

教材及び啓発手法における今後の課題・提言について、有識者会議委員の指摘等を以下に記載する。

① 教材について

- ・ 【提言】高校生向け教材では、学習内容の振り返りや理解度の確認ができるようなワークシートも用意したほうが良いのではないか
- ・ 【課題】アンケート回答の「面白かった」や「どちらともいえない」について更に深掘りし、具体的にどこがどのように面白かったか、どうしてどちらともいえなかったかを分析して、教材のブラッシュアップにつなげると良いのではないか
- ・ 【課題】アンケート回答の「わかりやすさ」と「理解できたか」という2つの視点の分析もすべきである
- ・ 【提言】成年向け教材について、年代で分けるのではなく前提知識等を考慮してはどうか（例：アドバンス/ベーシック）
- ・ 【提言】教材自体について、難易度を3段階ぐらいに設ける
- ・ 【課題】教材を若年者層、中高年者層と分けたが、それぞれの年代に必要な知識と合致していない可能性があるため再度検討する必要がある
- ・ 【提言】成年向け教材について、若年者層/中高年者層等の記載があるが年代の定義を書いた方が良い

- ・ 【課題】ログインのしやすさ、ボタンの大きさ、受講中の表示の大きさなどのユーザビリティを再考すると良い

② 教材の利用について

- ・ 【提言】自社で行う際は、簡易マニュアル等があるとより良い
- ・ 【提言】「デジタル社会の消費者問題」とは何か、解説を追加すると良い
- ・ 【課題】本教材に関する担当部署を明確化するとともに、ポータルサイトに問合せ先を明記するなど、利用ユーザーからの問合せ先があると良い
- ・ 【課題】準備について不足していると思われる情報は指導手引書に追記しておくと良い

③ 今後の展開について

- ・ 【提言】良い教材ができたので、とにかく多くの高等学校や職場などで使ってもらえるよう、普及に努めることが何よりも重要である
- ・ 【課題】本事業で制作した web ポータルサイトのユーザビリティの向上と共に、周知を広め認知度を拡大していく必要がある
- ・ 【課題】教材を実際に使用し、その効果を検証した上で改善していくことが必要である
- ・ 【課題】教材をどう展開していくか、というところまで考える必要がある。企業向け、消費者向けそれぞれに対し、消費生活センターや、地方行政などを通じて啓発活動、材料提供、講習を行うことも必要であり、各企業にどう教材を使ってもらうか、といった仕組みについても落とし込んでいく必要がある

8 参考資料

8.1 有識者会議概要

有識者会議のスケジュールと議事次第を表 8-1、表 8-2、表 8-3、表 8-4 に示す。

表 8-1 第 5 回有識者会議

実施日	令和 3 年 6 月 28 日 (月) 16:00~18:00
場所	消費者庁新未来創造戦略本部 会議室 (ウェブ会議)
出席者	(委員) ※敬称略 坂本 有芳 (座長)、阿部 千明、稻倉 典子、齋藤 良和、坂倉 忠夫、 坪田 郁子、西尾 勇気、西村 陽子、阪東 哲也、山本 尚子 (オブザーバー) 徳島県 教育委員会 学校教育課 徳島県立総合教育センター GIGA スクール推進課 徳島県 消費者政策課 文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 消費者庁 消費者教育推進課 (事務局) 消費者庁新未来創造戦略本部 (消費者政策課) NTT ラーニングシステムズ
議事次第	1. 開会 2. 令和 3 年度の開発方針について 3. 分科会からの検討状況報告 4. 閉会

表 8-2 第 6 回有識者会議

実施日	令和 3 年 11 月 8 日 (月) 15:00~17:00
場所	消費者庁新未来創造戦略本部 会議室 (ウェブ会議)
出席者	(委員) ※敬称略 坂本 有芳 (座長)、齋藤 良和、坂倉 忠夫、坪田 郁子、 西尾 勇気、西村 陽子、阪東 哲也、山本 尚子 (オブザーバー) 徳島県 教育委員会 学校教育課 徳島県立総合教育センター GIGA スクール推進課 徳島県 消費者政策課 文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 消費者庁 消費者教育推進課 (事務局) 消費者庁新未来創造戦略本部 (消費者政策課) NTT ラーニングシステムズ
議事次第	1. 開会 2. デジタル教材の制作状況について 3. デジタル教材の実証計画及び検証計画について 4. 分科会からの検討状況報告 5. 閉会

表 8-3 第7回有識者会議

実施日	令和4年2月7日（月）10:00～12:00
場所	消費者庁新未来創造戦略本部 会議室（ウェブ会議）
出席者	<p>（委員）※敬称略 坂本 有芳（座長）、阿部 千明、稻倉 典子、齋藤 良和、坂倉 忠夫、 坪田 郁子、西尾 勇気、西村 陽子、阪東 哲也、山本 尚子 （オブザーバー） 徳島県 教育委員会 学校教育課 徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 徳島県 消費者政策課 文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 消費者庁 消費者教育推進課 （事務局） 消費者庁新未来創造戦略本部（消費者政策課） NTT ラーニングシステムズ </p>
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 開会 高校生向け実証について 実証検証報告 コンテンツ制作状況 報告書素案について 令和3年度有識者会議スケジュールについて 閉会

表 8-4 第8回有識者会議

実施日	令和4年3月11日（金）10:00～12:00
場所	消費者庁新未来創造戦略本部 会議室（ウェブ会議）
出席者	<p>（委員）※敬称略 坂本 有芳（座長）、阿部 千明、稻倉 典子、齋藤 良和、坂倉 忠夫、 坪田 郁子、西尾 勇気、西村 陽子、阪東 哲也、山本 尚子 （オブザーバー） 徳島県 教育委員会 学校教育課 徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 徳島県 消費者政策課 文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 消費者庁 消費者教育推進課 （事務局） 消費者庁新未来創造戦略本部（消費者政策課） NTT ラーニングシステムズ </p>
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 開会 デジタル教材の報告について 分科会からの報告 報告書（案）について その他 閉会

8.2 分科会概要

分科会のスケジュールと議事次第を表 8-5、表 8-6、表 8-7、表 8-8 に示す。

表 8-5 第1回分科会

実施日	令和3年6月21日（月）15:00～17:00
場所	消費者庁新未来創造戦略本部 会議室（ウェブ会議）
出席者	<p>（委員）※敬称略 坂倉 忠夫（座長）、阿部 千明、坂田 祥治、立石 聰明、田中 義雄、 坪田 郁子、阪東 哲也 （オブザーバー） 徳島県 消費者政策課 文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 消費者庁 消費者教育推進課 （事務局） 消費者庁新未来創造戦略本部（消費者政策課） NTT ラーニングシステムズ</p>
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 開会 概要説明 企業の取組について 成年向け教材開発の実証計画について 閉会

表 8-6 第2回分科会

実施日	令和3年11月1日（月）15:00～17:00
場所	消費者庁新未来創造戦略本部 会議室（ウェブ会議）
出席者	<p>（委員）※敬称略 坂倉 忠夫（座長）、阿部 千明、坂田 祥治、立石 聰明、田中 義雄、 坪田 郁子、阪東 哲也 （オブザーバー） 徳島県 消費者政策課 文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 消費者庁 消費者教育推進課 （事務局） 消費者庁新未来創造戦略本部（消費者政策課） NTT ラーニングシステムズ</p>
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 開会 デジタル教材（成年向け教材）の制作状況について デジタル教材の実証計画について デジタル教材の実証検証について 閉会

表 8-7 第3回分科会

実施日	令和4年2月7日（月）13:00～15:00
場所	消費者庁新未来創造戦略本部 会議室（ウェブ会議）
出席者	<p>（委員）※敬称略 坂倉 忠夫（座長）、阿部 千明、坂田 祥治、立石 聰明、田中 義雄、 坪田 郁子、阪東 哲也 （オブザーバー） 徳島県 消費者政策課 文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 消費者庁 消費者教育推進課 （事務局） 消費者庁新未来創造戦略本部（消費者政策課） NTT ラーニングシステムズ</p>
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 開会 成年向け実証について 実証検証報告 コンテンツ制作状況 報告書素案について 令和3年度有識者会議分科会スケジュールについて 閉会

表 8-8 第4回分科会

実施日	令和4年3月8日（火）10:20～12:30
場所	消費者庁新未来創造戦略本部 会議室（ウェブ会議）
出席者	<p>（委員）※敬称略 坂倉 忠夫（座長）、阿部 千明、坂田 祥治、立石 聰明、田中 義雄、 坪田 郁子、阪東 哲也 （オブザーバー） 徳島県 消費者政策課 文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 消費者庁 消費者教育推進課 （事務局） 消費者庁新未来創造戦略本部（消費者政策課） NTT ラーニングシステムズ</p>
議事次第	<ol style="list-style-type: none"> 開会 デジタル教材（成年向け教材）の報告について 報告書（案）について その他 閉会